

年報

—昭和56年4月～昭和57年12月—

VOL. 1

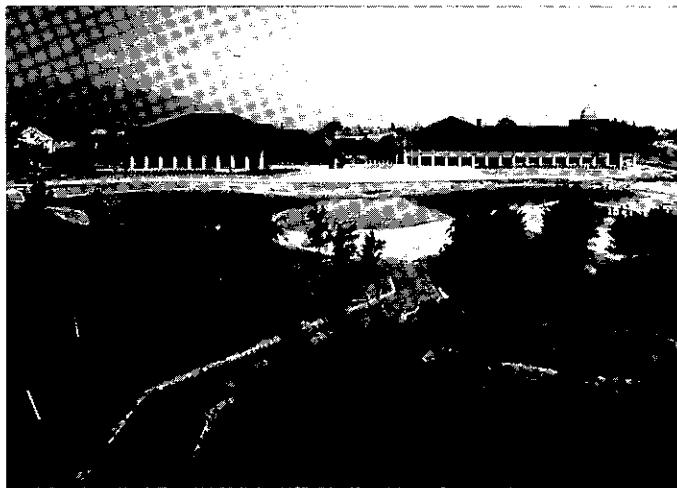
昭和58年1月

長野市立博物館

正 誤 表

序	8 行	人生 → 生活
"	17 行	日本建築学賞 → 日本建築学会賞
P 1	33 行	学芸員(解説員)を → 9月1日学芸員(解説員)を
P 7	33 行	遺物の写真 → 遺物の写真撮影
P 8	20 行	小島忠雄 → 小島忠男
P 9	2 行	木舟 清 → 木船 清
P 10	33 行	あとかたづけ → あとかたづけ
P 11	写真説明	「なにわの世界」 → 「はにわの世界」
P 12	26 行	宮島克己氏 → 宮島克巳氏
"	34 行	12月30 → 12月30日
P 13	4 行	実物 1,037 → 実物 1,048
"	10 行	計 1,037 → 計 1,048
"	11 行	計 41 → 計 42
P 15	21 行	特種 → 特殊
P 17	28 行	制札 → 制札
P 18	8 行	鼻山宇喜知氏 → 鳥山宇喜知氏
P 32	35 行	<変光星 δ ^{である} > → <変光星 δ ^{アルタ} >
P 33	28 行	ヒューメイン彗星 → ヒューメイソン彗星 ハイタ シグマ δ ^{エーテル} δ
P 34	15 行	直経 → 直径
"	30 行	ズームスライド投影機 → ズームスライド投影機
P 40	19 行	宮島克己 → 宮島克巳
P 41	22 行	公聴課 → 広聴課
P 43	左9行	山頬川寒湛水之図 → 山頬川塞湛水之図
P 47	左13行	大林 港 → 小林 港
P 59	右29行	柳島太目録 → 知行目録
P 64	7 行	計 → 計 41,981
P 65	最終行	(3) 職員手当等 → (3) 職員手当等 11,179
P 66	35 行	10月 167 → 10月 67
"	最終行	合計 115 → 合計 156
P 67	"	合計 5373 → 合計 373
P 80	23 行	溶石 → 溶岩
P 81	21 行	興隆期 → 隆盛期
P 82	10 行	身近かな存在 → 身近な物

長野市立博物館



博物館全景
公園の林をぬけると眼前に大屋根が広がります。北信の山並にとけ込み、青空がよく似合う建物です。

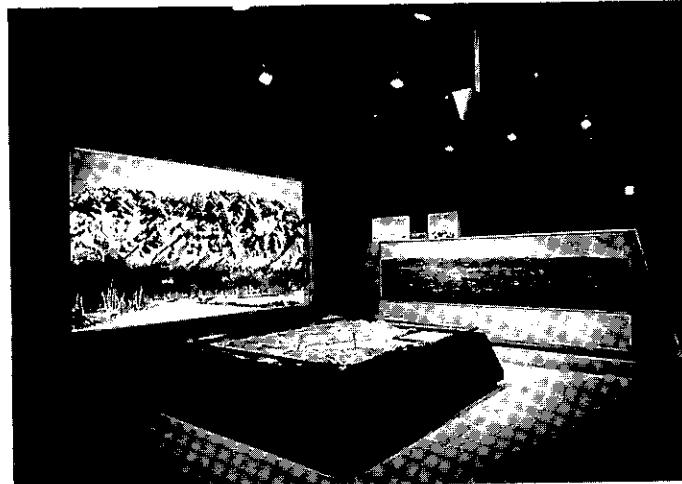


場「Field」
多田美波作、黒御影石と
アクリル材の調和したこの
彫刻は広間に核を作っています。



豊かな広がりを感じさせる日本庭園は、屋内にまばゆい光をなげかける道具立てであります。

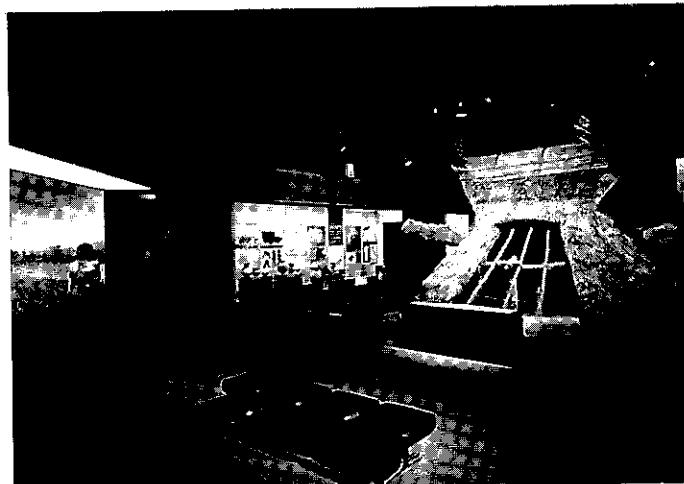
常設展示室



私達の郷土「長野盆地」は
どのようにしてできたので
しょうか。



大地ができ上ってから後
も地震・洪水・地すべり等
で、その自然は刻々と変容
し続け、やがて出現する人
類に与えた影響も大きい。
地震体験室では、実際の地
震波を組み込み再現してい
ます。



千曲川流域に最初のム
ラ・クニができ、やがてシナ
ノ(科野)園に発展します。



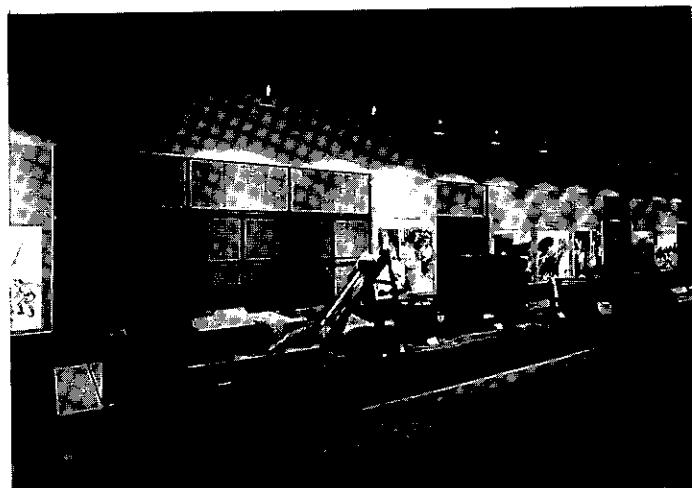
山国信濃国にも仏教が伝来し、やがて仏教文化が根をおろします。



戦国時代を代表する川中島の戦いは、博物館所在地と最もかかわりのある事象です。



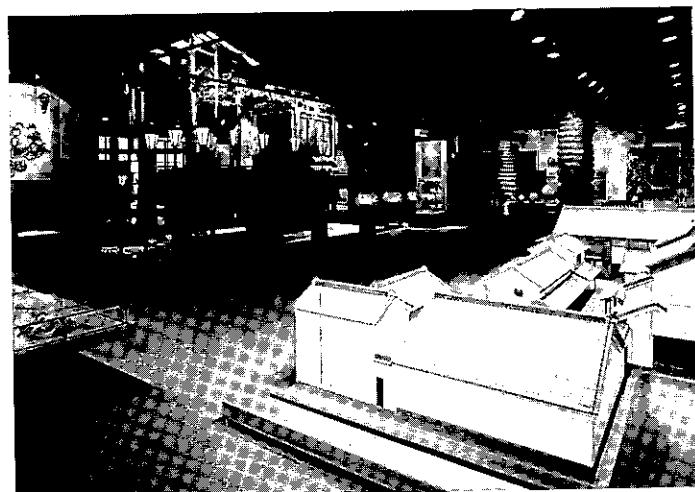
江戸時代末から現代まで使用された住居です。博物館内で棟まで復元された例は珍しい。



農具は農民の知恵と工夫
が結晶しています。流す汗
が新しい道具を生んでいき
ます。



近世・近代を問わず商家
は町の中心的役割をはたし
てきました。



祭りが生んだこれら文化
財は過去の産物です。しか
し脈々と続けられる祭りに、
現在これだけ情熱を結集さ
せることができるでしょう
か。

序

わが国は、短期間に空前の繁栄に恵まれたが、その間、高度の成長を急ぐあまり、物質文明の偏重に傾き、精神的な文化への配慮をおろそかにしてきた憾があった。やがて、いわゆる衣食足りて、ようやく心の栄養に思いいたり、経済的な余裕に支えられて、各地に博物館をはじめとする文化的施設が建設されるようになった。

長野市では、市民の要望を集約し、手順をふんで10年近い検討を経て、法に基づく総合博物館を、史跡公園の一角につくることになった。展示の主題は、長野市の自然と人生で、常設展示では、長野市を中心とする長野盆地（通称善光寺平）の、海底にはじまる土地生成の過程や、そこに営まれた人の生活の歴史と現況が、自然、考古・歴史、民俗に大別して、体系的に展開されている。展示は、親しみやすい身近な事実に即し、視聴覚機器や地震体験室を交えるなどして、分りやすく印象づけられるように工夫され、折々の特別展示と相まって、主題の理解が深められるようなしきみになっている。

展示の主流は庶民の生活で、そこには稻作文化の稻・わらの完全利用、物質循環にみられるように、環境に順応した堅実な暮らしどりが伺える。温故知新、物事の本質にもとらない先人の知慧に学ぶところが多い。

館をとりまく、自然、日本建築学賞に輝く、環境に調和した建物も又、展示に劣らない見ものである。

当館の歩みは、館内外の整備も一応終わり年報を発刊するところまできた。館の内容が証拠で綴る長野市生いたちの物語であるように、この年報は、博物館生いたちの記である。ご活用いただければ幸である。

昭和58年1月

長野市立博物館長

掛川 一夫

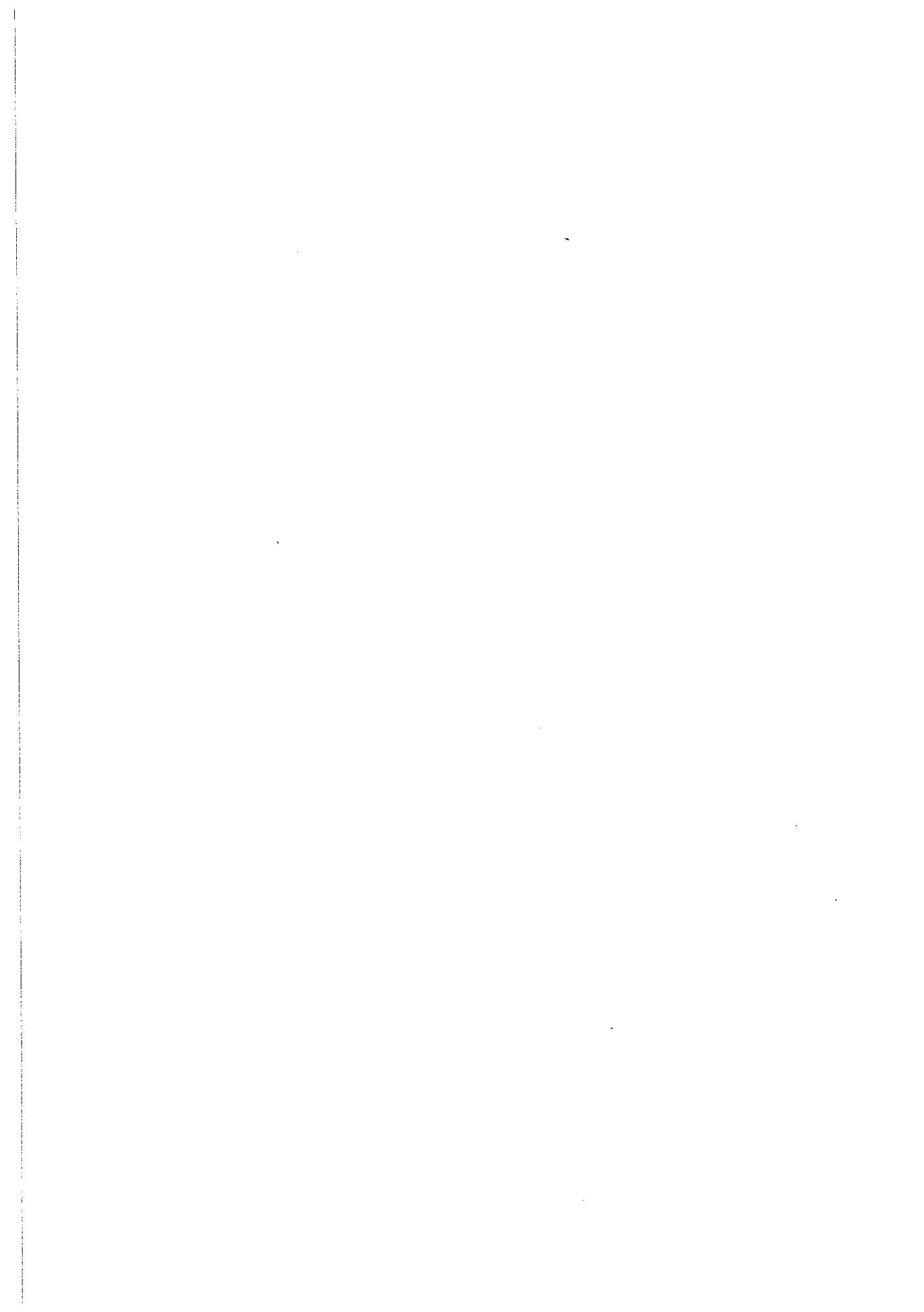
例　　言

- 1 本書は、博物館における事業・運営等の実績報告書の意を含んでいる。
- 2 本書で記載した事項は、主として開館時の昭和56年度以降のものであるが、資料・建設等に関するものには、それ以前のものを要約して記した。
- 3 本書の主なる記載期間は、昭和56年9月23日から昭和57年12月末日である。そのため年度と表現されるものについては4月1日から翌年3月31日まで、年と記したもののは4月1日から12月末日とご理解願いたい。
- 4 文中氏名の記載にあたっては、当館の役職をもつ方を前段に記し、他は順不同である。
また敬称を略した場合もある。お許し願いたい。
- 5 本書の執筆にあたっては、博物館職員があたり、分担については文末に記した。
- 6 本書に掲載した写真は、当館(山口(明)・大蔵・青木・西川撮影)のもののほか、広聴課・社会教育課(野外彫刻賞運営委員会・長野市遺跡調査会)・宮本忠長建築設計事務所・(株)丹青社・古館克明・岩田賢甫・森山公一各氏のご援助をいただいた。

目 次

序 例 言

I	概 説	1
1	建設・開館までの沿革	1
2	博物館日誌（抄）（開館～昭和57年12月）	6
II	事業報告	13
1	展示	13
2	調査研究	23
3	教育普及活動	35
III	博物館収蔵資料	43
1	購入資料	43
2	寄贈資料	47
3	寄託・借用資料	58
IV	博物館工事・管理	62
1	博物館建物等建設工事	62
2	展示関係工事	63
3	委託事業	63
V	事務報告	65
1	予 算	65
2	入館者等	66
VI	彙 報	68
1	博物館の概要	68
2	長野市立博物館協議会委員名簿	78
3	組 織	78
〔付〕常設展示の構成		(和田博) 79



I 概 説

1 建設・開館までの沿革

昭和46年度に作成された長野市総合基本計画に初めて博物館建設が盛り込まれ、これを契機にして、建設への胎動がはじまったということができよう。そしてこの背景には市民の声として、文化施設の拡充の必要性を訴えるものが多かったことを忘れてはならないと思う。

その後、この基本構想は、暗中模索の中で社会教育課を中心とする教育委員会事務局で検討が進められてきた。その結果として昭和48年8月1日付で各界学識経験者による「博物館建設調査委員会」を設置し、博物館建設に伴う基本構想をつくるべく具体的検討に入った。以下その主たる動きを日を追って記す。

昭和54年1月11日 博物館建設調査委員会から「博物館建設基本構想に関する答申書」が提出された。この間の調査委員会では、博物館の内容・資料そして建設地等あらゆる方面から協議がなされ、「建設部会」・「資料部会」が設けられた。

昭和54年4月1日 答申書に基づき教育委員会教育管理部に、「博物館建設事務室」(職員4名)が新設され、建設に向け本格的な作業が始まった。

昭和54年4月11日 教育委員会と関係部局との間に「博物館建設連絡会議」が設けられ、事務協力態勢ができる。

昭和54年5月1日付で「博物館展示企画専門委員会」が発足し、以後常設展示構想の具体案について検討がなされる。

昭和54年5月11日 前記の企画専門委員会の基本構想を基に、㈱丹青社に展示設計を委託する。

昭和54年6月26日 博物館建設調査委員会の答申書、博物館展示企画専門委員会及び博物館建設連絡会議の協議結果をもとに、建物の基本設計を8社へ設計競技方式(コンペ)で発注する。

昭和54年9月2・3日 「建設設計競技審査委員」により、8社から提出された建築設計が審査され、長野市立博物館(仮称)設計・監理者に㈱宮本忠長建築設計事務所を選出する。

昭和55年4月28日 実施設計により建築工事に着手する。

昭和55年9月12日 展示設計をもとに㈱丹青社と常設展示製作工事を契約する。

昭和55年10月1日 博物館建設事務室内に学芸係を設置し、展示内容を具体化する作業に入る。

昭和56年4月1日 長野市立博物館設置条例施行により、博物館建設事務室が長野市立博物館となり、職員14名となる。

昭和56年5月31日 建物ほか主体工事が竣工する。

昭和56年6月1日 常設展示室内における展示関係工事に着手する。学芸員(解説員)を新たに3名採用する。

昭和56年8月31日 展示関係工事が竣工する。以後、展示資料の搬入・展示作業を行う。

昭和56年9月23日 長野市立博物館が開館する。

昭和56年10月1日 新たな学芸員(解説員)が採用され、館員18名となり現在に至る。

(参考)

「長野市博物館建設調査委員会委員」(答申時)

役職名	氏名	役職名	氏名
市議会議長	中島邦雄	信州大学教授	羽田健三
〃副議長	柳沢善一郎	県短期大学教授	青木寿吉
〃総務文教委員長	戸谷春実	市立皐月高校長	林孝雄
〃総務文教副委員長	田中正	中学校長会長	常諒
県教委文化課長	千野久義	長野郷土史研究会長	田計一郎
市区長会長	西沢義明	郷土を知る会会長	小林正太郎
長野青年会議所理事長	高波謙二	学識経験者	森下川文夫
長野商工会議所副会頭	夏目幸一郎	"	塚田隆雄
市農協協議会長	宮入耕一郎	"	川上安人
県經營者協会長野支部長	北野幾造	前市議会総務文教委員長	今井良雄
長野地区評事務局長	古平茂雄	前市議会総務文教副委員長	*三上孝一郎
市文化財保護審議会長	米山一政		

※ 53. 7. 22~53. 9. 28 (順不同)

「長野市博物館建設基本構想に関する答申書」

長野市長 柳原正之殿

昭和54年1月11日

長野市博物館建設調査委員会

会長 戸谷春実

長野市博物館建設基本構想の答申書提出にあたって

昨昭和53年8月当委員会に諮問がありました長野市博物館建設基本構想について、ここに答申書を提出いたします。

当委員会においては、21名の委員による延7回におよぶ委員会ならびに横浜・平塚・上越・高岡各市の博物館を実地調査研究をし、長野市の特殊条件を十分に考慮して答申書を作成いたしました。

本答申書は、敷地面積及び予算規模等を勘案せず、理想的な内容を盛りこんだものであります。

したがって、当委員会においては、本答申を長野市全体の教育文化施設の中に調和させて弾力的に具体化させることを望むものでありますが、「経済の20世紀から、文化の21世紀へ」といわれているおりから、財政の許すかぎり、将来にわたって十分にその機能を発揮することのできる理想的な博物館を建設されるよう希望いたします。

博物館建設基本構想

第1章 博物館建設の基本理念

1 建設の目的

次の目的を持つ施設として建設する。

- (1) 市民の文化創造の拠点施設とする。
- (2) 先人の遺産である貴重な文化財、郷土の歴史、民俗、自然等に関する資料を収集、保

存、展示し、活用する施設とする。

- (3) 人文科学、自然科学の調査、研究、学習のセンターとする。
- (4) 美術、工芸、学術の市民活動センターとする。
- (5) 博物館法に基づく施設とする。

2 名 称

名称は 長野市立博物館 とする。

3 種 類

博物館の種類は、人文科学及び自然科学の両分野にわたる資料のうち、主として次に掲げる郷土の特徴を生かした関連資料を取扱う総合博物館とする。

- (1) 善光寺を拠点として展開された善光寺平における人間の生活及び文化に関する歴史、民俗資料。
- (2) 千曲川及び犀川に起因する善光寺平の土地の生成及び水に関する自然科学資料。

4 性格と機能

この博物館の性格と機能は次のとおりとする。

- (1) 展示と実験、学習、研究とを関連させて学習できる、常に生きている博物館とする。
- (2) 学校教育の教育課程の一環として位置づけできるものとする。
- (3) 公民館活動と有機的に連結した社会教育活動ができるものとする。
- (4) 美術、工芸、学術等の市民の創作、研究を発表できる場とする。
- (5) 文化財、学術資料等を調査、研究、収集、保管、展示し、活用する。
- (6) 市の学術研究の中心的機関とする。

第2章 博物館の施設規模

1 設置場所

この博物館の性格、種類等からみて、次に掲げる(1)から(4)までの条件を具備しているところが望ましい。そして、これに適している場所として善光寺、城山公園周辺が適していると考えられるが、即建設が可能な場所として八幡原史跡公園及びその周辺が妥当と思われる。しかし、施設完成後、一層の市民に対する周知徹底と交通の利便を図ることが必要である。

- (1) 建物周辺が自然的空间を生かして広範囲に公園的環境整備ができること。
- (2) 屋外展示物や類似施設を周辺に設置できる土地空間を有すること。
- (3) バス、乗用車等の利用に供する相当広い駐車場が確保できること。
- (4) 市民が利用するのに好適な地勢で、交通の利便が良いこと。

2 建設規模

- (1) 建物は本館と別館とし、総延面積は概ね5,000平方メートルを目指す。
- (2) 本館は地下1階（機械室等）地上2階建不燃構造とする。
- (3) 別館は平屋建若しくは2階建不燃構造とし、主として企画展示ならびに市民活動の利用に供する。

3 資料の保管施設

- (1) 博物館が設置目的に基づいて収集する各種資料は年々増加することは必至であるので、できる限り広い保管スペースを確保する。
- (2) 博物館の資料を適切に保管するため、収蔵庫、文献資料室、技術室、作業室、荷解き室、消毒室、集約収蔵設備等を設置する。

4 展示施設

(1) 展示施設は、物を単に並べて見せるだけの博物館でなく、常に生きている博物館とするため、固定展示を最少限度にとどめ展示替え、企画展示が自由にできる可能性のある展示用機器、照明設備等を有するものとする。

(2) 展示施設として展示室、準備室、展示用機器、照明設備等を設ける。

5 教育活動施設

(1) 学校教育、社会教育と連動する博物館活動を重点的に行うために必要なスペースの確保に努める。

(2) 教育活動に必要な施設として、集会室、教室、会議室、視聴覚室を設置し、巡回展示用運搬自動車、教育用自動車等を備える。

6 調査研究施設

(1) 調査、研究は博物館の主要な事業の一つである。専門的な調査研究に必要な施設については、博物館専門職員の利用だけでなく、一般市民の利用の便を考慮して設置する。

(2) 調査研究施設として図書室、研究室、実験室、実験準備室、工作室等を設置する。

7 管理・その他施設

(1) 一般市民を初め、親子あるいは子供グループで安全に楽しく利用できるとともに博物館資料を適切に保管できるよう管理便宜施設等について慎重に配慮する。

(2) 管理・その他施設として、事務室、学芸員室、館長室、宿直室、警備救護室、休憩室、喫茶室、機械室、パッケージ室等を設置する。

第3章 博物館の事業活動

1 資料の収集保管

博物館資料は次により収集し、保管する。

(1) 民間、学校、諸官庁等から購入、寄託、寄贈により収集する。

(2) 専門研究資料及び学術資料等を積極的に収集する。

(3) 標本、模型等を製作する。

(4) 固定展示資料を初め、博物館資料の適切な保管に努める。

2 資料の展示

展示については、常に生きている博物館とするため、固定展示をなるべく少なくし、随時展示替えをし、研究、学習活動を主とした企画展示に重点を置くこととし、特に次に掲げる展示を主眼とする。

(1) 博物館の中心課題となるものは固定展示とする。

(2) 鎌倉時代の善光寺模型を展示する。

(3) 川中島の戦いに関する資料を展示する。

(4) 文化財として重要な屋台を組立展示する。

(5) さわったり、体験できるようなコーナーを設ける。

(6) 善光寺にまつわる庶民宗教、庶民信仰の変遷を世界史的観点から学べるような展示をする。

(7) 専門研究、学術研究の成果を随時企画展示する。

(8) 貴重な文化財等を周辺に移築展示し（野外展示）保存する。

(9) 専門的な資料に基づく特別企画展示を行う。

3 学術研究活動

博物館の研究活動は、単に古いものを学ぶだけでなく、現在の生活に役立ち、郷土の将来の発展と人類の進歩に結びつくものでなければならない。

- (1) 人文科学系の学術研究の重点は、庶民宗教、庶民信仰と、庶民生活の変遷に置く。
- (2) 自然科学系の学術研究の重点は、千曲川及び犀川に起因する地学、治水、利水と人間生活の変遷に置く。特に全人類に影響の大きい地震学については、松代地震センターと提携して特徴ある学術研究を行う。

4 教育活動

- 博物館資料を中心とした教育活動を活発に行い、博物館事業を普及する。
- (1) 定期的な学習教室を設け、市民の学習活動を積極的に助長する。
 - (2) 学校教育の教育課程を補完できる展示を行なう。
 - (3) 社会教育団体の研究調査の拠点としての場を設ける。
 - (4) 市内各公民館と連携して講座を設ける。
 - (5) 他の文化施設と連携して教育活動を行う。
 - (6) 市民グループの学術、美術、工芸その他の創作、研究の発表展示の場を提供し、市民の文化活動を促進する。
 - (7) 調査研究の紀要等、博物館資料に関する各種出版物を刊行する。

第4章 博物館の運営管理

1 組織運営

- (1) 博物館の建設事務、企画調査事務等を専門的に所管するため教育委員会事務局内に係若しくは課を新設する。
- (2) 博物館法に基づき、学校教育、社会教育関係者及び学識経験者をもって組織する博物館協議会を設置する。
- (3) 博物館の管理運営に必要な組織の確立を図る。

2 職 員

- (1) 博物館の事業運営の中核的役割を担う学芸員等の専門職員を配置し、その充実を図る。
- (2) 博物館の円滑な管理運営を図るために、館長及び必要な職員を配置する。

3 附属施設

- (1) 来館者用駐車場、博物館用自動車の車庫については、必要なスペースを確保して設置し、その管理に万全を期する。

「長野市立博物館展示企画専門委員」

国学院大学教授（総括） 加藤 有次
気象庁地震観測所長 自然科 諏訪 彰
学(地震・地学)
市文化財保護審議会長（歴史） 米山 一政
信学会民俗資料館長（民俗） 市川 文夫
県文化課指導主事（考古） 関 孝一
若穂中学校長（学校教育） 大久保 豊
松代小学校長（学校教育） 北村 芳弘

「建築設計競技審査委員」

東京大学教授（建築学） 村松貞次郎
日本大学教授（建築学） 近江 栄
埼玉大学教授（博物館学） 新井 重三
千葉大助教授（公園学） 丸田 賴一
(山口純一)

2 博物館日誌（抄）

（開館日～昭和57年12月）

昭和56年

9月23日 新涼快適の候、最高の秋日和の中で開館式を迎える。開館式市長ほか招待者227名。

開館記念講演「世界の古墳」講師明治大学教授大塚初重氏

開館記念特別展示「機織」を11月23日まで開催する。

初日入館者4,030人。

9月24日 館の前庭にて野外彫刻中原悌二郎作「若きカフカス人」の除幕式が挙行され、館長出席する。

河北倫明氏ほか野外彫刻賞関係者来館。

9月28日 松本市助役ほか2名来館。

9月29日 1万人目の入館者を迎える（長野市篠ノ井東福寺東区1632小林ふみ・78歳）。

9月30日 吉村午良県知事及び県議会議員文化振興連盟（10人）来館。

10月1日 本日より有料になる。

松本市教育次長ほか1名及び戸隠村教育長・田中邦雄信大教授来館。

本日付人事移動により松岡成男副館長が交通対策課長補佐に、樋口良江解説員の発令がある。

明石製作所へ出張する（大蔵・和田（博））。

10月7日 中野市教育長来館。

10月8日 東京都中央区教育長ほか7名来館。

10月10日 2万人目の入館者を迎える（長野市大豆島7478-1 大月千絵・8歳）。

「奈良六大寺展」の関係僧等10名及び半田市教育委員会職員来館。

10月15日 上田市立博物館長ほか3名来館。

10月16日 群馬県歴史博物館長ほか2名及び上田市教育長ほか1名来館。

10月21日 NHKとT S Bテレビの収録が行われる。

10月24日 川越市文化財保護審議会委員来館。

10月27日 3万人目の入館者を迎える（須坂市大字野辺572-5 小林一夫）。

10月29日 広島市議会議員来館。

11月5日 浦和市立博物館長ほか6名来館。

11月12日 本日より聖川改修に伴う発掘調査を開始する。1月25日まで。



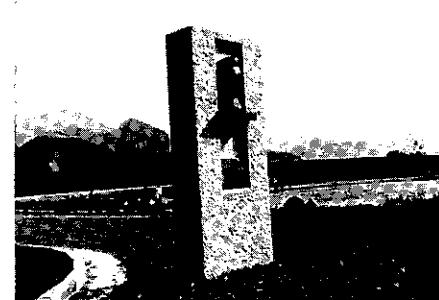
テープカット



記念式典（市長）



彫刻「場」除幕式



野外彫刻「若きカフカス人」

11月13日 米子市議会議員8名来館。
11月14日 中国石家庄市建設考察団5名来館。
11月18日 4万人目の入館者を迎える（長野市三輪
9-7-11中島いさを・76歳）。

11月19日 小松市立博物館長ほか来館。
11月23日 本日で特別展示を終了する。

特別講演会「石器をつくる」講師奈良国立文化財研究
所松沢亜生氏、「善光寺の歴史」市文化財保護審議
会長米山一政氏。

11月29日 長野県考古学会秋期大会が講堂で開催さ
れる。

12月1日 国立科学博物館村山氏来館。
12月2日 相模原市立博物館建設委員16名来館。
12月5日 長崎市教育委員会職員2名来館。
12月6日 常設展示室民家内で、吉沢梅吉氏による
「俵あみ」ほかワラ細工の実演を行う。講堂で弥生時
代シンポジウムが開催される。

12月13日 民家内で宮島克己氏により「わらぼてづ
くり」、高木妙子氏による「機織」、小林こう氏の「糸つむ
ぎ」の実演を行う。

12月20日 民家内で宮島氏によって「しめ縄づくり」
の実演を行う。

プラネタリウムが冬の番組「天の川を探る」に変わる。
神奈川県文化財保護課職員7名来館。

12月27日 餅つきを行い、お飾りなどをつくる。

12月28日 仕事おさめ式に井上主幹・山口副館長出
席する。



特別企画展「機織」



弥生時代シンポジウム



しめ縄づくり



もちつき

昭和57年

1月4日 仕事始め。館長の挨拶を受ける。
1月6・7日 玉依比売命神社の神事を取材調査に
行く（山口（明））。

1月10日 月食を観測する（大蔵）。
1月11日 県史刊行会が川柳將軍塚関係遺物の写真
1月14日 民家内で「ものづくり」をする。保科高岡
の取材調査に行く。（山口（明）ほか）

1月15日 5万人目の入館者を迎える（小諸市十唐
松甲1577-9 山本祥子）。

1月21日 日豪親善訪日団19名来館。
1月26日 越谷市教育委員会職員来館。
1月28日 岡谷市議会議員16名来館。

- 2月3日 栃木県立児童館職員来館。
- 2月4日 上田市議会総文委員来館。
- 2月5日 T S B テレビが取材する。
- 2月7日 会議室で信濃史学会北信支部例会が行われる。
- 2月10日 長野県防災課及び秋田県営繕課職員来館。
- 2月25日 群馬県立歴史博物館職員8名来館。
- 3月7日 プラネットarium春の番組「太陽系の発見」の投影を始める。
- 日本建築学会11名来館。
- 3月11日 特別企画展用務で明治大学考古学陳列館へ出張する（山口（純）・矢口）。
- 3月12日 上記用務で磐田市立郷土館へ出張する（山口（純））。
- 3月20日 「昭和56年度新収蔵資料展」を開催する。
- 5月5日まで。
- 3月28日 6万人目の入館者を迎える（長野市吉田1-19-3 清水久義）。
- 4月1日 本日付人事異動で井上栄一主幹が国民健康保険課長に転出し、小島忠雄庶務係長を迎える。掛川一夫館長が理科センター所長を兼ね、山口純一副館長が主幹に昇格する。
- 4月9日 パキスタン駐日大使夫妻来館。
- 4月15日 韓国西江青年会議所14名及び柏崎市教育委員会職員来館。
- 4月16日 茅野市教育委員会職員来館。
- 4月22日 化石収蔵用務で信大教養部へ出張する（矢口・大藏）。
- 4月23日 狛江市議会議員及び宮沢県副知事来館。
- 4月28日 市立名古屋科学館職員2名来館。
- 5月2日 7万人目の入館者を迎える（上田市大字上田1491唐木田吉志子）。
- 古文化財保存研修のため東京へ出張する（山口（明））。
- 5月4日 千葉大工学部守屋秀夫教授来館。
- 5月13日 長野県博物館協議会総会（小諸市）に出席する（山口（純））。
- 5月16日 8万人目の入館者を迎える（長野市青木島町大塚1561-27亀貝美果・小2）。
- 5月25日 福井県芦原温泉で開かれた昭和57年度北信越博物館協議会に出席する（山口（純））。
- 5月29日 長野市立博物館設計にたいし、宮本忠長建築設計事務所に日本建築学会賞が贈られる。



玉依比売命神社御田植祭



民家のものづくり



どんど焼き（保科高岡）



冨建千引神社太神楽

6月5・6日 「化石教室」を行い、講師に田中邦雄信大教授・木舟清・中川政幸氏を迎える。

6月7日 常設展示室2階をワイパスモードで部分くん蒸する。

6月11日 「はにわ展」用務で、群馬県教育委員会・群馬県立歴史博物館へ出張する（山口（純）・矢口）。

6月13日 9万人目の入館者を迎える（長野市青木島町網島300-44小笠原ちたつ）。

6月24日 長野市社会教育委員来館。

6月26日 企画展「長野の祭り」を開催する。7月25日まで。

6月27日 富建千引神社太神楽・妻科神社太神楽の実演をする。

7月1日 三鷹市教育委員会7名来館。

7月4日 長谷子供神楽・大豆島甚句の実演をする。

7月6日 「はにわ展」用務で、倉敷考古館・岡山県立文化会館・大阪府立泉州考古資料館（矢口）、浜松市博物館・磐田市立郷土館・国学院大学・明治大学（山口（明））へ出張する。

7月7日 橿原市で開催された日本博物館協議会職員研修会へ出席する（矢口）。

信濃教育会3名来館。

7月9日 香港太空館廖慶齋館長来館。

7月10日 企画展特別講演会を行う。「民俗芸能採訪」講師市文化財保護審議会委員浅川欽一氏

7月11日 七二会春日山神社太神楽・赤野田神社太神楽の実演をする。

7月12日 「はにわ展」用務で南信へ出張する（矢口・山口（明））。

7月17日 「天体教室」を実施する。

7月18日 大門踊・大田原太神楽の実演をする。

7月19日 機械室等害虫防除消毒をする。

7月21日 10万人目の入館者を迎える（長野市富竹634徳永昇・35歳）。

7月25日 企画展最終日を迎え、犀川神社太神楽・芋井上ヶ屋太神楽の実演をする。

7月26日 博物館実習生2名受け入れる。8月1日まで。

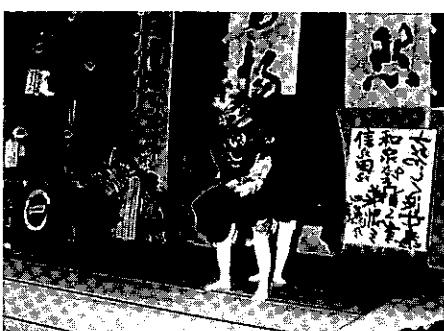
7月31日 飯綱山修験道遺跡の調査をする。8月6日まで。



妻科神社太神楽



長谷子供神楽



七二会春日山神社太神楽



芋井上ヶ屋太神楽

8月2日 台風10号により千曲川が増水し、地下室に浸水する。

8月3日 夏期休業プラネタリウム特別投影をする。

8月16日まで。

8月7日 土口将軍塚古墳調査（第1次）に参画する（山口（明）・青木）8月12日まで。

8月8日 「古墳教室」を開講する。土口将軍塚古墳・森将軍塚古墳の発掘調査現場を見学する。

8月11日 「天体教室」を実施する。

8月16日 群馬県立歴史博物館梅沢副館長来館。

8月17日 川田条里遺構確認調査に出る（青木）8月24日まで。

8月21日 国学院大学加藤有次教授来館。拳手人面土器（複製）の寄贈を受ける。

8月23日 諏訪へ出張する（山口（純）・小島）。

8月26日 「はにわ展」用務で東京国立文化財研究所・東京国立博物館・明治大学へ出張する（山口（純）・矢口）。

8月27日 前記用務で埼玉県立博物館へ出張する（山口（純））。

8月28日 講堂にて松代地震センター設立15周年記念講演が開催される。

9月1日 「はにわ展」の会場準備を始める。

9月2日 小出義治・岩崎卓也・久保哲三氏来館。

9月8日 東部町教育委員会をかわきりに「埴輪」を借用する。以下借用施設名のみ記す。

9月9日 上田市立国分寺資料館・小諸市立火山博物館・更埴市教育委員会

9月10日 群馬県立歴史博物館

9月12日 台風18号により千曲川が増水し、床上浸水の恐れがでたため、地元消防団約100名が出動し、土のう作りの援助を受ける。

9月13日 浸水後のあとかたづけに、市教委事務局職員・工事関係者の応援をうける。

相川考古館・太田市教育委員会・須坂市立博物館。

9月14日 埼玉県立博物館・倉敷考古館・真備町教育委員会・落合町教育委員会。

9月16日 大阪府立泉北考古資料館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館・芝山はにわ博物館。

9月17日 浜松市博物館・磐田市立郷土館。

9月18日 八幡一郎・木代修一氏来館。

9月20日 国学院大学・東京国立博物館。



飯糰千日大夫屋敷跡調査



10万人目の来館者



台風18号（前庭冠水）



台風18号（消防団出動）

9月23日 本日より開館1周年特別企画展「はにわの世界」を開催する。

特別記念講演会「はにわ」東京国立博物館考古課長村井嵩雄氏。

9月25日 長野市立博物館協議会が開催される。

10月8日 大室古墳群の実測に行く（矢口）。

10月14日 群馬県教育委員会文化財保護課長他2名来館。

10月15日 本日より篠ノ井遺跡群（聖川）の第3次発掘調査を開始する。11月10日まで。

10月17日 豊田市立郷土館職員12名来館。

10月18日 明治大学より埴輪を借用する。

10月22日 富士市文化財保護審議会委員一行来館。

10月26日 公園内の野外彫刻「クラウド」除幕式が行われ市長、河北倫明委員長はじめ各委員来館。

秋田県立博物館及び茨城県発掘事業団職員来館。

10月28日 埼玉県立さきたま資料館小川課長をはじめとする県内の学芸員及び群馬県立歴史博物館外山課長来館。

10月30日 市長及び浜松市博物館長来館。

11月3日 特別企画展最終日。終了後岡山県方面の埴輪の梱包をする。

11月5日 この日から松山市で開催される全国博物館大会へ出席のため出張する（館長）。岡山県関係の埴輪を返納する。

11月6日 東京日通美術の平井さんの指導で埴輪の梱包がはじまる。

「天体教室」を行う。

11月8日 岡川勇夫氏・更埴市教育委員会へ埴輪を返納する。

11月10日 明治大学・国学院大学・東京国立博物館・埼玉県立博物館へ埴輪を返納する。

11月11日 芝山はにわ博物館・大阪府立泉北考古資料館・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館に埴輪を返納する。

11月12日 浜松市博物館・豊田市立郷土館・群馬県立歴史博物館・箕輪町立郷土博物館・飯田市教育委員会・座光寺小学校へ埴輪を返納する。

「天体教室」を行う。

11月13日 相川考古館・太田市教育委員会・喬木村歴史民俗資料館・小諸市立火山博物館・上田市立国分寺資料館へ埴輪を返納する。



「はにわの世界」展入口



荷解き



荷解き



展示場内

福岡市立青少年会館職員 2 名来館。

11月15日 東部町教育委員会へ埴輪を返納する。

11月16日 教室において篠ノ井公民館母親学級で講義をする（和田(博)）。

11月17日 母親学級 2 日目、講師和田(博)。

11月18日 須坂市立博物館へ埴輪を返納する。「はにわ展」関係の主な業務を完了する。

11月19日 母親学級 3 日目、講師矢口。西宮神社にて里神樂を取材調査する（山口(明)）。

市川市博物館協議会 8 名来館。

11月20日 上越教育大学の職員天体観測ドーム建設視察のため来館。

11月21日 駐日中華人民共和国特命全権大使宋之光夫妻一行来館。

12月 1 日 本日付で大蔵満に博物館主事（学芸員）の発令がある。

12月 2 日 第 2 収藏庫（民俗関係）の部分くん蒸をする。

12月 4 日 プラネタリウム冬の番組「若きオリオンの星たち」の投影を始める。

石家庄市副市長一行・国立歴史民俗博物館遠藤施設課長来館。

12月 7 日 柏崎市博物館建設審議会委員20名来館。

12月19日 「しめ縄づくり教室」を開講する。講演「しめ縄について」県史刊行会専門主事倉石忠彦氏、指導官島克己氏。

12月23日 全職員出席のもとに消防局氷鉢分署職員より消防についての講話を受ける。

12月24日 富山県教育委員会職員 2 名来館。

12月25日 善光寺道標所在地(三才)に標識を立てる。

12月26日 恒例の餅つきをする。

12月27日 休館日につき、展示室内の大掃除をする。

12月28日 仕事納。館長より挨拶を受ける。

12月30 「天体教室一月食の観測」を開く。

この日誌（抄）は、主として副館長の責による博物館日誌の中から、博物館機能という面から抜すい要約した。そのため、調査・行事・施設管理・工事等は後述するが、館長はじめ館職員へ公務又は私用として来館された方々の名を記してない点の失礼をお許し願いたい。

(山口純一)



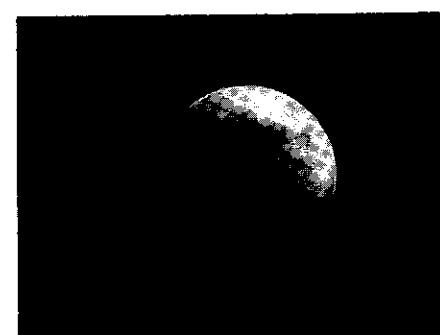
中国大使一行



中国石家庄市副市长一行



皆既月食観測



皆既月食

II 事業報告

1 展示

1) 常設展示

常設展示は自然・考古・歴史・民俗の各分野にわたり、実物1,037点をはじめ、次表のように計1,418点を展示資料として「長野盆地」から「長野市とその周辺」まで22の主題を年代別・時期順にまとめてある。

展示資料分類一覧表

(昭和57年12月現在)

種別 分野	自 然	考 古	歴 史	民 俗	そ の 他	計
実 物	52	583	62	340	11	1,037
複 製	4 *1	27 *2	11 *3			41
模 型	3 *4	4 *5		14 *6		21
写 真 パ ネ ル	57 *7	32 *8	81 *9	51 *10	3	224
図 表	14	15	22	4		55
年 表	3	5	7	1		16
ス ラ イ ド	2 *11		1 *12		3 *13	6
ビ デ オ		1 *14				1
復 元		3 *15		1 *16		4
体 験 室	1 *17					1
合 計	136	670	184	411	17	1,418

*1 地震波コピー(2)・松代地震文集コピー(2)

*2 ヘラジカ剥製・拳手人面土器・石器製作工程等資料(25)

*3 阿弥陀三尊仏・中世文書(9)・近世文書

*4 立体地形図・ひづみ計石英管・松代地震観測所

*5 弥生時代木器(4) *6 水車・商家・煙火(10)他

*7 内照式写真パネル(1)含 *8 内照式絵画パネル(1)含

*9 内照式写真パネル(9)含 *10 内照式写真パネル(2)含

*11 オースライド「長野盆地のおいたち」・「ゆれる大地」

*12 オート三面マルチスライド「川中島の戦」

*13 アトランダムスライド(3) *14 「石器をつくる」

*15 シオラマ「収穫の秋」・「弥生時代竪穴住居」・「合掌形石室」

*16 茅葺民家 *17 地震体験室

これらはただ個別的に意味をもつだけではなく、背景の地図・写真パネル等と有機的に結びつく一つの時間と空間の広がりを求めている。この概要については別冊に『常設展示解説』があるので、それを参照にしていただきたい。

展示資料は開館以来大きな変動はないが、自然(1)・考古(2)・歴史(2)・民俗(2)総計34点の新資料が

加わり、民俗関係資料では、新寄贈品と借用品との入れ替えを行なっている。

この他常設展示室では、単に実物資料による解説だけでなく、歳時的な実演展示を行なった。昭和56年12月の日曜日（6・13・20日）には民家の土間で「俵あみ」・「俵づくり」・「わらばてづくり」・「しめ縄づくり」である。これは大変人気があり、来館者自らが実演し、手解きを受けた製品を持ち帰ったり、細工用ワラを持参してくる人もあった。また12月27日(日)には昔ながらの臼と杵による餅つきを行ない、子供達が瞳を凝らして見学していた姿が印象的であり、忘れざらんようとしている年末行事に一抹の哀惜の念を禁じ得なかった。この餅から民家の神棚用等8組のお飾り（鏡餅）をとった後、来館者にふるまい喜ばれた。このほか3月までの日曜日には「機織」・「糸つむぎ」の実演展示が行われ、来館者の少ない時期だけに、機織の音韻は民家の風情を一層かもし出し、来館者と実演者の交流もあったりして、無形の民俗文化財を生きたものにすることことができた。

昭和57年度では、民家内実演展示として博物館職員による「餅つき」・「しめ縄づくり」が行われ、昨年同様人気があり、餅つきの行事も恒例化しつつあるように思える。わら細工の実演は昨年の経験から本年は「しめなわ教室」にし、多くの人達に学んでもらうこととした。

スライドは一か年を経過すると退色が著しかったり季節感覚にあわないものがでてきたため一部取り変えた。またプロジェクター等投影器機も使用頻度がはげしく、高熱が原因で故障したため、川中島の戦の三面マルチスライド選択機を別室に離した。また年一回全館くん蒸期間に合せ、展示機器類をオーバーホールする計画である。

地震体験室は一日6回、祝祭日7回運転をしている。これは実際おきた地震波（エルセントロ地震・十勝沖地震・宮城県沖地震）の横波だけを抽出復元したもので、全国で初めての機械であるという。実際の地震は震度4と5であるが、この体験室では地震への正しい理解と対処会得のため震度6と7も体験していただいている。

（和田博）

2) 特別展示・企画展示

常設展示を更に深める意味で、個別の主題をもとに企画展を開催している。特別展示と企画展示とを簡単に大別すると前者は題材・資料等を広域的に求め、特別入館料を徴収するのにたいし、後者は長野市とその周辺地域にその資料を求め、常設展示の補足・拡充を主眼とし、入館料は徴収し



ジオラマ「収穫の秋」



川中島の戦



民家内

ない。なお企画展示は、その内容が民俗事例が主題になるので、資料の収集・記録を兼ねて「実演展示」に力を入れている点に特色がある、以下開催月日順に記す。

(1) 特別企画展「機織」(開館記念事業)

期日 昭和56年9月23日～11月23日

(実質開館日数52日)

会場 特別展示室

出版物 「機織」A5変形両面刷二ツ折パンフ

入館者 約24,000人

〔趣旨〕

長野市とその周辺地域は、古くから養蚕が盛んで、それを生業とした農家が多く、また松代町には本県最初の蒸気器械製糸工場である六工社が明治初期に創設されるなど地域産業としての役割が大きかった。しかし近代化の波とともに平地部での養蚕農家が激減し、山間部においてもこの傾向が続いており、加えて技術革新も進みつつあるため、繭は生産するがそれを加工し製品化することは少なくなり、現在ではほとんどみられなくなってしまった。ただ最近の伝統工芸保存の気運の中で愛好者が増加しているといふものの生活の中に生き続けてきた製糸・手織りの技術は特種なものをおいて早晚姿を消すものと思われる。

こうしたことから、伝承者が健在するうちにこれらの技術を記録し、保存しようというのが、今回の企画の第1であり、またこれに伴う道具類の変遷を知ると同時に収集保存をはかることを第2とし、第3にこの展示を通して養蚕から製品までの工程を理解することにある。

〔内容〕

今回実演によって公開された技術は、古くから伝承されてきた坐繰り糸とり、玉繭からの真綿掛け、その真綿からの糸つむぎ、合糸、糸撚り、染色、高機によるつむぎ織り、そして木綿糸を経糸に既使用の毛糸などを緯糸とした所謂ボロ織りである。実演者はつむぎ織り・染色関係を高木妙子氏(稻葉)、ボロ織りを古畑よし子・堅岩つるゑ氏(小田切)齊藤はつえ氏(西長野)、ほかは堀和市・小林こう・小林よしい・長沢マス・岡沢安子・長沢久子氏(小島田町)である。

展示資料については下記のとおりである。

①養蚕関係

育成用具 稚蚕飼育箱・給桑かご・蚕棚・蚕かご・蚕



糸とり



糸巻き



真綿掛け



糸つむぎ

むしろ・糸網・絹網・給桑具
 桑摘み用具 桑切り機・桑摘みびく
 上簇用具 回転簇・すくら折り機・すくら
 収繭用具 毛羽とり機・繭受け箕
 ②整糸機織関係
 整糸用具 繭かご・糸車・ねうし・かなかえし
 紡ぎ台（つくし）・おばけ
 機織用具 経台・整経器・高機
 ③染色（草木染）関係
 原材料の草木 25点
 染色した糸 25点
 ④機織
 長野の地機・結城の地機・群馬の地機・現代の高機
 ⑤参考製品（実演による製品を含む）
 ボロ織（こたつ掛け・帯）・着物地洋服・平
 絹・オオメ・紬織・真綿・経糸・緯糸等
 ⑥古文書
 「機織術筆記」
 ⑦写真パネル
 桑畠・桑摘み・稚蚕飼育・蚕室・蚕上げ・繭かき（篠ノ井信里）江戸時代養蚕の図（善光寺道名所図絵より）・
 機織・結城紬を織る人ほか・越後織布の図（山海名産
 図会より）
 ⑧図パネル
 地機の図・高機の図・日本の伝統織物分布図。
 ⑨解説パネル
 糸・機織・染色・地機

これらの資料を展示するにあたり、染色関係では宮尾啓三氏（松代）、機織については、松本花子氏（松代）、養蚕関係では清水尚雄氏（信里）、結城紬関係では伝統的技術保持者田中林次氏、群馬県関係では群馬県立歴史博物館職員の皆さんに資料の提供を受けたほかに貴重なご指導をいただいた。

（藤森治幸）

(2) 企画展「長野の祭り」
 期間 昭和57年6月26日～7月25日
 （実質開館日数26日）
 会場 特別展示室
 出版物 「長野の祭」A4両面刷二ツ折パンフ
 入館者 約4,900人



染色



機織

企画展 長野の祭り

82 6月26日㈯～7月25日㈰



長野市立博物館

長野市本郷1414 長野県立総合公園内

「長野の祭り」展ポスター

〔趣旨〕

「まつり」にはさまざまな要素が含まれ、一概にこれが「まつり」と規定することは困難である。家庭に伝わっているもの、あるいは部落総出で行なうもの等がある。しかしその中には既に姿を消したり、変形して伝承しているのが実情であろう。こうした民俗的行事で最も身近で「まつり」を想定されるものに「御祭礼」がある。これは疫病退散や五穀豊穣を祈り祝ういわゆる春祭りと秋祭りである。これも昨今の激しい近代化の波とともに変容してきていることはいなめないところである。今回の企画展では主としてこの祭りをとり上げ、祭りに使われた用具・献納物・付属物等から古来の祭りの様子をさぐるとともに、氏子集団が保存している神楽囃子・獅子舞の実演展示をとおして、自然（神）と人間とのかかわりを知っていただくことにある。またこれらを通し、祭り、神楽の再興の一助になればと願うものである。

〔内容〕

実演展示は会期中の毎日曜日の午前と午後2回行なった。実演神楽等は次のとおりである。富建千引神社神樂・妻科神社太神樂・長谷子供神樂・大豆島甚句*・七二会春日山神社太神樂・赤野田神社太神樂*・大門踊*・大田原太神樂・犀川神社太神樂*・芋井上ヶ屋太神樂（※は長野市指定無形民俗文化財）

展示資料については下記のとおりである。

①村の祭り

神樂（赤野田神社・犀川神社・妻科神社）・地口燈籠・制札・高張提燈（妻科神社）・奉納額（犀川神社）

②町の祭り

笠鉾（横沢町）・神輿（南石堂町）・獅子頭（秋葉神社）

③祭りと神社

狛犬（加茂神社）・轍（氷鉋斗壳神社・篠ノ井岡田本組区・南俣神社・横沢町・布制神社）・奉納額（犀川神社・妻科神社）・絵馬（南方富神社）・四神旗（妻科神社・更級横田神社）

④獅子舞

獅子頭（赤野田神社・高井穂神社・保科赤野田・安茂里大門区）

⑤御柱祭

奉納額（妻科神社）絵図（松代大祝社）

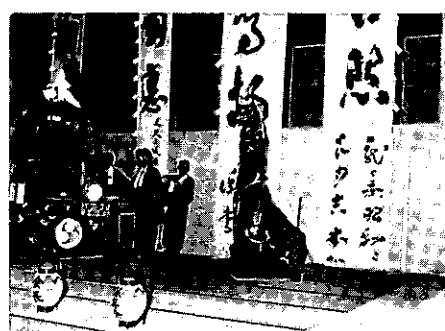
⑥松代藩の祭り



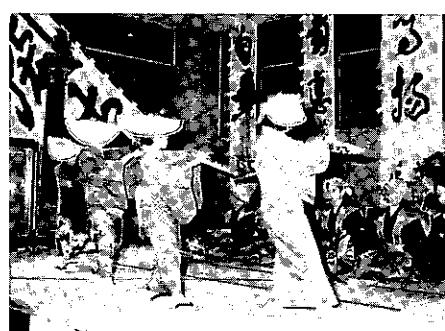
展示（部分）



大豆島甚句



赤野田神社太神樂



大門踊

「松代天王祭」絵図（真田宝物館）

⑦面

伎楽面(武水別神社・野本きみ氏)・獅子面(武水別神社)・神楽面(湯福神社)・舞楽面(野本きみ氏)

⑧写真パネル

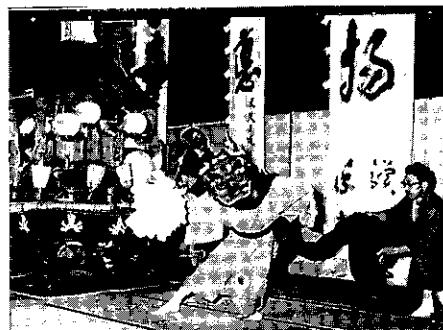
高井穂神社のお祭り・犀川神社の獅子舞・大頭祭・緑町の屋台・松代大門跡(以上坂口清一氏提供)・權堂の大獅子(鼻山宇喜知氏提供)

⑨解説パネル

村のまつり・神楽・祭りばやし・神楽の種類・村のまつり・祇園祭・祭りと神社・獅子舞・御柱祭・松代藩の祭り・伎楽面・舞楽面・神楽面



大田原太神樂



犀川神社太神樂

これらの資料の借用・返納にたいし、関係の氏子総代並びに区民の皆さんのご援助をいただいた。特に実演者の保存会の皆さんには数日にわたり特別な練習をしていただいた。感謝の意を込め付記しておく。

(藤森治幸)

(3) 特別企画展「はにわの世界—古墳祭式の復元—」
(開館一周年記念事業)

期間 昭和57年9月23日～11月3日

(実質開館日35日)

会場 特別展示室

出版物『はにわの世界』図録B 5版本文80頁

「はにわの世界」B 4版両面刷パンフ

入館者 7,461人

〔趣旨〕

通常公開している常設展示室は長野盆地の生い立ちから人間の歴史を展示了したもので、長野市とその周辺地域に主として資料を求めるわいわば郷土史的な意味あるいは濃い。それらの一部を時間的にも空間的にもより焦点化して展示・研究する場を企画展とするならば、特別企画展の位置付けは、この地域に限定せずより広い地域と接觸してきた文化をみなおす意味で、外からみた文化・汎日本的なものの展示が第一義的なものと考えられる。こうした意味から今回は「はにわ」をとり上げて考えてみた。

「はにわ」の一般評価は、美術品的見方がされがちで、その生いたち、古墳上における祭式が忘れがちになっている。そして山国科野(信濃)國の「はにわ」は孤立して単にあるのではなく、他国との交渉・支配関係の線上にあることをみなおす機会にもなるものと期待している。

またもう一つのねらいは、教科書・マスコミを通じ、「はにわ」という言葉は知っているが、実物の「はにわ」に接する機会があまりにも少ない点を考慮し、各地域の代表的「はにわ」を一堂に



「はにわの世界」展ポスター

集め比較することにより、地域性・歴史性そして造形美に触れ、古墳時代文化の一端をかいまみることにある。

〔内容〕

瀬戸内の吉備地方で始まったといわれる「はにわ」の源流から、5世紀代の畿内の「はにわ」、5・6世紀の東海の「はにわ」そして6・7世紀に隆盛をむかえた東国「はにわ」を、県内からは北信・東信・南信の形象はにわを集め公開した。

展示方法は、時間的変遷がたどれる吉備地方・畿内・東海・東国・県下の順に陳列し、背後に参考として古墳写真・解説パネル等で説明を加えた。これらは一般的な展示方法であるが、副題の古墳祭祀の復元にせまるため、群馬県赤堀茶臼山古墳出土の家形はにわ（複製）を出土推定地に据え、当時の地方王者の権力・富の集中力の強大さを示した。またはにわが古墳上のどの位置に据えられ、どのような意味をもっているかを見て理解できるように、群馬県塙廻り4号古墳を実大の70%に縮少した部分墳丘をつくり、その上にこの古墳から出土したはにわを、原位置推定で復元してみた。そして、背景を同系4色の色紙を切りはりして山襞をつくり古墳丘地の雰囲気を出したり、3分間のエンドレステープで祭式の模様説明を加え、さらにはにわ細部が観察できるよう7倍の双眼鏡3台を用意した。これなども新しい試みといえよう。

展示資料については下記のとおりである。

①吉備のはにわ

名 称	所 有 者
特殊壺と器台	鶴倉敷考古館
特殊器台	真備町教育委員会
特殊器台	落合町教育委員会

②畿内ののはにわ

底部有孔土師器	国学院大学考古学資料館
たすきをかけた男子	大阪府立泉北考古資料館
襲をまとう巫女	〃
弓をもつ武人	〃
甲 胄	〃
蓋	〃
家	〃
盾	奈良県立橿原考古学研究所付属博物館
猪	東京国立博物館



展示



展示



展示



吉備のはにわ

③東海のはにわ

瑟をもつ人物	浜松市博物館
鞍	〃
鞆	磐田市立郷土館
鶴	〃



畿内のはにわ（部分）

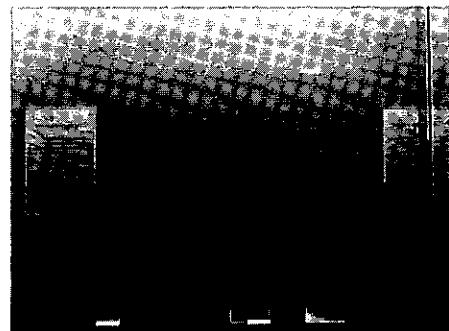
④東国のはにわ

イ主権者・巫女

盛装の男子	埼玉県立博物館
帽子をかぶる男子	〃
大美豆良の男子	高田儀三郎（埼玉県）
大刀をおびる男子	埼玉県立博物館
帽子をかぶる男子	相川考古館
胸に手をあてる女子	〃
両手をあげる女子	芝山はにわ博物館
女子	東京国立博物館

ロ正装した武人

挂甲に身をかためる武人(複製)	群馬県立歴史博物館
挂甲に身をかためる武人	国学院大学考古学資料館



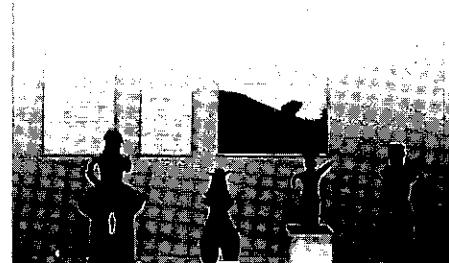
東海のはにわ

ハ参列者たち

鷹匠	太田市教育委員会
農夫	明治大学考古学陳列館
男子	芝山はにわ博物館

ニ儀礼の装飾品

家	明治大学考古学陳列館
駒	相川考古館
鞆	深谷市教育委員会



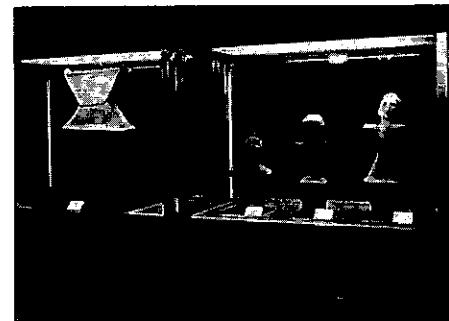
東国のはにわ（部分）

ホ古墳上の動物

飾り馬	明治大学考古学陳列館
猪	芝山はにわ博物館
鷹	東京国立博物館

⑤王者の家

主屋（複製）	群馬県立歴史博物館
副屋(1)（〃）	〃
倉庫(1)（〃）	〃
倉庫(2)（〃）	〃
倉庫(3)（〃）	〃
納屋（〃）	〃
圓形建物（〃）	〃



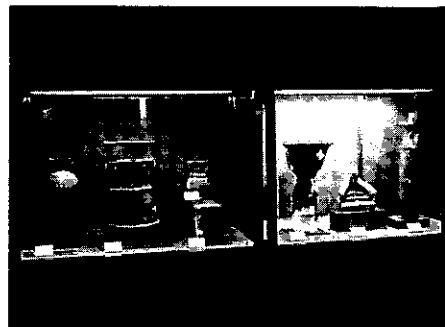
東国のはにわ（部分）

⑥はにわ（円筒）棺

転用棺（草摺）	奈良県立橿原考古学研究所付属博物館
はにわ棺	磐田市立郷土館
はにわ円筒棺	川柳将軍塚古墳保存会

⑦古墳祭式の復元

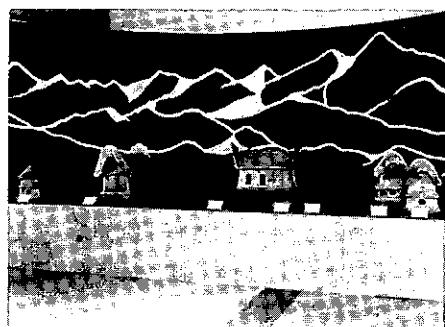
大刀をもつ盛装の女子	群馬県教育委員会
壺を棒げもつ女子(2)	〃
左手をあげる男子	〃
ひざまづく盛装の男子	〃
左手をあげる盛装の女子	〃
鳥帽子形帽子をかぶる男子(2)	〃
飾り馬	〃
椅子に腰かける盛装の男子	〃
大刀(3)	〃
円筒はにわ(2)	〃
朝顔形円筒はにわ(3)	〃
盾	〃



長野県のはにわ（部分）

⑧信濃のはにわ

円筒はにわ	更埴市教育委員会
壺形はにわ	〃
朝顔形円筒はにわ	東部町教育委員会
朝顔形円筒はにわ	喬木村歴史民俗資料館
円筒はにわ	〃
人物（顔）	須坂市上八町区
人物（顔）	小諸市立火山博物館
人物（顔）	上田市立国分寺資料館
人物（胸）	飯田市立座光寺小学校
人物（腕・手）	〃
人物（胴・腕・手）	箕輪町立郷土博物館
人物（腕・手）	東部町教育委員会
人物（足）	小諸市立火山博物館
顔形土製品	岡川勇夫（更埴市）
豪族の家	須坂市立博物館
屋根	飯田市立座光寺小学校
蓋	〃
鈴環	東部町教育委員会
水鳥	岡川勇夫（更埴市）
靱	箕輪町立郷土資料館
靱	飯田市教育委員会
寄棟造りの家	長野市立博物館
人形・動物・鳥土製品	〃
大刀	国学院大学考古学資料館



王者の家



はにわ（円筒）棺



古墳祭式の復元

⑨写真パネル（）内は提供者

四柱造家（倉敷考古館）・中山遺跡A地点遺構写真
(岡山県教育委員会)・五色塚古墳・同塚輪円筒列(神戸市教育委員会)・蕃上山古墳(大阪府立泉州考古資

料館)・宮山古墳出土埴輪展示写真(奈良県立橿原考古学研究所附属博物館)・塚廻り4号古墳(群馬県立歴史博物館)・森将軍塚古墳(更埴市教育委員会)・観音山古墳

このほか写真関係では図録製作に対し、借用した施設・機関の援助を得た他、群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・講談社の手を煩らわせた。

⑩解説パネル

各地域のはにわ解説をはじめ、難解な名称には説明を加え、はにわ個々には題簽を付したり、翳・蓋には絵画説明をつけた。

⑪16mm映画

古墳とはにわとのかかわりを知っていただくため、開館日には随時16mm映画「古墳からみた大和朝廷」・「日本の古墳」を上映した。

⑫図録原稿執筆者

「埴輪の世界」大塚初重(明治大学教授)

「吉備のはにわ」間壁忠彦(跡倉敷考古館長)

「大和のはにわ」泉森 峻(奈良県立橿原考古学研究所調査課長)

「東海のはにわ」向坂鋼二(浜松市博物館長)

「総のはにわ」濱名徳永(芝山はにわ博物館長)

「上毛のはにわ」梅沢重昭(群馬県立歴史博物館副館長)

「信濃のはにわ」桐原 健(長野県史刊行会専門主事)

⑬はにわの移送等

梱包・搬入・搬出・移送等は株日本通運長野支店に委託した。

この展示会にあたっては、前記した各機関・施設の学芸員の方々のほか多くの人達のご協力をいたしました。中でも企画からご援助いただいた大塚初重氏・高橋護氏(岡山県総合文化センター文化課長補佐)にはいろいろご迷惑をおかけした。あつく感謝申しあげたい。

尚、図録正誤表のほかに参考文献13行目を小林達男・亀井正道『日本陶磁全集3 一土偶・埴輪』中央公論社昭和52年に、訂正いたします。関係者の皆さんにご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

(矢口忠良)

(4) 「昭和56年度新収蔵資料展」

期間 昭和57年3月20日～5月5日

会場 特別展示室

この展覧会は昭和56年度とそれ以前に寄贈されたものを中心に古文書・古書籍・古絵図・衣食住・交易・農耕・養蚕・機織り・手工諸職・信仰の各コーナーごとに展示した。この節に関しては、昭和56・57年収蔵品目録を参照されたい。

このほか麻に関する技術を集録するため、麻糸つむぎ、疊糸づくり等を松本静雄・みやとご夫妻に実演していただいた。

末尾であるが、寄贈者・寄託者にたいし、心から感謝申し上げます。

(山口明)



疊糸撚り

2 調査研究

1) 埋蔵文化財

博物館における調査に学術調査が位置づけられている。所謂緊急発掘調査であっても、調査研究の一環として現地に赴いている。そのためこれまでの発掘調査の類はこれらにあたっている。行政的分担では、教育委員会事務局社会教育課が、行政・事務的な面を担当し、調査を博物館が行うことになっている。昭和56年・57年に実施した調査は青木学芸員（社会教育課兼務）が主体となったものである。

(1) 浅川扇状地遺跡群

一牟礼バイパス A・E 地点遺跡一

期 間 昭和56年7月3日～8月31日

調査原因 県道牟礼バイパス建設に伴う緊急発掘調査。

出版物 「浅川扇状地遺跡群—牟礼バイパス A・E 地点遺跡」1982・3 長野市教育委員会
担当職員 矢口忠良・山口明・青木和明

調査結果 詳細については上記報告書を参照されたい。特記的成果としてA地点から本遺跡がのる浅川扇状地の扇央において、ないものと推察されていた縄文時代（前期）の遺構・遺物が発見されたことと弥生時代から古墳時代の接点の位置付近に編年される一括資料が得られたことである。



牟礼バイパス A 地点遺跡



牟礼バイパス A 地点遺跡

(2) 篠ノ井遺跡群

一聖川堤防上地点遺跡第2次調査一

期 間 昭和56年11月15日～11月26日

調査原因 聖川堤防改修に伴う緊急発掘調査・第1次調査（昭和55年度）の継続調査。

出版物 「篠ノ井遺跡群—聖川堤防上地点遺跡調査概報」1982・3 長野市教育委員会

担当職員 矢口忠良・山口明・青木和明

調査結果 弥生時代～平安時代にかけての複合遺跡である。前年度調査で、方形周溝墓・井戸址が多く発見され注意された。本年の第2次調査でもL形の溝址が発見されたり、弥生時代後期の焼失住居址が検出され、炭化した編物が確認された。これらに接する第3次調査に期待される。



聖川堤防上地点遺跡（第2次）

(3) 飯繩千日大夫屋敷跡

期 間 昭和57年 7月31日～8月5日

調査原因 学術調査

担当職員 山口 明・青木和明

調査結果 飯繩山中腹にある千日大夫屋敷跡の構造を解明するための第1次調査である。今回の調査では、屋敷跡とみられる平坦地の発掘調査と中心部の地形測量を行った。調査結果は屋敷の構造を知り得る資料を得られなかつたし、遺物もキセル1個を採集したのみである。当初修驗道関係の遺構・遺物が得られるものと期待されたが、その成果は次回の調査に持ちこされた。



飯繩千日大夫屋敷跡

(4) 土口將軍塚古墳

期 間 昭和57年 8月7日～8月12日

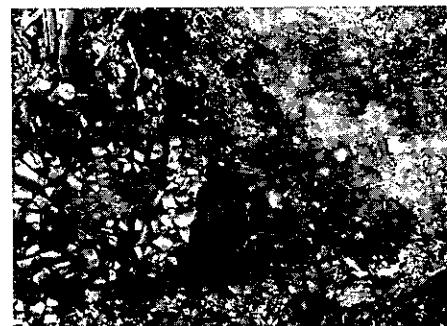
調査原因 学術調査

出版物 「土口將軍塚古墳第1次発掘調査概報」

1982.11 長野市教育委員会

担当職員 山口明・青木和明

調査結果 本古墳は長野市と更埴市にまたがっているため、両市の教育委員会が調査会をつくり調査したものである。今回は第1次調査ということで、墳丘周辺の地形測量と後円部に一本のトレーナーを設定し、墳丘構造と埴輪列のあり方をさぐり、来年度以降の調査の基礎資料を得ることにあった。トレーナー調査では小角礫の葺石をもち、中段を構成し、この段上に埴輪が据えられた可能性があることがわかつってきた。



土口將軍塚古墳（主体部）



土口將軍塚古墳（葺石）

(5) 川田条里的遺跡

期 間 昭和57年 8月17日～8月23日

調査原因 圃場整備事業に伴う緊急発掘調査

出版物 報告書作成中

担当職員 青木和明

調査結果 埋没している可能性のある旧畦畔や水田面の確認のための試掘調査であった。試掘坑1箇所より旧水路と畦畔らしき遺構を確認したほか、遺構・遺物は検出し得なかった。

ただし、旧水田面と推定される粘土層が2層にわたって存在することを確認するため、その可能性を裏づけるための花粉分析を実施し、種々のデーターを得ることができた。



川田条里的遺跡

(6) 浅川扇状地遺跡群

—迎田地点遺跡—

期 間 昭和57年4月8日～4月17日

調査原因 圃場整備事業に伴う緊急発掘調査

担当職員 山口明・青木和明

調査結果 試掘により弥生時代から平安時代にかけての多数の遺物とその包含層が確認された。事業工事による破壊を最小限にとどめるため、道路部分施工に際し立合い、遺構の上面が1か所露呈したため拡張発掘し、平安時代住居址1軒と、それに伴う遺物を検出した。



迎田地点遺跡

(7) 小島・柳原遺跡群

—小島境地点遺跡(第1次)—

期 間 昭和57年9月16日～10月16日

調査原因 特殊宅地造成事業に伴う緊急発掘調査

出版物 報告書作成中

担当職員 山口明・青木和明

調査結果 弥生時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。低湿地が断続的に広がるような地形上での微高地に集落遺跡が存在し、地理的に特殊な位置を占めている。検出された遺構には古墳時代前期の住居址が含まれており、そのうちの1軒から攻玉に関連した遺物が多数出土し、玉造りの工房址と推定される。来春第2次調査が予定されており、その成果が期待されるところである。



小島境地点遺跡（第1次）



小島境地点遺跡（第1次）

(8) 篠ノ井遺跡群

—聖川堤防上地点遺跡(第3次)—

期 間 昭和57年10月15日～11月10日

調査原因 聖川堤防改修に伴う緊急発掘調査

出版物 「篠ノ井遺跡群—聖川堤防上地点遺跡第3次調査概報」1983・1 長野市教育委員会

担当職員 矢口忠良・山口明・青木和明

調査結果 前年確認された編物炭化物を出土した住居址を完掘し、前年確認した溝は前方後方形の張り出しを有する方形周溝墓であることが判明した。今回の調査で箱清水式期の方形周溝墓が確認され、多量の遺物が溝内より発見された。またもう一つの同時期の円形周溝墓主体部より人骨に伴って鉄剣・鉄釧が出土したことは特記にあたいしよう。



聖川堤防上地点遺跡（第3次）

(9) 安庭遺跡

期 間 昭和57年11月10日～11月13日

調査原因 国道19号線拡張に伴う緊急発掘調査

担当職員 青木和明

調査結果 安庭遺跡は長野市において最も規模の大きな縄文時代（中・後期）の遺跡と推定されている。国道周辺までこの遺跡が及んでいるものと考えられるので、分布調査的な試掘を行った結果、遺構・遺物を確認することはできなかった。



聖川堤防上地点遺跡（第3次）

(10) 石川条里的遺跡

期 間 昭和57年12月1日～12月7日

調査原因 圃場整備事業に伴う緊急発掘調査

出版物 報告書作成中

担当職員 青木和明

調査結果 現在の地割りには条里的景観が残存していない地区であったが、埋没している可能性のある旧畦畔等の確認のため試掘を実施した。試掘は農道付設部分に限られたが、現存している条里的地割りに連続する埋没畦畔と旧水田面とが良好に遺存していることが判明し、従来推定にとどまっていた石川条里的遺構範囲を実証する資料となった。特に巾6m（推定）の畦畔の検出は、条里的遺構の構造を解明する上で重要な発見といえよう。



聖川堤防上地点遺跡（第3次）



石川条里的遺跡

2) 民俗文化財

長野市とその周辺地域に伝承されている無形の民俗文化財を主体に調査・記録を進めている。また企画展示では実演展示にも力を入れ、これらも収録している。

(1) 虫送り祭り

調査月日 昭和56年8月4日

調査地 長野市篠ノ井東横田

調査者 山口明

内容 虫送りは農作業における害虫駆除を目的とする行事である。

早朝にヨシ切りに行き、虫とり・虫籠づくり・松明づくりをしたあと「ナニムシオクレ」と村の中を大



虫送り祭り（東横田）

声あげて触れまわり、観音寺で虫供養をし「風雨順時」・「天下泰平」・「五穀豊穣」を祈る。

夜7時に更級横田神社でお祓いをすませると虫送りの行列が出発する。子供たちの行列は途中で松明に火をつけ、村境の岩野橋まで先を争って走る。岩野橋に着くと松明・虫籠が千曲川に投げ込まれる。

(2) 三十三燈籠

調査月日 昭和56年8月9日

調査地 長野市篠の井塩崎山崎

調査者 山口明

内容 当日の午後、山崎区の公会堂で区内の男子による燈籠づくりが行われ、完成後前庭の火の見櫓に建てかけられ、御神酒・野菜・魚類を供え、区長の音頭で「イーサー」を全員で三唱する。

午後9時、若衆が公会堂に集まり、火縄振りを先頭に、横にした舟形竿燈に各役を配置し、旧道を長谷寺に疾走するのである。長谷寺の石段をかけ登り、観音堂前に三十三燈籠を献納し、建てる。長谷区の獅子舞奉納が終わると三十三個の燈籠は倒されて点火獻燈され、雨乞と豊作を祈願する。このあと竿燈を勢いよく倒し、公会堂まで馳せ戻る。祭りが終わると公会堂で直会となる。

(3) 玉依比売命神社御神事

調査月日 昭和57年1月6・7日

調査地 長野市松代町東条

調査者 山口純一・矢口忠良・山口明・樋口良江・

水晶紫乃・倉嶋千智

内容 御神事は御田祭・児玉神事・包換神事の三部からなる。御田祭は6日に行われ、3名の独身男性が作男に扮装し、田起しから代かきそして田植えまでの所作を行う。7日は午前8時から児玉神事とこれに併行して総代による包換神事が行われる。児玉神事は、御玉読みともいわれ、社宝として収蔵されている勾玉等を一つ一つ数えあげ、その増減により吉凶を占う行事である。包換神事は、前年神前に上げた蒸御飯の粂のつき方によって作柄の豊凶が占われる。

児玉神事中、勾玉は県宝に指定されている。

今回の調査は、これらの神事経過を白黒写真・スライドで記録した。



虫送り祭り（東横田）



三十三燈籠



児玉神事（御玉読み）

(4) 芦ノ尻道祖神祭り

調査月日 昭和57年1月7日

調査地 更級郡大岡村芦ノ尻

調査者 矢口忠良・山口明・坂口清子・倉嶋千智

内容 道祖神碑にヤスや七・五・三などのしめ縄を使って、顔をつくる珍らしい行事で、千曲川古代文化研究所刊『芦ノ尻道祖神祭』以来有名になり、今年も各地からカメラマン・研究者が取材にあたっていった。

しかし、玉依比売命神社御神事の取材を終えてから行ったため、最後の飾り付けしか記録することができなかった。来年を期待している。



包換神事



芦ノ尻道祖神祭

(5) 高岡の道祖神祭り

調査月日 昭和57年1月14・15日

調査地 長野市若穂保科高岡

調査者 山口明・水晶紫乃・大林育葉・坂口清子・樋口良江・倉嶋千智

内容 保科高岡は20戸余りの山間地の集落で、伝統的な民俗行事を常々と保持している。

1月14日には蘭玉・野菜や縁起物を米の粉でつくるものづくりを行う。

その後、戸主がヌルデの木に和紙を着せて人形道祖神を一対つくり、年神棚に供える。

翌15日の夕刻、人形道祖神を年神棚より下げ、道祖神の前に安置する。6時頃よりどんど焼きに火をつけ、古い人形道祖神や松飾りを燃やす。その後7時からは、公会堂の中に作られた囲炉裏のまわりに部落全員が集まり、村人注視の中でまっかに焼けた鉄皿の中になづきを一粒づつ入れ、なづき焼き占いを行い、農作物の豊凶を占うのである。

一通りの占いが終わると直会となる。



ものづくり（保科高岡）



なづき焼き占（保科高岡）

(6) 栗田の道祖神祭り

調査月日 昭和57年1月15日

調査地 長野市栗田

調査者 山口明・樋口良江・坂口清子・倉嶋千智

内容 栗田地区では東組・中組・西組と育成会でどんど焼きを行っている。今回調査したのは東組で、道祖神祭りとどんど焼きが習合して行われている。早朝、各家より松飾りが下げられ、どんど焼きをする空地に集められる。東組の人たちによってどんど焼きの準備

がすすめられる。このあと区長をはじめとした役員が道祖神の前に御神酒・御菓子などを供え、全員で五穀豊穣・家内安全などを祈願して散会する。

夕方のどんど焼きの様子については、高岡の取材のため、残念ながら未調査である。

栗田は市街地にあるにもかかわらず、道祖神祭がまだ毎年行われており、貴重な存在である。以前は道祖神日待ちなども行われていたようである。



どんど焼き（栗田）

(7) もぐら追い

調査月日 昭和57年1月19・27日

調査地 長野市川中島町今里

実演者 小林芳夫妻

調査者 山口明・水晶紫乃・樋口良江

内容 害鳥を追う鳥追い、害獣を追う猪追いと同じく、田畠を荒らすもぐらの害を除くために行われる予祝行事の一つである。

現在、もぐら追いは善光寺平ではほとんどみられず、今里字古森沢の小林芳さん宅に残されているだけである。従って、小林芳さん宅にて、二回にわたって調査を行った。

1月15日早朝、まだ暗いうちに戸主が肥桶の縁をきいきいと天秤棒でこすり、奥さんが「モグラホイ、ヘビもムカデも山行けホイ」と歌いながら、家の回りを杵でたたき回る。家の回りをたたき終わると玄関から出入り口の方にたたいて、もぐらを自分の家より追い出す。以前には田畠でも同じようにして、自分の農地よりもぐらを追い出した。

本来1月15日に行うべきところをこちらの都合で日をずらしていただき、1月27日にビデオ収録・写真撮影を行った。



どんど焼き（綿内古屋）



もぐら追い

(8) 桐原牧神社祭り

調査月日 昭和57年3月8日

調査地 長野市古野字桐原

調査者 山口明

内容 古来より桐原の地は良馬を産出した牧であった。良馬産出の祈願にワラの駒形をつくって神前に奉納した神事が現在まで伝承されている。

早朝8時半に御幣を先頭に、氏子総代の家を行列が出発し、神社に着くと駒を奉納し、神主がお祓いをする。このあと一般の人たちが駒や生活用品が当る福引



もぐら追い

きを順に引く。

桐原では駒を作りた人が次第に少なくなってきたため、保存会を結成して後継者育成に努めている。

今年は祭までに山岸喜七さん・中村義人さんや後継者らによって250余体の駒が作られた。また桐原の駒は種馬であるため、男根をつけるが、実に細やかにつくられている。



桐原牧神社祭り

(9) 春祭り

調査月日 昭和57年4月19・20日

調査地 長野市真島町川合（川合神社）

〃 〃 真島（清水神社）

調査者 山口明

内容 春祭りは「祈念祭」とも呼ばれ、豊作を祈念する祭りである。従って、秋祭りの収穫祭のようなぎやかさはない。

更北地区では、4月20日前後に春祭りが集中して行われ、轍が高くかかげられる。

清水神社で19日と20日の両日が春祭りにあてられて、20日には各部落の氏子惣代らが境内で官司よりお祓いを受けたあと、神前に進み、着座する。このあと燈籠に献燈し、官司が祝詞をあげる。氏子惣代が神前に進み出て玉串を捧げて拝礼し、最後に皆で手打ちを3回行い、「豊かな実りが迎えられますように」と惣代が唱えて神事が終わる。

川合神社では、神事とともに19日の晩に神樂が神社を出発して村の中を道中囃子でまわり、再び神社に帰って獅子舞を奉納する。春祭りに獅子舞を奉納するという点で間近の清水神社と異なるのは興味深い点である。



桐原のワラ駒



春祭り（清水神社）

(10) 虫送り

調査月日 昭和57年7月31日

調査地 長野市篠ノ井信里犬石

調査者 山口明

内容 長野市内で、虫送り行事が伝承されているのは前年に調査した篠ノ井東横田と今回調査した犬石の二か所だけと思われる。

犬石は戸数33戸の小さな集落であるが、早朝に公民館に子供たちが集まり、育成会の指導で稻わらを束ねその中に青竹を2本わたし、互いに協力しながらつくっていく。こうして作られたものは「おみこし」と呼



春祭り（川合神社）

ばれている。一通り作り終わると子供たちは散会する。

晩になると子供たちが集まり、松明を先頭に御輿をかついだ行列が公民館を出発し、「ナ-イ虫送れ、ワッショイ」と大声で歌いながら、村の中を触れまわる。以前は鉢をたたいたりしたということであるが、現在は鳴り物は使われない。行列は村境まで行き輿に点火される。

犬石の虫送りは現在、子供たちが中心になって行っているが、戦前や昭和30年頃までは大人が中心であつたということである。輿の形態も今作られるようなものではなく、竹で高さ2.5mほどの四角錐の枠をつくり、中にむぎわらを束ねて、つめたものであった。

こうした輿もさることながら、祭の内容もだいぶ簡略化されてきているように思われる。

東横田の虫送り祭は虫供養という側面が強いが、犬石のは現在みる限り、虫供養という点は窺えない。両者の相違は大変に興味深い点である。

以上、主として民間に伝承されている集団としての行事を調査した。しかしこれらの調査は、行事の様子及び進行を記録に残すことに重点をおいたため、行事そのものに内在している諸要素を把握するまでにいたっていない。今後、聞き取り等回を重ねて訪問し、記録を充実するとともに資料化していきたい。

(山口明・水晶紫乃)



虫送り（犬石）



虫送り（犬石）



虫送り（犬石）

3) 天体学習室

〔運営方針〕

プラネタリウムの投影室を天体学習室と呼んでいる。通常の平日は学校教育関係の理科教育センターが使用し、土曜・日曜及び祭日は当博物館が使用することになっている。当館が使用する場合は一般を対象に投影しているが、それは劇場などのように楽しみを中心とする所ではなく、あくまで天体のことについて学ぶ場・教室と考え、また事故防止の立場から投影の際に次の注意をお願いしている。

- 投影開始後の学習室への出入はできないこと。
- 自分の席を立たないこと。
- 話をしないこと。
- 機械類には絶対に手を触れないこと。
- 室内での飲食・喫煙はしないこと。

〔投影時間等〕

午前9時30分・11時、午後1時・3時の4回である。このほか小中学校が長期休業の時は、午後2時1回の特別投影を行っている。投影時間は各番組とも40分前後としている。

尚、入館者数に限りがあるため、当初団体予約を受け付けていなかったが、利用者が落ちついてきた4月からは、第1回目を原則として定員内で団体予約席を設けている。

〔投影内容〕

当初番組の制作を㈱五藤光学研究所に委託していたが、当館職員の手による番組制作が可能のため長野の空にふさわしい題材で、昭和57年夏の番組から自主制作にかえた。

(1) 秋の番組（昭和56年9月～11月）

①話題「アンドロメダ大星雲への旅」

宇宙船皆神1号が、火星・木星・土星等を通り、危険なブラックホールを無事通過して、アンドロメダ大星雲へ旅をする話。

②スカイライン「長野市の昼と夜」

③星・惑星・星座・星雲等 「火星・木星・土星・カシオペア座・ペガサス座・北極星・ペルセウス座・ケフェウス座・アンドロメダ座(M31)」

④神話「アンドロメダ座とペルセウス座」

⑤スタッフ・企画制作 ㈱五藤光学研究所

(2) 冬の番組（昭和56年12月～57年2月）

①話題「天の川をさぐる」

ガリレオの天の川観測から始まり、ハーシェル・カブタインの宇宙や、シャプレーの週期光度関係等により、天の川の姿を説き、更にハッブルの音叉から銀河系の進化を考える。

②スカイライン「ピラミット・海・長野市の昼」

③星・星座・星団等（天の川・オリオン座〈ベテルギウス、リゲル・ガス星雲M42〉・ケフェウス座〈変光星δ〉・牡牛座〈アルデバラン・プレアデス星団〉・大犬座〈シリウス・伴星一白色矮星〉・小犬座〈プロキオン〉・冬の大三角形・兎座〈球状星団M79〉・馴者座〈カペラ〉・ペルセウス座・アンドロメダ座〈大星雲M31〉・双子座・かに座・獅子座）

④神話「オリオン座」

⑤スタッフ・企画制作 (株)五藤光学研究所

(3) 春の番組 (昭和57年3月～5月)

①話題「太陽系の発見」

太陽系の惑星の動きについて、プラテマイオスの天動説、コペルニクスの地動説、ケプラーの法則等について話を進め、更に、ポイジャーなどの探査機によって撮られた写真をもとに、それぞれの惑星や衛星の姿を紹介する。

②スカイライン「春の田園風景・森と野原・長野市の昼」

③星・星座・惑星等「大熊座〈北斗七星〉・小熊座〈北極星〉・牛飼座〈アーチトウルス〉・乙女座〈スピカ〉・春の大曲線・火星・土星・木星・水星・金星・天王星・海王星・冥王星」

④神話「大熊座・小熊座」

⑤スタッフ・企画制作 (株)五藤光学研究所

(4) 夏の番組 (昭和57年6月～8月)

①話題「宇宙からの訪問者—彗星・流星—」

ツングース事件の原因や、ハレー彗星の由来から、彗星の構造・軌道等について話を進め、更に、流星や隕石についても取り上げる。

②スカイライン「ツングースの森林・彗星(6個)・長野市の昼」

③星・星座・惑星・彗星等(さそり座〈アンタレス〉・火星・南斗六星・わし座〈アルタイル〉・琴座〈ベガ〉・白馬座〈デネブ・アルビレオ・X-I〉・夏の大三角形・ハレー彗星・イケヤ・セキ彗星・コホーテク彗星・ペネット彗星・ウエスト彗星・ヒューメイン彗星)

④神話「琴座」

⑤スタッフ

声 林 勇・竹内淳子

絵 井原美恵

企画制作 長野市立博物館

(5) 秋の番組 (昭和57年9月～11月)

①話題「オズの国をもとめて」

「オズの魔法使い」の童話から、文明ある星との交信を目指したドレイクの「オズマ計画」に話を進め、更に、野辺山宇宙電波観測所について紹介する。

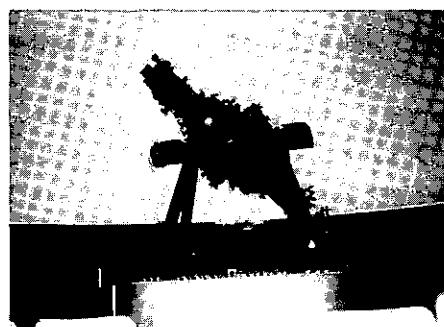
②スカイライン「オズの国・野辺山宇宙電波観測所」

③星・星座等「鯨座〈 τ 〉・エリダヌス座〈 ϵ 〉・ケンタウルス座〈 $\alpha \cdot \beta$ 〉・南十字星・ペガスス座・アン

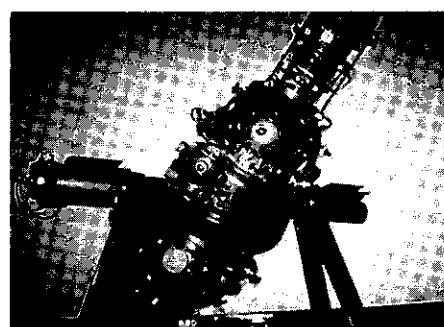
ドロメダ座・カシオペア座」



天体観測ドーム



プラネタリウム



プラネタリウム(部分)



天体学習室

④童話「オズの魔法使い」

⑤スタッフ

声 富士原茂子・松木正則・川井恵美

絵 井原美恵

企画制作 長野市立博物館

(6) 冬の番組(昭和57年12月～58年2月)

①話題「オリオンの若き星たち」

北信の冬の気象から、冬の星座へ話を進め、星の進化の過程の話を交えて、オリオン座を構成している星たちを語る。

②スカイライン「冬の八幡原」

③星・星座等「大犬座〈シリウス〉・竜骨座〈カノープス〉・双子座〈カストル・ポルツクス〉・小犬座〈プロキオン〉冬の大三角形・オリオン座〈ペテルギュース・リゲル・三つ星・ベラトリックス^{ベタシグマ}・オオタウガ・オリオン大星雲・トラペジウム・K L 天体・B N 天体〉・牡牛座」

④神話「オリオン座・小犬座」

⑤スタッフ

声 富士原茂子

絵 井原美恵

企画制作 長野市立博物館

〔出版物〕

各番組毎に、投影内容に合せB5版3色刷二ツ折パンフレットを発行している。このパンフレットには、「八幡原情報」として季節による月の満ち欠けや天体に関する特記事項を掲載している。

〔施設・設備〕

(1) 座席数 120席

(2) 天体ドームの大きさ 直径12m・高8m

(3) 投影機

①プラネタリウム機種

五藤光学研究所G X A T型

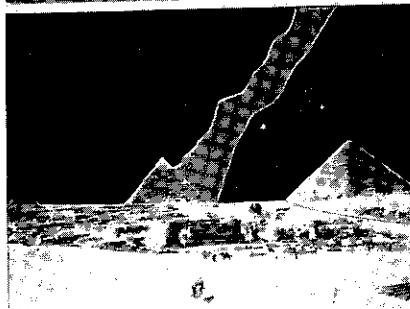
②附属投影機

ツインスライド投影機・ズームスライド投影機
ユニプロジェクトター150型・ドーム用スライド投影機・回転式星座絵投影機・汎用星座絵投影機・惑星パノラマ投影機・太陽系投影機・流星群投影機・渦巻星雲投影機・稻妻投影機・宇宙船投影機・コメット投影機・オーロラ投影機・日月食投影機

(倉島平吾・西川昭史)

プラネタリウム

1981-82 冬



天の川をさぐる



宇宙からの訪問者



オズの国をもとめて

パンフレット表紙

3 教育普及活動

1) 講演会

開館記念講演会を除き他は企画展・特別企画展の内容に合せて開催している。

(1) 開館記念講演会

①日時 昭和56年9月23日 午後1:30~

会場 特別展示室講堂

講演 「世界の古墳」

講師 大塚初重（明治大学教授）

聴講者 約130名

内容 欧州・エジプト・インド・中国・韓国そして日本の古墳を図入テキストを使用し、その実態を解明するとともに、日本の古墳へのかかわりを解説された。



講演 大塚初重氏

②日時 昭和56年11月23日 午後1:00~

会場 特別展示室講堂

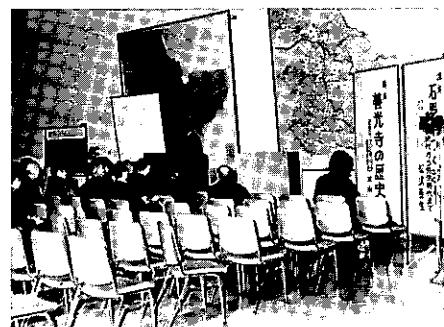
講演 「石器をつくる—旧石器時代から弥生時代まで」

講師 松沢亜生（奈良国立文化財研究所考古研究室長）

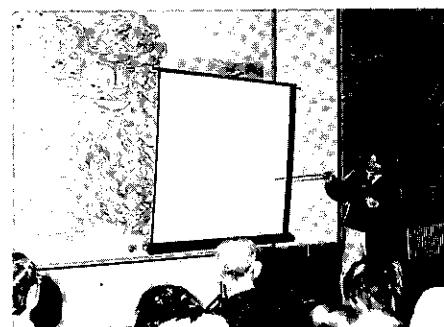
聴講者 約80名

内容 この講演会は、石器がつくられる過程の基礎知識や歴史性をスライドと実演を通して解説が加えられた。石の性質・割れ方・加工技術等を具体的に呈示するたびに人だかりができるなど、石器について再発見・再確認する機会でもあった。

尚、この他、アメリカのクラブトリー博士からいただいたという見事なフリント製の石器等を持参いただいた。



講演 松沢亜生氏



講演 松沢亜生氏

③日時 昭和56年11月23日 午後3:30~

会場 特別展示室講堂

講演 「善光寺の歴史」

講師 米山一政（長野市文化財保護審議会長）

聴講者 約60名

内容 前記した松沢先生の講演が延びたためと、米山先生の熱心な講演のため、終了したのが5時20分をまわっていた。聴講者はおりからの寒さの中にもかかわらず最後まで耳を傾け、善光寺の歴史に興味を示す人



講演 米山一政氏

が多いことを物語っていた。講演は善光寺の創建期の諸問題から近世に至るものであったが、中でも善光寺の再建の話には熱が入っており、拝聴するに値するものであった。

(2) 企画展「長野の祭り」講演会

日時 昭和57年7月10日 午後2:00~

会場 特別展示室講堂

講演 「民俗芸能採訪」

講師 浅川欽一（長野市文化財保護審議会委員）

聴講者 約30人

内容 当日が土曜日だったので、聴講者は少なかつたのが残念である。講演は浅川先生が県下の民俗芸能を採集しつづけた中で、最も思い出深いものとして、下伊那郡阿南町に伝承されている「新野の雪祭り」が紹介された。これは遠山の霜月祭り・坂部の冬祭りなどと共に重要無形民俗文化財に指定され、伊那谷を彩る著名な祭りであり、民衆の根強いエネルギーと祭りの原点を説かれた。



講演 浅川欽一氏



講演 浅川欽一氏

(3) 特別企画展「はにわの世界」講演会

日時 昭和57年9月23日 午後2:00~

会場 博物館会議室

講演 「はにわ」

講師 村井嵩雄（東京国立博物館考古課長）

聴講者 約110名

内容 展示室の都合で、今回は80人収容の会議室で開催したところ、予想より多くの人達の拝聴をいただき、あわてて椅子を用意する一幕もあった。講演は村井先生が長年にわたって研究・収集してきた日本の代表的なはにわがスライドを通して紹介された。はにわ一つ一つに個性があり歴史がある点を解説され、「はにわの世界」展を観覧する上で、大変参考になる有意義な講演会であった。



講演 村井嵩雄氏



講演 村井嵩雄氏

(4) その他研究会等

当館主催ではないが後援・協力等で当館を利用して行われた研究会・講演会等を記す。

①長野県考古学会秋期大会

日時 昭和56年11月29日

午前10:30~午後3:00

会場 特別展示室講堂

主催 長野県考古学会

参加者 約60名（長野県考古学会員）

内容 特別協議及び会員の研究発表

②弥生時代シンポジウム

日時 昭和56年12月6日

午前9:00～午後4:00

会場 特別展示室講堂

主催 千曲川水系古代文化研究所ほか

参加者 約120名（長野県・群馬県・埼玉県ほか弥生時代研究者）

内容 箱清水式土器をめぐって。

③信濃史学会北信支部例会

日時 昭和57年2月7日

午前10:00～午後3:00

会場 会議室

参加者 約40人（信濃史学会員）

内容 討論及び会員の研究発表

④松代地震センター設立15周年事業

日時 昭和57年8月28日

午前2:30～午後5:00

会場 特別展示室講堂

主催 松代地震センター

参加者 約80名（一般会員）

内容 「地震の講演と映画の会」

講演 「松代地震と思い出」・「東海地震とその予知について」

映画 「そのときを知らせるために」・「地震の話」

2) 博物館教室・常設展示室実演等

常設展示の内容を深めるためと、博物館が市民の皆さんの学習にたいする要求に答えるため当館が対処できる範囲で企画したものである。講座は講義を基本とし、教室・常設展示室実演等は実習・演習をするものに位置づけている。しかし講座は一定期間学習にたいし拘束力があるので、本年度は企画しなかった。むしろ教室を年次講座と考えている。

(1) 博物館教室

①博物館化石教室

日時 昭和57年6月5・6日

会場 教室・戸隠村化石採集地・戸隠村郷土資料館

講演 「化石の話」



弥生時代シンポジウム



弥生時代シンポジウム



講義 田中邦雄氏



化石採集

講師・指導者 田中邦雄（信州大学教授）・木舟清
(池田町会染小教諭)・中川政幸（戸隠村郷土資料館）

協力者 戸隠村教育委員会・戸隠村郷土資料館・羽
田純一（戸隠村）

受講者 40名定員、市内に住む小学6年生以上（た
だし小中学生の場合は父兄同伴）で両日参加
可能の人を公募

持ち物 ハンマー・五寸釘・新聞紙・タオル・マジ
ック・その他

内容 第1日目は博物館教室において田中・木舟・
中川各先生により、テキストとスライドを交えた化石
についての講義が行われ、化石のでき方・各時代の化
石の種類等を学んだ。

第2日目は戸隠村積沢において化石が含まれている
砂岩塊を各人2~3個を採集し、戸隠村郷土資料館で
化石を見学したあと教室で、採集した化石のクリーニ
ングを行った。最後に田中先生によって化石に名称が
付され、最も良い状態でクリーニングされている化石
の発見者3名に特別賞を、他の参加者には参加賞を贈
り閉講した。

②夏の天体教室

日時 昭和57年7月17日・8月10日・8月14日

午後6:30~9:00

会場 天体学習室・天体観測ドーム・前庭

講演 「夏の星座のさがし方」

講師 大蔵満・倉島平吾・西川昭史（以下同じ）

受講者 定員各回30名、長野市民一般（ただし小中
学生は父兄同伴）を公募

持ち物 筆記用具・星座早見盤・懐中電灯・双眼鏡等

内容 16mm映画「星の動きをしらべる」「夏の星座」
観賞後、星座早見盤をもとに目的の星座がある位置を
確かめ、プラネタリウムと実際の天空で探し出すこと
が主題である。この学習会は、天候に左右されるところが大き
く、前庭で観察できたのは8月14日のみで、
参加者をがっかりさせた。

尚、観測機器として15cm天体望遠鏡・8cm天体望遠
鏡5台を使用した。

③秋の天体教室

日時 昭和57年10月16日・11月6日・11月13日

午後6:00~8:00

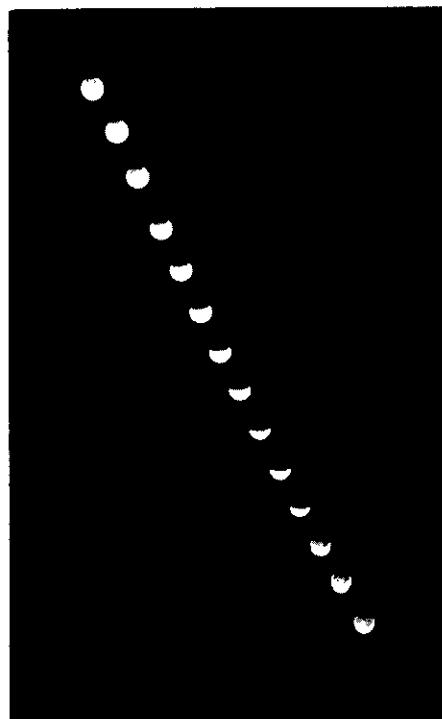
会場 天体学習室・前庭



化石採集



クリーニング



皆既月食

講演 「秋の星座と星雲星団」

受講者 各回50名定員、小学生4年以上の長野市民
(ただし小中学生は保護者同伴)を公募・講師・
持ち物は前回と同様である。ただ3回目は星
座の知識を少しでもある方を対象とした。

内容 前回とはほぼ同様であるが、16mm映画に「星の
動きを調べる」「宇宙太陽系」等を使用した。第3回目は、
テーマは同じだが、内容は星座について専門的
解説を加えた。

④月食を観測する天体教室

日時 昭和57年12月30日

午後5:00～観測後自由解散

会場 天体学習室・前庭

講演 「月食と日食」

講師及び持ち物等は前回と同様である。

受講者 定員60名・条件は前記教室と同じ。

内容 年末及び寒期にあたり、受講者の参加があや
ぶまれたが、当日の参加は48名であった。教室はプラ
ネタリウムとテキストで何故月食がおこるのかそして
本日の月の運行位置等を勉強した後前庭で月食観測を
することにした。今回の皆既月食は1月10日に続き本
年2度目だが、次に長野市の夜空で観測できる皆既月
食は昭和60年5月5日まで待たねばならない。この教
室も当日は夕方まで雨や雪が降り続く荒れ模様の天候
で、観測が心配された。しかし夜になってからは、時
々雲が月にかかる程度で、小雪が舞っていたものの雲
間から月の欠ける様を観察することができた。皆既月
食に入ったことをみきわめて受講者は解散していき、
閉講となった。

⑤古墳教室

日時 昭和57年8月8日

午前10:00～午後4:00

会場 教室・土口将軍塚古墳・森将軍塚古墳

講演 「長野盆地の古墳」

講師 矢口忠良・山口明・青木和明

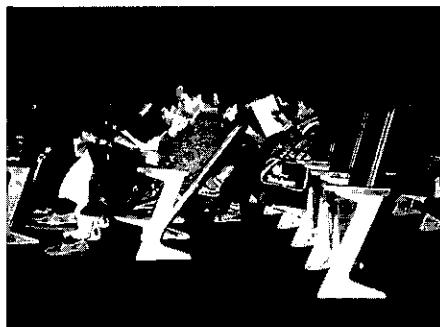
協力者 更埴市教育委員会・土口将軍塚古墳発掘調

査団・森将軍塚古墳発掘調査団

受講者 定員40名、小学生以上の長野市民(ただし
小学生は保護者同伴)

持ち物 筆記用具・地図(更埴地方図)

内容 午前は16mm映画「日本の古墳」を鑑賞し、古
墳の概要を知った後に長野市周辺の特に前期的山頂古



天体学習



天体学習



天体教室



土口将軍塚古墳見学

墳をスライド・テキスト及び地図をもとに講義を行った。

午後は昼食を古墳上でとることにし、おりから発掘調査を実施中の土口・森両将軍塚古墳を見学した。土口将軍塚古墳では、この古墳の特殊性を小林秀夫調査主任（長野市桜ヶ丘中教諭）より説明を受け、森将軍塚古墳では、時を同じくして一般見学会が開催され、調査団長である岩崎卓也先生（筑波大学助教授）・矢島宏雄先生（更埴市教育委員会）から、この古墳が長野盆地に占める歴史的意義を含めた調査概要が説明された。また主体部から出土した三角縁神獸鏡・丁字頭勾玉等実見できた。



森将軍塚古墳見学

⑥しめ縄づくり教室

日時 昭和57年12月19日

午前10：00～午後4：00

会場 教室・会議室

講演 「しめ縄について」

講師 倉石忠彦（長野県史刊行会専門主事）

実技指導 宮島克己（長野市丹波島）

協力者 南沢将男（篠ノ井石川）

受講者 定員25名（実質35名）、市内在住の成人を公募

材料費 200円

内容 この教室は前年常設展示室内で実演を行った際、ワラを持ち込んでくる人がある程人気があったため、今年から教室として開講したものである。博物館の事業として単に講習会的なものであって良いのだろうかということを考慮して、しめ縄の歴史・そしてそれらがもつ意味・地域性を考える解説を午前中、特に倉石先生にお願いし講演をいただいた。

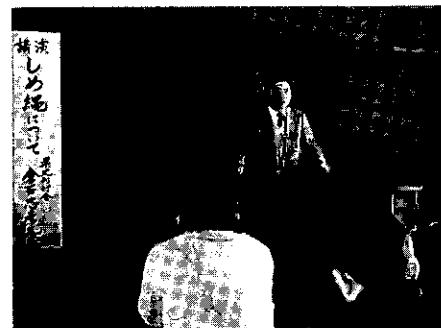
午後は宮島先生の実技指導によりしゃくじじめ・ごぼうじめ・足つき大黒・三尺横じめ・輪じめ・大黒じめ等6種のしめ縄をつくった。これらは、来年の正月に門松・しめ飾りとして飾られことだろう。

(3) 常設展示室内実演等

前記した常設展示室の項で触れたが、二階民家内で、昭和56年においては、年末・年始に吉沢梅吉・宮島克己氏によるワラによる細工物、高木妙子・小林こう氏によって機織りが行なわれたり、餅つき・ものづくり等の実演が行われた。これらのいくつかは博物館の恒例事業としていきたいと考えている。



森将軍塚古墳見学



講演 倉石忠彦氏



実技指導 宮島克己氏

以上、少ない人員で力以上の仕事をしてきたように思う。しかし化石教室では、運営にたいし博物館の指導性に厳しいご叱責があったり、これらの教室には市有マイクロバスを使用したため、また機器に限りがあったため、学習可能な人員枠を設定せざるを得なかった。参加できなかった多くの市民の皆さんにはご迷惑をおかけした。これにたいして回を数えるごとに、公募期日を延期したり回数を増やしたりして改善の道を歩んでいますのでご容赦下さい。

(矢口忠良)

3) オリエンテーション

事前に申し込みを受けた団体、及び当日申し込まれた場合にも所要時間を配慮した上でオリエンテーションを実施している。常設展示室の展示構成の紹介を中心に館の施設の案内、催事、特別展の予告等の簡単な説明を行う。団体の来館目的に応じたり、年少者の多い場合には諸注意も加えて、20~40人程度は教室・200人以内だったら講堂・エントランスロビーで、それ以上だと前庭で行い、時間のない方には展示室前を利用している。実施した主な団体は、学校教育の一環として来館する小学5・6年生・中学生・地域育成会・老人会・婦人団体・郷土史関係団体・市職員研修所等がある。

展示室内での案内・質問解答には学芸員（解説員）が當時館内を巡回し、その任にあたっている。

この他来館者の持参する資料解説や専門的質問等にたいしては、相談室にて担当職員が対応しているが、今までに10数件あったのみである。もっと利用していただきたい。

(倉嶋千智)

4) 館外での普及活動

博物館主催・後援等のものでなく、外部機関・団体の依頼により講演会・講習会・学習会等に講師・指導者・解説員として派遣されたものと、博物館が行なった広報活動について記す。

(1) 講師・指導者・解説員

事 業 名	期 日	主 催	講 演 題	講 師
野外彫刻めぐり	56・6・26	公 聽 課	彫刻の見方・製作意図・作品解説	藤森治幸
〃	〃・9・7	〃	〃	〃
〃	〃・10・20	〃	〃	〃
〃	57・6・24	〃	〃	〃
〃	〃・9・27	〃	〃	〃
〃	〃・10・22	〃	〃	〃
松代地区史跡めぐり	56・10・13	職 員 研 修 所	史跡・文化財解説	山口純一
郷 土 の 歴 史	57・2・27	更北公民館小島田分館	川 中 島 の 戦	和田 博
ふるさと学級	〃・9・25	南 部 公 民 館	芹田をとりまく歴史	藤森治幸
〃	〃・10・23	〃	〃	〃
生 活 教 室	〃・10・14	〃	野外彫刻解説	〃
〃	〃・10・30	篠ノ井公民館	川柳將軍塚古墳について	矢口忠良
母 親 学 級	〃・11・19	〃	古代の篠ノ井	〃
〃	〃・11・16	〃	篠ノ井の歴史	和田 博
〃	〃・11・17	〃	〃	〃

(2) 刊行物・広報等

名 称	年 月 日	規 格	備 考
常 設 展 示 概 説	56・9・23	B 5本文68頁	常設展案内用
長 野 市 立 博 物 館	〃	B 5本文15頁	建物概説
機 織	〃	A 4変二ツ折	企画展「機織」パンフレット
長 野 市 立 博 物 館	〃	A 4変四ツ折	常設展示パンフレット
アンドロメダ大星雲への旅	〃	A 4二ツ折	プラネタリウム1981秋パンフレット
天 の 川 を さ ぐ る	〃・12・1	〃	〃 1981-82冬 〃
太 陽 系 の 発 見	57・3・1	〃	〃 1982春 〃
宇 宙 か ら の 訪 問 者	〃 6・1	〃	〃 1982夏 〃
オズの国をもとめて	〃 9・1	〃	〃 1982秋パンフレット
オリオンの若き星たち	〃 12・1	〃	〃 1982-3冬 〃
長 野 市 立 博 物 館	〃 5・1	A 4変二ツ折	常設展示室宣伝パンフレット
博 物 館 だ よ り 第 1 号	〃・8・1	B 5 4 頁	館報
長 野 の 祭 り	〃・6・26	A 4二ツ折	企画展「長野の祭り」パンフレット
は に わ の 世 界	〃・9・23	B 4	特別企画展「はにわの世界」パンフレット
は に わ の 世 界	〃	B 5本文87頁	特別企画展「はにわの世界」図録

尚、長野市広報紙「みんなの広場」は毎月1日と15日の2回発行され、この毎号に「博物館だより」のコーナーをいただき、博物館のみどころ・出来事・行事等を紹介している。このほか有線放送等各種マスコミ関係に広報活動をお願いしているほか、観光協会・旅館組合等各種接客団体には別刷パンフレット等を配布し、博物館への来館及び博物館とはということで宣伝に努めている。

(矢口忠良)

5) 博物館実習

期 間 昭和57年7月26～8月1日

場 所 長野市立博物館他

実習生 締田弘美(立正大学文学部史学科)

角屋香奈子(昭和女子大学家政学部生活美学科)

日程内容()内は指導学芸員・専門主事名

7月26日 館長講話、博物館の機構・実習心得(山口副館長)、博物館の施設(山口明)

7月27日 特別展示室かたづけと収蔵品整理(青木)

7月28日 常設展示構想と展示(藤森・和田博)、団体オリエンテーションについて(和田博)

7月29日 資料の取扱いと収蔵システム(青木)、企画展示実習(矢口)

7月30日 飯縄千日大夫屋敷跡調査実習(山口明・青木)

7月31日 プラネタリウム実習(大藏)

8月1日 来館者応待・展示説明・受付実習(副館長・解説学芸員)

企画展示実習発表と総括(矢口)、館長講話、反省会 (倉嶋千智)

III 博物館収蔵資料

昭和56~57年にかけて収蔵された受け入れ台帳を基本に作成したものののみを記すことにする。
ただし、これらの中の一部は整理中であることを付記しておく。

1 購入資料

①〔古文書類〕

資料名	頁数
十二支合せ	1
児童壁書（寺小屋使用本）	1
信州大地震山頬川寒潜水之図	1
信濃国善光寺畧絵図（英泉画）	1

②〔図書類〕

昭和56年度

図書名	発行所
信州の文化シリーズ 街道と宿場	信濃毎日新聞社
日本の織物	源流社
手織の技法	理工学社
織物の用具と使い方	至文堂
長野県史考古資料編	県史刊行会
須坂市史	須坂市史編纂委員会
化学辞典	森北出版
化学大辞典（1~10巻）	共立出版
科学の事典	岩波書店
地学辞典	平凡社
現代天文百科	岩波書店
長野県百科事典	信濃毎日新聞社
博物館学講座（1~9巻）	雄山閣
世界の博物館（1~23巻）	講談社
日本の博物館（3~7・9~13巻）	"
日本の原始美術（1~10巻）	"
日本の考古学（1~7）	河出書房新社
新版考古学講座（1~11巻）	雄山閣
古代史発掘（1~5・7~10巻）	講談社
大分県岩戸遺跡	広雅会
化学史伝	内田広鶴園新社
日本民俗学（1~4巻）	国書刊行会
民俗学（1~5巻）	岡書店
日本民俗学会報（1~66巻）	日本民俗学会

日本民俗学（67~127）	日本民俗学会
自然科学概論	森北出版
科学の方法	岩波書店
科学の歴史（上・下）	"
科学技術人名事典	共立出版
基礎物理学ハンドブック	森北出版
物理学ハンドブック	朝倉書店
プリンシピア	講談社
物理定数表	朝倉書店
AINシュタイン選集（1~3巻）	共立出版
化学者のための基礎数学	南江堂
機器による化学分析	丸善
無機ハンドブック	技報堂出版
化学便覧（基礎・応用）	丸善
新地学教育講座（1~16巻）	東海大学出版会
地震（地震学者と地質学者との対話）	"
地震	東京大学出版会
地震（発生・災害・予知）	"
地震の科学	恒星社
地震をさぐる（予知へのアプローチ）	東海大学出版会
地震の理論とその応用	東京大学出版会
地震予知の方法	"
地震予知論入門	共立出版
地震学	"
図録 石器の基礎知識 I	柏書房
" II	"
信州の文化シリーズ 石仏と道祖神	信濃毎日新聞社
" 民俗と芸能	"
中野市誌 歴史編（前・後）	中野市誌編纂委員会
池上遺跡 石器編の1・2巻	大阪文化財センター
" 木器編の1・2巻	"
池上・四ツ池遺跡 自然遺物編	"
陶邑（I~IV巻）（深田）	"
長野県町村誌（南信版）	名著出版

東筑摩郡・松本市・塩尻市誌第1巻	郷土資料編纂会	神谷原 I	八王子市資料刊行会
日本十進分類法	日本図書館協会	日本歴史地図	全教団
日本書籍総目録1981書名編 (1)	日本書籍出版会	日本の古代米	雄山閣
〃 (2)	〃	弥生時代の研究	寧楽社
〃 索引	〃	古代の技術	培書房
信州の文化シリーズ 寺と神社	信濃毎日新聞社	統 〃	〃
龜子窓 第一冊	雄山閣	古文書の読み方	柏書房
牧羊城 二	〃	高地性集落跡の研究(資料編)	学生社
南山裡 三	〃	講座日本史(1~9巻)	東京大学出版社
菅城子 四	〃	日本古文書学講座(1~11巻)	雄山閣
東京城 五	〃	資料有職故実	全教団
赤峰紅山後 六	〃	日本の俗信	弘文堂
文化とコミュニケーション	紀伊国屋書店	日本の民俗	朝日出版社
文化と両義性	岩波書店	民俗資料選集 中馬の習俗	国土地理協会
太陽と天空神(エリーアーデ著作集1)	せいが書房	魚食の民	北斗書房
豊饒と再生(〃 2)	〃	松沢民俗誌稿	県史刊行会
聖なる空間と時間(〃 3)	〃	佐口 〃	〃
民族民芸双璧(1~59・75)	岩崎美術社	館之内 〃	〃
日本の民俗(1~11巻)	河出書房新社	伊谷 〃	〃
物と人間の文化史(1~38巻)	法大出版会	県境を越えて 1・2集	朝倉書房
日本の民家(1~8巻)	学 研	日本民俗学講座(1~5巻)	弘文堂
日本の民具(1~3巻)	慶友社	日本民俗学文献総目録	〃
オーロラ写真集 すばらしい極光の世界	朝倉書房	講座家族 1巻	角川書店
須恵器大成	角川書店	罪制の起源	高橋書店
繩文土器大成2巻 中期	講談社	図説 日本民俗学全集 1~4巻	三一書房
〃 4巻 晩期	〃	マレビトの構造	弘文堂
古美術品保存の知識	第一法規	陰陽五行思想から見た日本の祭	名著出版
古美術材料の科学	〃	日本祭祀研究集成(1~5巻)	恒星社
四季の星座教室	誠文堂新光社	星座の神話	海鳴社
パロマ天体写真集	地人書館	古代日本人の宇宙観	恒星社
四季の天体観測	誠文堂新光社	星三百六十五夜	岩波書店
星の神話伝説集成	恒星社	数理天文学	恒星社
現代の太陽像	講談社	現代天文学	恒星社
火星一探査衛星写真	朝倉書店	星・古典好日	恒和出版
フライムスチード天球図譜	恒星社	天文図解(江戸科学古典叢書)	恒星社
宇宙と自然	ビッグ社	天文学の歴史	講談社
考古学者のための化学10章	東京大学出版会	星の構造	恒星社
知の遠近法	岩波書店	現代天文学講座(1~11・13・14巻)	地人書館
戦場の村	朝日新聞社	銀河系外天文学	東京大学出版会
科学新聞(1979年7月~12月)	科学新聞社	宇宙地球科学	恒星社
〃 (1980年1月~6月)	〃	星と東方美術	共立出版
〃 (〃 7月~12月)	〃	教師のための天文学	朝倉書店
地震—その本性をさぐる	東京大学出版会	天体力学	恒星社
統地震予知と社会的反応	〃	ジャスロウ・トンブソン天文学	
信州の先人たち	光文書院	月写真集	
長野県の歴史	山川出版社	スズキ星座図譜	

気象の事典	東京堂出版	上水内郡神社誌	神社序上水内郡支部
気象ハンドブック	朝倉書店	近世三輪村史料集	県郷土史研究会
地球の探求 1・2巻	みすず書房	朝鮮考古資料集成(1・2・8巻)	出版科学総合研究所
化石鑑定のガイド	朝倉書店	無文字社会の歴史	岩波書店
化石の意味	海口鳥社	未開社会における構造と機能	研究社
温泉学	地人書館	日本人の社会	法大出版会
地下水・温泉の分析	講談社	人類社会の形成(上・下)	"
日本地方地質誌 中部地方	朝倉書店	化学工学辞典	丸善
日本標準化石図譜	"	高分子辞典	朝倉書店
原色岩石図鑑	保育社	天文・宇宙の辞典	恒星社
原色化石 "	"	星の辞典	"
化石の研究法	共立出版	現代天文学事典	"
山岳宗教と民間信仰の研究	名著出版	民俗学辞典	東京堂出版
仏教行事とその思想	大蔵出版	日本民俗辞典	弘文堂
仏教儀礼事典	東京堂出版	日本石仏事典	雄山閣
神仏交渉史研究	古川弘文館	民俗の事典	岩崎美術社
世界考古学大系(1~16巻)	平凡社	古文書用字・用語大辞典	柏書房
日本古代文化の研究(全15冊)	社会思想社	" 文例 "	"
弥生式土器集成 本編1巻	東京堂出版	高知県の考古学	吉川弘文館
" " 2巻	"	宮崎県 "	"
綜合日本民俗語彙(1~5巻)	平凡社	山梨県 "	"
日本民俗学大系(1~13巻)	"	大分県 "	"
日本民俗学(神事・風俗・歴史)	大岡山書房	栃木県 "	"
下諏訪町誌(下)	甲陽書房	大場磐雄著作集(1~8巻)	雄山閣
高遠町誌(下)	高遠町誌刊行会	八幡一郎 " (1~6巻)	"
長野県上高井誌 自然編・社会編	上高井教育会	山王寺大塚塚古墳	早大出版部
棚村誌	村誌刊行会	上総国分寺	"
神科村誌	"	武藏国分尼寺	"
上田・小県誌 第5巻	小県・上田教育会	古代探叢	"
上山田町史	上山田町役場	東間部多古墳群	"
秋山村史	川上礼三	南向原	"
柴村史跡編	村誌編纂委員会	西広見塚	"
南信濃村史遠山	"	大久保山工	"
村誌大滝(上・下)	"	会津大塚山古墳	学生社
井上村誌	"	立岩遺跡	河出書房新社
茅井村誌	"	沖ノ島	宗像神社
東筑摩郡・松本市・塩尻市誌別編地名	郷土資料会	続 "	"
日野村誌	水戸朋納	日光男体山	角川書店
高甫村誌	村誌編纂会	信州高井 牧の民俗	高山村教育会
瑞穂村誌	"	須坂市文化財・仏像・民間信仰	須坂市 "
松本市史(上・下)	松本市役所	黒川郷の歴史と民俗	黒川林野利用農業協同組合
東春近村誌	村誌刊行会	青沼の自然と歴史	青沼の自然と歴史刊行会
塩尻町誌	明治文献	信濃・松本平の民俗と信仰	郷土誌刊行会
諏訪誌 第1巻・第3巻	諏訪教育会	上田付近の遺蹟と伝承	資料刊行会
伊賀良村誌	村誌刊行会	長野市史考	吉川弘文館
竜岡村誌	"	信濃名僧略伝集	

長野県神社百年誌	県神社庁	信州の民俗コレクション	信濃毎日新聞社
信濃御巡幸録	信濃毎日新聞社	古面	岩波書店
信濃国地字略考 上巻	村と町研究会	街道と宿場	信濃毎日新聞社
戸隠	信濃毎日新聞社	民宿と西洋館	"
長野県案内	長野県協賛会	日本城郭大系 8巻	新人物往来社
信濃人物誌	信濃人物誌刊行会	上野国佐波郡赤堀村今井茶臼山古墳	東京堂出版
長野県の特殊産業	信濃毎日新聞社	善光寺道名所図会	名著出版
信濃浅間古墳	本郷村役場	角川地名大辞典22(静岡県)	角川書店
長野県市町村合併誌(総論)	長野県	更級郡・埴科郡人名辞書	象山社
(市町村上)	"	古蹟調査特別報告(3・4・9・10・11・12)	創学社
(　下)	"	更級郡誌	信濃毎日新聞社
長野県政史(1~3・別巻)	"	古牧誌	村誌刊行会
信州の酒の歴史	県酒造組合	上田小県誌(3巻)社会	"
地方史マニュアル(1~10巻)	柏書房	南安曇郡誌(1・2・上・下 3・上・下)	"
角川地名大辞典	角川書店	富岡製糸場誌(上・下)	富岡市教育委員会

昭和57年度12月現在

図書名	発行所
防菌防黴の化学	三共出版
美術品の真贋	共立出版
微生物による材料劣化	講談社
理科年表読本 地震と火山	丸善
気象と気候	"
こよみと天文・今昔	"
学術雑誌—その管理と利用	図書館協会
仏像事典	東京堂出版
文化財保護実務必携	第一法規
ジュニア日本の歴史(1~6巻)	小学校
長野県市町村分図	信濃毎日新聞社
保育社の原色図鑑(全64巻)	保育社
世界大百科事典(全34・別2巻)	平凡社
科学新聞(1981年1月~6月)	科学新聞社
上高井誌(歴史)	上高井教育会
わが町の歴史長野	文一総合出版
学術用語集(数学・天文学・植物学・動物学・図書館・物理学)	大日本図書
長野県自然図鑑(全12巻)	信濃毎日新聞社
日本上代の甲冑・武器	木耳社
地球科学講座(3・7・8・11・12)	共立出版
図書館ハンドブック	日本図書館協会
図書館用語集	"
索引の話	"
図書館の仕事(1~25巻)	"
京都府地名大辞典(上・下)	角川書店
日本仮面史	東洋書院
土師器・須恵器	中央公論社
新日本分県地図	国際地学協会
弥生土師器	中央公論社
日本やきもの集成2(東海・甲信越)	平凡社

(大藏満・樋口良江)

2 寄贈資料

(1) [地質・考古・民俗・歴史資料]

〈昭和56・6月受入〉

名 称	員数	寄 贈 者
薺製円座	4	宮沢 茂(西寺尾)
帯 戸	4	和田信一(戸隠村)
障 子	4	"
土間裏口戸	1	"
大戸戸車	2	"

〈7月受入〉

黒曜石	2	新谷和夫(和田村)
貝化石	43	田中邦雄(松本市)
青麻(あさ)	1.6kg	大林 港(美麻村)
煙火玉模型(二尺玉)	1	鷲沢正一(上松)
(一尺玉)	1	"
(七寸玉)	1	"
(五寸玉)	1	"
麻組合旗(ケース付)	1	林部鷹司(栄町)
麻こんばう万力	1	"
煙火玉模型(菊花火)	1	青木多門(安茂里)
(小割物)	1	"
(柳花火)	1	"
(ヤシ花火)	1	"
(吊り火)	1	"
(音花火)	1	"
煙火の原料ストロンチーム	若干	"
ナトリューム	"	"
バリューム	"	"
酸化銅	"	"
硫 黄	"	"
硝 石	"	"
桐 炭	"	"
古文書	1,634	小林久吾(川中島町)
古絵図面	44	"
貝類化石	27	森島一夫(名古屋市)
煙火打上げ用木筒(五寸玉用)	1	峯村友之丞(若穂)
(三寸玉用)	1	"
股 引	1足	川中島小学校(青木島)
わらぐつ	1	"
羽子板	1	長沼小学校(穂保)
うそかけ	1足	"
どんぶり	1	"
水 がめ	1	"

山 駕 篠	1	長沼小学校(穂保)
大黒じめ	1	望月源一郎(篠ノ井)
稻荷じめ	1	"
ごぼうじめ	1	"
輪じめ	1	"
白足袋	1	望月つる江(篠ノ井)
細 帯	1	"
股引(組製)	1	"
高 枕	1	"
布 袋	1	"
わらばて	2	吉沢梅吉(川中島町)
わ ら じ	2	"
ぞ う り	2	"
ひょうたん	1	"

〈8月受入〉

化 石	16	梶花グループ 山と谷の会(七瀬町)
クジラ椎骨化石ほか	2	中條正勝(徳間)
庚申塔祠型(石造)	1	長礼区長(松代町)
青面金剛像(〃)	1	"
麻かき板	2	佐藤利昭(鬼無里村)
おかきのこ	2	"
お ば け	1	"
紙すき用具	1式	今井清広(戸隠村)
庚申塔祠型(石造)	1	大日堂保存会会長 小林茂吉(松代町)
編笠(宮本文雄)	1	清野小学校(松代町)
はばき(安藤忠重)	1	"
みの(山崎政清)	1	"
地 機		田中林次(結城市)
神 棚	1式	太田芳夫(南高田)
汁 楪	1組	後町小学校(西後町)
かぶと鉢	1	"
叩きこま	1	"
手 玛	1	"

〈9月受入〉

蚊張(麻) 10畳用	1	早川とみ(西後町)
紬縞ひとえ衣	1	若林 巍(大塚)
帯(モスリン)	1	"
風呂鉢(他1点かんがら)	2	"
くれたたき	1	"
稻刈り鎌	2	"
か ま す	1	"
肥柄杓	1	"
摺 白	1	西沢良一(稻葉)
糸 車	1	"
綿種取り器	1	"
鋤	1	"

高橋式カルチベーター	1	中村太一(小島田町)	棒ばかり	1	伊藤清男(小島田町)
肥 桶	1荷	一由渕水(安茂里)	台ばかり	1	"
<10月受入>					
背 負 子	3	西沢良一(稻葉)	運転免許証一覧(額入り)	6	"
摺臼立のみ	1	"	足踏み脱穀機	1	西沢春寿(川中島町)
すくら折り機	1	"	糸 車	1	"
座縫り	1	"	踏 鋤	1	"
竿ばかり(大)	1	"	堀内式カルチベーター	1	"
杵	1	"	摺 白	1	"
木挽き鋸	1	松田朝吉(松代町)	俵編み機一式	1	"
棒ばかり	1	"	除 草 機	2	"
亜鉛その他鉱石	1	湯本博康(若穂)	がんづめ	2	"
銅 鉱 石	1	"	荷 車	1	"
長 持	1	竹津一雄(東鶴賀町)	万 力	1	"
桐たんす	1	石田洋司(南高田)	木挽き鋸(1人挽き)	1	松橋俊治(県町)
鋤	1	今井峯治(北長池)	台切鋸(2人挽き)	1	"
唐 箕	1	"	鋸	1	"
すじ付け	1	"	平絹(反物)	1	伊藤清男(小島田町)
桐たんす	2	丸山芳雄(松代町)	紬織りの帶	1	"
オリオンミシン	1	"	除草機(田車)	1	"
小たんす(2段)	1	"	鋤	1	"
衣 類	1箱	"	ぼろ織り半巾帯	1	小林よしい(小島田町)
砂鉄(野尻湖付近)	1小袋	内山真治(篠ノ井)	ぼろ織りの帶	1	長沢久子(小島田町)
銑 鉄	1塊	"	消防頭巾	1	大須賀太吉(川中島)
鍔(一成作)	1	"	高 機	1	北島統夫(若穂)
天然の美(蘭見本)	1	宮下健司(篠ノ井)	糸車	1	"
道祖神日待占い 人形道祖神	1	"	糸撚り機	1	"
青山御流竹器墨法極秘傳	1	松本花子(松代町)	鍼	4	"
国語読本・作法書など	4	"	ね う し	1	"
いきつえ	1	北沢正美(川中島町)	蚕室暖房用火ばち	1	"
うけ(どじょう用)	3	"	俵編み機	2	"
下駄スケート	1	"	すくら折り機	1	"
めんこ	50	岡宮憲太郎(西町)	桑こき機	1	"
<11月受入>					
座縫り	1	北沢正美(川中島町)	給 桑 台	1	"
除草機(ヨネザワ式)	1	"	すくら折り機	2	"
土入れ機(麦)	1	"	桑こきの箕	2	"
土こわし(麦)	1	"	かなかえしの台	1	"
米つき杵	1	"	毛羽取り機	1	"
かべ御召	1	小池市治(青木島)	かなかえし	1	"
おおめ(半反)	1	"	羊毛の毛羽取り	2	"
平絹(羽織)	1	"	牛 車	1	島田袈裟光(篠ノ井)
上掛け(ぼろ織り)	1	"	前田式碎土機	1	"
平絹(切れ端)	1	"	まぐさ切り機	1	"
ぼろ織り半幅帯	2	"	鞍	3	"
着物地の洋服	1	伊藤清男(小島田町)	水平木	1	"
			手 桶	2	"
			桑切り機	1	高橋一雄(松代町)

〈12月受入〉			給桑台	1	依田寿朗(若穂)
明治期他の教科書	239	山崎富蔵(吉田)	押し鎌(押し切り機)	1	"
農用送風機	1	北沢正美(川中島町)	三 鍬	1	"
1 斗 桁	1	"	丹平鍬(植林、開墾用)	1	"
むしろ機	1	"	重 箱	1'	"
草ぼうき	1	"	おひつ	1	"
きせる入	1	"	上簞用具	2	"
タバコ入	1	"	桑摘みびく	3	"
縫ない機	1	池田善治(木島平村)	大八車	1	"
古 書	1	小林こう(小島田)	蚕棚(竹竿付)	1	"
か や	1	望月威智男(南横田)	蚕 か ご	6	"
諏訪みの	1	木村忠吾(茅野市)	餅つき杵	1	"
〈昭和57・1月受入〉			農用送風機	1	吉沢梅吉(川中島町)
棒ばかり	1	宮島克己(丹波島)	細 繩	1	"
矢 立	1	"	おかげのこ	1	芋井郷土資料室
桑こき台	1	立岩 究(若穂町)	おかげ板	1	"
飼馬おけ	1	羽生田武(若穂町)	麻切り包丁	1	"
肥 楠	1	小林芳(川中島町)	たたみ糸	1束	"
天 秤 棒	1	"	麻	少量	"
杵(わらたたき用)	1	"	麻撚機(山一式)	1	"
〈2月受入〉			麻糸合せ機	1	"
わらぞうり(参拝用)	1足	岡宮千広(南長池)	麻撚機(手まわし)	1	"
〈3月受入〉			種 紙	13	"
カルチベーター	1	堀田仁夫他(川中島町)	ボルト錐	61	花岡真一(若穂)
麦の土入機	1	"	鉋	21	"
十 能	1	依田寿朗(若穂町)	の み	29	"
五 徳	1	"	錐	20	"
火 鉢	1	"	玄 能	8	"
や か ん	1	"	電動ドリルの刃	7	"
しょう油容器(陶製)	1	"	やすり	5	"
机(小)	1	"	くぎ締め	9	"
裁ほう箱	1	"	たがね	4	"
すり粉木	1	"	小 刀	4	"
すり鉢	1	"	ドライバー類	11	"
桶(半切)	1	"	定 木	3	"
毛羽とり機	2	"	罫引き	3	"
製めん機	1	"	手 斧	1	"
万 石	1	"	まわしひき	1	"
手 桶	1	"	ぎむね	1	"
麦のくれたたき	1	"	くぎぬき	1	"
踏 鋤	1	"	ス パ ナ	1	"
せいろう	1	"	キャリバー	1	"
棒ばかり	1	"	線引き	1	"
1 斗 桁	1	"	目立て板	1	"
斗 桁	1	"	その他(くさびなど)		"
背 負 子	1	"	土 篓	1	奥山久吉(三輪)

棒ばかり (分銅付)	1	奥山久吉(三輪)	ふるい丸型 (小)	1	八田 勇(松代町)	
墨こぼし	1	八田 勇(松代町)	ふるい角型	1	"	
ふかし器 (ブリキ製)	1	"	じょうご (ブリキ製) (大)	1	"	
箱 枕	2	"	味噌かき棒	1	"	
めんば	1	"	漬物樽 (特大)	4	"	
はえたたき	13	"	" 大	4	"	
長野出張所日報	3	"	酒 樽	4	"	
元 購	95	"	飯 櫃	1	"	
仕 入 帳	19	"	釜のふた (大)	2	"	
日 下 恵	19	"	わら叩き杵	1	"	
備 忘 錄	3	"	灯油さし	1	"	
注文受控 (帳)	4	"	角ヤカン (銅製)	1	"	
職工當座帳	20	"	桐 箱 (各種)	6	"	
金銀出入帳	23	"	藤製果物 (かご)	1	"	
物品買入譲受明細帳	1	"	藤製果物入れ	1	"	
判 取	4	"	藤製椅子	1	"	
買 物 帳	3	"	大福帳 (長方形) (大)	29	"	
現金勘定日締張	3	"	" () (中)	4	"	
万 年 帳	1	"	和綴仕入帳角型	26	"	
大 宝 恵	1	"	通 い 帳	2	"	
金物卸帳	1	"	電話機 (明治43年製)	1	"	
金銀受取帳	2	"	看 板	1	"	
現 金 帳	1	"	燭 台	1	"	
書 抜 帳	1	"	ランプ	9	"	
金 渡 帳	1	"	ランプ金粹	1	"	
高低原簿	1	"	ランプ (台つき)	1	"	
金錢出納簿	1	"	ランプ台	1	"	
冷 藏 器	3	"	ランプかさ	1	"	
オルガン (ヤマハ製) 椅子付	1	"	〈4月受入〉			
帳 場 机	3	"	唐 箕	1	西沢喜昭(篠ノ井)	
結 界 (中)	3	"	糸とり器	1	"	
経 机	1	"	へつつい	1	"	
角 火 鉢	1	"	蚕室暖房用火桶	1	"	
煙火盆 (ほこ払い付)	1	"	わらばて (未製品)	1	"	
小物入たんす (小)	2	"	わらたたき槌	1	"	
本箱 (扉付) 小	1	"	桑摘みびく	2	"	
こたつやぐら一式	1	"	すくら折り機	1	"	
陶製アイロン	3	"	ねうし	1	"	
かめ 中	1	"	草 搾き	1	"	
かぶと鉢	2	"	鋤	1	"	
すり鉢 大	2	"	振馬鋤	1	"	
せいろう角型5重	1式	"	麦の土入れ	2	"	
そろばん	1	"	鬼 瓦	1	"	
大 八 車	1	"	蚕室暖房用火桶	1	"	
箕 (竹製)	2	"	わらすぐり	1	"	
ふるい丸型 (大)	1	"	釜しき (木製)	1	"	

蚕 か ご	5	西沢喜昭(篠ノ井)	桐製小重ねたんす	1	野本きみ(中越)
階 段	1	"	木盃金蒔絵三つ組	2	"
俵 (未製品)	1	"	木盃朱塗蒔絵桐文	1	"
桐たんす	1	山岸 勝(桐原)	" 高砂翁姥図	1	"
高 下 駄	1	"	" 羽子板等図	1	"
下 駄	2	"	陶製 盂	2	"
重 箱	1	"	抹茶入 (なつめ)	1	"
電灯のかさ	3	"	煎茶入	1	"
下駄作り道具	1式	小池万吉(中村)	煎茶用布巾筒	1	"
四つ又鉄	2	岡沢民弥(篠ノ井)	茶 杓	2	"
三つ又鉄	1	"	煎 媒	2	"
板 鉄 先	3	"	けんどん箱式戸棚	1	"
金 鉄	1	"	うつ敷 (大)	1	"
わらすぐり	1	"	" (中)	2	"
繩ない機	1	"	同上入れ箱	1	"
ポンブ	1	"	樂雁菓子作り木型	1	"
こんろあみ	1	"	祭絆てん	1	"
横 丁 杖	1	"	竹 筷	1	"
そ り	1	"	かすみ網	1	"

〈5月受入〉

道中独案内図(改正道法駄賀附)	1	宮下 功(篠ノ井)	うちかけ	1	"
三十六歌仙雙録	1	青木京子(川中島)	伎楽面	1	"
つづら	2	原山康永(平柴)	舞楽面	2	"
馬 鈴 (複製)	2	野本きみ(中越)	百人一首	1	"
鎧(煉革黒漆塗仏胴胸取具足)	1	"	弘化大地震図	1	"
鎧(胴丸鉄)		"	道中独案内図	1	"
兜	2	"	文政年代重宝記	1	"
蹴鞠番	1	"	大日本道中絵図	1	"
錦絵(川中島合戦謙信車懸図)	1	"	宝永御江戸絵図	1	"
ほら貝	1	"	長野市中部地図	1	"
藩 札 他	62	"	東海道膝栗毛	18	"
富 節 札	3	"	続東海道膝栗毛	25	"
古文書(江戸末)	50	"	永操百人一首	1	"
" (明治)	8	"	父母恩重談話抄	3	"
" (大正)	2	"	方鑒斑鳩夜話問題集	2	"
(伝)高井鴻山愛用机	1	"	種子集	1	"
軍 扇	1	"	絵本彦山権現鑑記	10	"
矢 立	3	"	駅路の鈴	5	"
どうらん	3	"	一休諸国物語	5	"
きせる入れ	10	"	花鳥画譜	3	"
煙草入れ	4	"	皿皿郷談	8	"
布製物入れ	3	"	和歌奥義	1	"
漆塗木箱	1	"	東海道膝栗毛	1	"
文 箱	1	"	家相秘伝	2	"
文箱外箱	1	"	甲越勇士鑑	1	"
弁 当 箱	1	"	縁百人一首	1	"
			博士角力評判記	1	"

栽培経済論	4	野本きみ(中越)	箱 つ 石臼の把手	枕 む	1	酒井佑治(篠ノ井)	
寺子屋手本	1	"			1	"	
康熙辞典	1	"			3	"	
書翰辞典	1	"		一斗枱	1	"	
英語フレイズ辞典	1	"		鞍	1	"	
信濃の民俗	1	"		ところてん押し器	1	"	
史蹟名勝天然記念物調査報告	1	"		消防ポンプ用棒	1	"	
臨書用手本	2	"		とうじかご	1	"	
竹原聖	1	"		盆	1	"	
改正増補森長吉状	1	"		おろし金	1	"	
教科書	6	"		稻刈り鎌	1	"	
皇國經典	1	"		草かき	1	"	
錦木	5	"		なた	1	"	
三鶴妖婦伝	1	"		鎌(柄なし)	1	"	
四季発句明題集	1	"		たがね	1	"	
新選園棋大全	1	"		木製匙	1	"	
眞美の花二編(上)	1	"		火ばし	1	"	
繪本忠経	1	"		鉄網	1	"	
和漢古今宝鏡図鑑	1	"		木針	1	"	
日本百将伝	1	"		背負子	1	"	
本朝尽印伝目録	1	"		火運び	1	"	
唐箕	1	酒井佑治(篠ノ井)		不明品(一括)	6	"	
長持	1	"		整経器	1	"	
摺白	1	"		(6月受入)			
座縫り	1	"		離飾り	1組	倉島忠義(篠ノ井)	
いざり機	1式	"		高機	1	原山賢一(小鍋)	
桑切り台	2	"		麻撚機	1	"	
伸子(大・中・小)	3	"		糸車	2	"	
押し切り鎌	1	"		牛車	2	"	
わらすぐり	1	"		測量繩	1	"	
千歯こき	1	"		火消壺	1	"	
わら編み台	1	"		おぼけ	1	"	
桑こき台	1	"		長火鉢	1	"	
糸杵	5	"		賞状類	1	"	
たらい	1	"		絵はがき	4	"	
鍋	2	"		ござはばき	13	"	
釜	1	"		軍服(上服)	2	"	
やかん	2	"		麻糸	1	"	
ふるい	2	"		めんぱ	2	"	
剪定ばさみ(柄なし)	1	"		杵	2	"	
杵(ワラ・麦用)	4	"		一升樽	1	"	
十能	1	"		両掛け	1	"	
スコップ	1	"		漆器(椀)	2	"	
すいのう	1	"		おはらい板	8	"	
手桶	1	"		尺八	1	"	
桶	1	"		灯心台	1	横沢町	

<7月受入>

手押消毒用ポンプ	1	石井久務(丹波島)
竜吐水	1	"
土入れ機	1	"
脚立	1	"
背負子	7	森山公一(信濃町)
平鉄	1	石井久務(丹波島)
備中鉄(大・小)	2	"
細鋤	1	"
じょれん	1	"
筋切り鎌	1	"
脅町戸籍簿	1	中沢恒雄(松代町)
のれん	1	"
着町規約書	1	"
あい表	2	"
大釜	1	"
魚網	2	"
片手桶	1	"
伸子	1	"
杵	2	"
張手	1	"

<8月受入>

地車	1	野村亮春(松代町)
蚕網	10	"
拳手人面土器(複製)	1	国学院大学考古学 資料館(東京都)
めんこ(大)	27	小林勇(県町)
"(中)	46	"
"(小)	2	"
論語	4	野本きみ(中越)
孟子	4	"
大學	1	"
中康	1	"
大学図解	1	"
二河白道絵鈔	1	"
篆書百体千字文	1	"
漢語図解	2	"
遠州流挿花百瓶之図	2	"
小笠原流模方百カ条	1	"
琢華堂画譜	1	"
春斎英笑画一画の手本	1	"

<10月受入>

総統	4	駒村貞(塩崎)
----	---	---------

<11月受入>

貝類化石	112	富沢恒雄(三輪)
ウニ化石	6	"
クジラ骨片化石	1	"

植物化石	1	"
"(篠ノ井茶臼山)	21	"
貝化石()	4	"

<12月受入>		
下駄	13	南哲夫(安茂里)
カルチベーター	1	柳原栄治郎(川中島町)
車式土入機	1	酒井忠行・柳原栄治郎(川中島町)
しゅろみの	1	山崎孔三郎(川中島町)
リヤカー	1	高橋建夫(往生地)



野本きみ氏寄贈品(一部)

長持	1	高橋建夫(往生地)	中越庚申講中人別帳	社会教育課
つぐら	1	大矢好武(信更町)	故郷遙望	倉石英雄
和鏡(径23.5cm)	1	松山忠雄(栗田)	甲越川中島戦史	吉池忠治
" (径19.8cm)	1	"	吉田のあゆみ	"
杵	3	春原和昭(高田)	信州のゾウ化石をさぐる	富沢恒雄
横丁杵	1	"	長野電鉄60年のあゆみ	長野電鉄
鎌掛け	1	"	村誌水内郡稻田村	宮沢忍夫
もろみかくはん棒	3	"	越味の透し鎌小刀作り	内山貞次
じょれん	2	"	長野御祭礼史	西沢義明
三又釣棒	1	"	写真にみる長野市のあゆみ	山口純一
轍 口	3	"	篠ノ井の年中行事	篠ノ井公民館
わら打ち槌	1	"	まつもの石造文化財	松本市教育委員会
伸 子	1	"	信濃の名刀探訪	大谷秀志
伸子ほか洗張用具	1式	"	諏訪みのの作り方	木村忠吾
木 槌	1	"	伊予路の文化	社会教育課
かけや	1	"	地震防災	"
みそかき棒	2	"	地震百科	"
下駄スケート	1	"	小島田の文化財	"
笨(?)	1	"		
篩	1	"		
火消蓋	1	"		
風呂鍵	1	"		

(2) [図書]

一般図書

図書名	寄贈者
塩崎村誌	秘書課
坂城の宿場と遊廓	"
長野商工会議所60年史	"
善光寺門前町百年の歩み	"
考古学資料図録I	"
千曲川犀川30年のあゆみ	"
古里村誌(コピー)	"
長野市水道誌	"
真田家文書(上)	"
長野市の統計書	"
長野市P.T.A.のあゆみ	"
長野市地質調査誌	"
長野市の野外彫刻	社会教育課
収蔵品目録	"
加曾利貝塚	"
長野市の文化財	"
長野市の石造文化財(1~4)	"
荻原碌山	"
二ツ岩	北海道開拓記念誌
ライトコロ川口遺跡	東京大学文学部
史料弘前城跡 はす池発掘調査報告書 S55・56	弘前市教育委員会
鹿島町内遺跡発掘調査報告 I —鹿島文化財12—	鹿島町教育委員会
II	"
鹿島神宮駅北部埋文調査報告書	"
農郷台遺跡群 塩釜遺跡発掘調査概報	"
萩原内遺跡・西谷A遺跡	"
茨城県教育財団 年報1 S56年度	茨城県教育財団
鹿の子C遺跡	"
鹿島町 文化財だより 5号	町文化財愛護協会
" 6号	"
" 7号	"
" 8号	"
市之代古墳群第3号古墳調査報告	取手市教育委員会
鉢形・平井地区埋蔵文化財分布調査 報告(鹿島14)	鹿島町教育委員会
角内遺跡(鹿島16)	"
埋れた古代鹿島	"
埼玉稲荷山古墳 辛亥銘鉄劍修理報告	埼玉県教育委員会
埼玉稲荷山古墳	"
大古里遺跡発掘調査報告書 浦和市遺跡調査会報告書第19集	浦和市遺跡調査会
かね山古墳周堀発掘調査報告書	"
内谷氷川社境内(池)発掘調査報告書	"
三室遺跡発掘調査報告書 浦和市遺跡調査会報告書第11集	"

東裏遺跡発掘調査報告書第14集	浦和市遺跡調査会	調布市飛田給遺跡（第2地点）	調布市教育委員会
大間木内谷・和田西他〃第13集	〃	調布市深大寺遺跡	〃
別所遺跡 〃 第12集	〃	調布市下布田遺跡	〃
後原遺跡 〃 第10集	〃	〃	〃
北宿遺跡 〃 第16集	〃	千葉県文化財センター研究紀要7 千葉・上ノ呂遺跡	千葉県文化財センター 千葉市教育委員会
中原前・大古里遺跡 〃 第17集	〃	〃 (付篇)	〃
馬場（小室山）遺跡 〃 第1集	〃	〃 (本文編)	〃
和田遺跡 〃 第2集	〃	東京都埋蔵文化財センター研究論文集1 考古学研究室彙報 22号	東京都埋蔵文化財センター 立正大学文学部考古学研究室 調布市教育委員会 遺跡調査会
坊ノ在家北遺跡 〃 第18集	〃	調布市入間町城山遺跡	
井沼方・大北・和田北遺跡他〃第20集	〃	調布市中耕地遺跡（A地点）	〃
大北・井沼方遺跡 〃 第15集	〃	調布市下布田遺跡（55年範囲確認調査）	〃
小室天神前遺跡	埼玉県博(遺跡調査会)	〃 (56年 〃)	〃
多門館跡	富士見市史編纂室	調布市飛田給遺跡	〃
富士見のあゆみ	〃	調布市のいせき	〃
川越の文化財	川越市教育委員会	調布市の遺跡調査1集	〃
大澤誠一家文書目録	富士見市史編纂室	多摩ニュータウン遺跡(1~4冊)56年度	東京都埋蔵文化財センター
富士見市史料(1) 横田家文書抄録	〃	東久留米市の遺跡	東久留米市教育委員会
〃 (2) 〃 (近世編)	〃	鷺ヶ峰遺跡	川崎市教育委員会
飛山城跡	宇都宮市教育委員会	川崎市石造物調査報告書(図版解説)	〃
水道山瓦窯跡群	〃	〃 (資料編)	〃
三鷹市の縄文時代 一ぼくらの縄文の跡ときー	三鷹市教育委員会	川崎市高津区長尾鯉坂遺跡	〃
東京都調布市上石原遺跡群 飛田給遺跡（第2地点）	調布市遺跡調査会	川崎市文化財調査集録第15集	〃
金子本山遺跡 一西つじヶ丘巣島 神社東発見の地下式横穴一	〃	〃 第16集	〃
調布市下布田遺跡	〃	川崎市多摩区 黒川東遺跡発掘調査概報	〃
向ヶ岡貝塚	東京大学文学部	川崎市多摩区 潮見台遺跡B地点発 掘調査報告書	〃
東京都埋蔵文化財センター(年報1)	東京都埋蔵文化財センター	黒川東遺跡	〃
三鷹市ふじみ廻芥処理場構内遺跡発 掘調査報告書	三鷹市遺跡調査会	川崎市高津区 普生水沢遺跡発掘調 査報告書	普生水沢遺跡発掘 調査会 相模原市橋本遺跡 調査会
三鷹市第5中学校遺跡発掘調査報告 書(図版編)	〃	橋本遺跡—II—	神奈川県教育委員会
三鷹市中原遺跡発掘調査報告	三鷹市中原遺跡調査会	神奈川県埋蔵文化財調査報告22松輪大畑 多摩ニュータウン遺跡 昭和55年度 (第3冊分)	東京都埋蔵文化材 センター
三鷹市立第5中学校遺跡	三鷹市立第5中学校遺跡調査会	〃 〃 (第4冊分)	〃
史跡整備の現状と問題点	千葉市教育委員会	白山4丁目遺跡	白山4丁目遺跡調査会
加曾利貝塚	〃	東京上之台遺跡（先史11）	駒沢大学考古学研究室
加曾利貝塚I	市川市教育委員会	東京都埋蔵文化財センター年報2	東京都埋蔵文化財 センター
曾谷貝塚E地点発掘調査概要	〃	伊皿子貝塚遺跡（本文）	伊皿子貝塚遺跡調査会
市川の歴史と文化財	〃	〃 (図版)	〃
調布市染地遺跡（第IV地区B地点）	調布市教育委員会	川崎市文化財調査集録17	川崎市教育委員会
調布市深大寺堂山遺跡	〃	中郷遺跡	国学院大学考古学 研究室
調布市実篠公園遺跡	〃	壬遺跡	〃
調布市上石原遺跡（第2地点）	〃	影向寺文化財総合調査報告書	川崎市教育委員会
調布市下布田遺跡	〃	多摩丘陵・柿生泥岩層の模式地 「柿生M点」の地層・化石	川崎市地質調査研究会
調布市上石原遺跡（第3地点）	〃	清里・陣場遺跡	群馬県埋蔵文化財 調査事業団
調布市染地遺跡（第VI地区A・B地点）	〃	塚廻り古墳群	群馬県教育委員会
調布市国領町八丁目遺跡	〃	下郷一閑越自動車道(新潟線)地域埋 蔵文化財発掘調査報告書1集	〃
調布市下布田遺跡	〃		
調布市厄川2丁目遺跡	〃		

埋蔵文化財調査報告書 藤橋・尾立遺跡他	長岡市藤橋遺跡等 調査委員会	奈良市埋蔵文化財調査報告書昭和55年度 〃 54年度	奈良市教育委員会
新潟県文化財分布地図	新潟県教育委員会	豊かな奈良 —奈良市の文化財目録	〃
木田遺跡	福井市教育委員会	尼崎市東園田遺跡 (第1次・第2次調査報告書)	尼崎市教育委員会
史跡 末松庵寺	石川県野々市町教委	尼崎市下坂部遺跡 (第4次)	〃
〃 一保存整理報告書—	〃	尼崎市金楽寺貝塚II	〃
金沢市埋蔵文化財調査年報 昭和56年度	金沢市教育委員会	国重城跡発掘調査報告	広島市教育委員会
金沢市無量寺B遺跡	〃	広島市の文化財20 山城	〃
金沢市笠舞遺跡	〃	禅昌寺西遺跡発掘調査報告	〃
金沢市中屋遺跡 (第1～第3次)	〃	中矢口遺跡発掘調査報告	〃
金沢市埋蔵文化財調査年報 昭和55年度	〃	中小田古墳群	〃
金沢市南新保D遺跡	〃	高阳台遺跡群発掘調査報告	〃
金沢市寺中遺跡 一第II・III・IV次調査報告—	〃	太田川の水運調査報告	〃
金沢市古府遺跡 一第4・5次 〃 —	〃	末光遺跡群A地点発掘調査略報	〃
浅川第1号窯 (灰原) 調査報告書	〃	長添山古墳	萩市教育委員会
金沢市安原工業団地遺跡	〃	勝央中核工業団地建設に伴う埋蔵文 化財発掘調査	岡山県勝央町教育 委員会
金沢市北塙遺跡	〃	来住庵寺	松山市教育委員会
おまる探古墳測量調査報告書 笠舞A遺跡略報	〃	文京遺跡	〃
金沢市松根城址緊急調査報告書	〃	古照遺跡 II	〃
金沢市黒田町遺跡	〃	岩子山古墳	〃
浅川第2号窯跡	〃	埋蔵文化財発掘調査概報	〃
金沢市鷹巣城址	〃	かいなご・松ヶ谷古墳	〃
一般国道246号バイパス埋蔵文化財 発掘調査報告書	静岡県教育委員会	釜ノ口遺跡調査報告書	〃
浜名郡新居町一里田遺跡調査概報	沼津市教育委員会	古照遺跡	〃
野際遺跡発掘調査概要	新居町教育委員会	古代の松山平野 先土器～平安時代	〃
磐田市京貝塚遺跡群 〃	磐田市教育委員会	海老池第1号窯	日進町教育委員会
沼津市埋蔵文化財分布地図	磐田市立郷土館	石浜古窯跡群 (1)	東浦町教育委員会
八兵衛洞遺跡群	沼津市教育委員会	〃 (2)	〃
沼津市文化財調査報告第26集	〃	東郷の郷土資料 I	東郷町教育委員会
尾上ウラウネ遺跡	〃	祐福寺調査参道筋塚基部第2次概報	〃
〃 第23集	磐田市教育委員会	〃 昭和53年度	〃
御殿・二之宮遺跡発掘調査報告 I	磐田市立郷土館	東郷の郷土資料 II	〃
磐田市坂下古墳群第1号古墳	〃	論田遺跡発掘調査報告	松江市教育委員会
新豊院山遺跡 (A-2・3地点)	〃	史跡大鹿鶴塚 〃	〃
磐田6・7号墳調査報告書	〃	出雲国跡 〃	〃
甲斐茶塚古墳	山梨県教育委員会	岩穴平遺跡稻葉城跡	〃
高藏貝塚 I 1953年 D地点第1次発掘調査	南山大学人類学博物館	喰ヶ谷古墳群	〃
瑞穂遺跡 1951・52・54年度発掘調査報告	〃	野田遺跡向荒神古墳	〃
長山遺跡発掘調査報告書	岐阜市教育委員会	丁の坪遺跡・片山遺跡	〃
田能遺跡発掘調査報告書	尼崎市教育委員会	上漬弓2号墳	〃
河内太平寺古墳群	河内考古刊行会	上漬弓古墳	〃
丹波周山塚址	京都大学文学部考 古学研究室	乃木二子塚古墳他詳細分布報告	〃
京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和51年度	京大構内遺跡調査会	大善寺一久留米市文化財調査報告書第34集—	久留米市教育委員会
三宅遺跡 松原市埋蔵文化財調査報 告第1集	松原市教育委員会	大宰府条坊跡一大宰府町の文化財第5集—	大宰府町教育委員会
奈良市発掘調査測量基準点 一成果表・点の記—	奈良市教育委員会	筑前国分尼寺跡・跡ノ尾遺跡	〃
文化財室年報 昭和54年度	〃	一天寺府町の文化財 4 —	〃
多聞庵城跡 発掘調査概要報告	〃	宮ノ本遺跡一大宰府町の文化財第3集—	〃
平城京左京(外京)五条五坊・七・十 坪発掘報告	〃		
平城京左京三条四坊七坪発掘調査概報	奈良国立文化財研究所		

政所馬渡		別府大学付属博物館	梨久保遺跡 (1978・12)	岡谷市教育委員会
大分県上下田遺跡 発掘調査報告書	"	諒訪市大熊城址遺跡		諒訪市教育委員会
野間古墳群 橋尾・小池原貝塚	大分県教育委員会	唐沢		"
一大分文化財報告13—	熊本県菊池市教育委員会	弘法山古墳		松本市教育委員会
袈裟尾高塚古墳保存修理工事報告書	" 玉名市文化財保護委員会	県立松本工業高校遺跡		"
大坊古墳保存工事報告書	沖縄県恩納村教委	松本市新村安塚古墳群		"
仲泊遺跡 1977発掘調査報告書	"	松本市大村遺跡群柳田遺跡		"
" " 第3集	"	松本市和田衣外四目壇出土報告書		"
那覇市の文化財	那覇市教育委員会	あがたの遺跡		"
よせの台遺跡	茅野市教育委員会	中島遺跡		塩尻市教育委員会
下ノ原遺跡	"	史跡 平出遺跡 (S54年度)		"
与助尾根南遺跡	"	" (S55年度)		"
新水掛	和田村教育委員会	小段遺跡		"
男女倉	長野県考古学会	高田遺跡		"
下吹上	中央道遺跡調査会	男屋敷遺跡		"
中央道遺跡調査のあゆみ	長野県教育委員会	概報樋沢遺跡		"
長野県中央道埋蔵文化財 諒訪市その3 包蔵地発掘調査報告書	" 茅野市原村その1	歴史の道調査報告Ⅷ 千国道		長野県教育委員会
" 富士見町その2	"	借馬遺跡 I		大町市教育委員会
" 岡谷市その3	"	" II		"
" 諒訪郡その4	"	市道		佐久市教育委員会
" 岡谷市その3 茅野市原村その2	"	又久保		望月町教育委員会
" 茅野市原村その3	"	望月町遺跡詳細分布調査報告書		"
" 原村その4	"	尾崎第4号古墳・大塚第1号・第2号古墳		"
" 茅野市その4 富士見町その3	"	報告 野辺山シンボジウム1980		明治大学考古学研究室
" 岡谷市その4	"	" 1981		"
" 茅野市その5	"	八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書		長野県教育委員会
" 茅野市原村その2	"	下小平遺跡		佐久市教育委員会
" 原村その5	"	海善寺		東部町教育委員会
中央道建設地域内・国鉄複線化等開発地盤内埋蔵文化財発掘分布調査報告書	"	信濃国分寺跡 (第3次発掘調査)		上田市教育委員会
小池・宮城・神送塚	飯田市教育委員会	西光坊・向田II・石原遺跡 緊急発掘調査報告		"
開善寺境内遺跡	"	条里造構分布調査概報 (染屋台地区)		"
伊賀良中島平	"	他田塚古墳発掘調査報告書		"
伊賀良宮ノ先	"	条里造構分布調査概報 (神川東部地区・浦野川地区)		"
南原	駒ヶ根市教育委員会	上田市の原始・古代文化		"
荒神沢遺跡	"	塚穴原第1号古墳発掘調査報告書		"
伊那市富岩洞原古墳発掘調査報告	伊那市教育委員会	中井遺跡		"
歴史の道調査報告書Ⅷ(伊那街道)	長野県教育委員会	下前冲遺跡		"
赤坂	阿智村教育委員会	立丁場遺跡		"
伴野原遺跡群	豊丘村教育委員会	塩田城跡 (第2次) " (第3次)		"
伴野本田遺跡	"	閑口B		小諸市教育委員会
田村原丸山遺跡	"	三塚鶴田		佐久市教育委員会
始源第1号	豊丘考古学研究室	家地頭第1号古墳発掘調査報告書	"	"
" 第2号	"	上桜井北		"
" 第3号	"	蛇塚B		"
梨久保遺跡 (郷土の文化財6)	岡谷市教育委員会	北西久保		"
橋原遺跡 (" 12)	"			

五斗代 B	佐久市教育委員会	大室古墳群北谷支群緊急発掘調査報告書	長野市教育委員会
大井城跡	"	重文真田信之靈屋修理工事報告書	真田信之靈屋修理工事委員会
五輪堂遺跡	更埴市教育委員会	国指定史跡旧文武学校文学所外七棟と門・土塀修理工事報告書	長野市教育委員会
長野県森將軍塚古墳	"	屋地遺跡	日本窯業史研究所
屋代馬口 K	"	箱清水式土器（研究ノート4）	千曲川水系古代文化研究所
地下に発見された条里遺構の研究	長野県教育委員会		
立ヶ花城跡等緊急発掘調査報告書	中野市教育委員会		
栗林遺跡確認緊急調査報告書	"		
安源寺（II）	"		
行人塚古墳	須坂市教育委員会		
井上氏城跡	"		
橋場遺跡	"		
鍛冶田	飯山市教育委員会		
北原遺跡調査報告書	"		
岡峰遺跡第2次発掘調査報告書	"		
遺跡分布調査報告	"		
岡峰遺跡発掘調査報告	"		
北原遺跡	"		
宮中遺跡	"		
明導寺・茶臼山遺跡	牟礼村教育委員会		
矢筒城跡	"		
前田遺跡	"		
筏遺跡 I	小川村教育委員会		
信濃長原古墳群	長野市教育委員会		
連絡紙 信濃考古	長野県考古学会		
中部考古学会彙報 全	"		
長野県考古学会誌 1~6号	"		
信濃考古学会誌 全	"		
長野県埋蔵文化財白書	"		
史蹟名勝天然記念物調査報告	長野県教育委員会		
長野県埋蔵文化財発掘調査要覧 S41~46（その2）	"		
" S47~52（その3）	"		
編年中部高地における型式	千曲川水系古代文化研究所		
中村遺跡	長野市教育委員会		
塩崎遺跡群（1978.3）	"		
" (1979.3)	"		
三輪遺跡	"		
田中沖遺跡	"		
篠ノ井遺跡群	"		
四ツ屋・徳間・塩崎遺跡群	"		
湯谷古墳・長礼山古墳・駒沢新町遺跡	"		
箱清水・大塚・大清水遺跡	"		
浅川扇状地遺跡群	"		
大室古墳群分布調査経過報告書	"		
庭園都市 松代	"		
長野大室古墳群	"		

3 寄託・借用資料

〈昭和56・2月受入〉

名 称	員数	寄託・借用者
尖頭器	1	和田 実（豊野町）

〈7月受入〉

両耳付菱形土器	1	島田ちづ枝（信更町）
土器 片	2 箱	"
打製石斧	11	"
横刃形石器	5	"
スクレイパー	8	"
石 鎌	6	"
箱清水式土器大壺	1	穂苅綱夫（篠ノ井）
" 丹塗壺	1	"
埴輪円筒棺	1	川柳将軍塚保存会（篠ノ井）
湯ノ入遺跡出土壺	3	"
" 裹	5	"
" 浅鉢	1	"
" 梶	1	"
国鉄車輛基地遺跡出土壺	3	神保美見（中越）
" 裹	3	"
" 小形裹	2	"
" 甌	1	"
" 蓋	2	"
口留番所（覚一正徳3年）	1	鈴木守雄（小川村）
穀物通切手（木製）	1	"
馬通切手（木製）	1	"
和田英肖像画写真	1	和田一雄（町田市）
和田英自筆原稿六工社寄宿人名簿	4	"
富岡日記（続）一部清書	3	"
" 六工社創業2年目の春原稿	11	"
" 第2年目開業原稿	10	"
わが母の記原稿	7	"
御雇仏国人フムエナ条約書	16	"
写 真	2	"
宮崎遺跡出土土器・石器	1	宮下健司（篠ノ井）
善光寺道標	1	三才区
伝馬宿書出し（慶長16年9月3日）	1	本井弘己（若穂町）
川田宿並附近古図	1	"
み の	1	南部小学校

菅 笠	1	南部小学校	銅鉢石製模造品	1	小島貞雄(篠ノ井)
鉄なべ	1	"	子持勾玉	3	更級横田神社
押がま	1	"	土 錘	1	"
牛ぐつ	1足	"	カップ形土器(須恵器)	1	清野小学校
馬ぐつ	1足	"	獸脚付羽釜	1	寺尾小学校
すっぺそ	1足	"	平 瓦	2	田中繁躬(篠ノ井)
馬の轡	1	真島小学校	丸 瓦	2	"
和田英富岡日記	1	中沢 泉(桐原)	善光寺古瓦字瓦	1	善光寺事務局
" 六工社創立第1年の巻	1	"	" 鏑瓦	1	"
〈8月受入〉					
上ヶ屋 a 石器群	18	森嶋 稔(戸倉町)	六郡漂蕩之図	1	関川千代丸(三輪)
" b 石器群	16	"	彦神別神社遺跡之図	1	"
" c 石器群	14	"	善光寺本堂図面	1	"
" d 石器群	10	"	善光寺略絵図	1	"
神子柴型石斧	1	清水一男(松代町)	善光寺如来堂造営木寄帳	1	霜田常雄(中御所)
風字硯	1	"	善光寺如来堂木寄不足帳	1	"
道中笠	1	信田小学校	善光寺御用一巻	1	"
一升徳利	1	"	諸色入料勘定帳	1	若麻績千冬(元善町)
盃	1	"	文禄4年中氷鉈村下氷鉈村御検地帳	1	青木修一郎(稻里町)
(旧)尖頭器	1	"	山 車	1	西町上区
(平)古瓦(平・丸・鎧)	3	"	双体道祖神(石造)	1	相沢忠男(松代町)
(繩)垂玉	1	"	手 甲	1足	後町小学校
石 鐵	38	熊井恒雄(浅川)	背中当て	1	"
石匙(縦形3・横形3)	6	"	かつお節削り	1	"
石 錐	4	"	百人一首	1組	"
凹 石	2	"	紙 貧	5	"
打製石斧	3	"	花火打上用筒	1	篠ノ井西小学校
磨製石斧	4	"	辻 龍		倉石里美(栗田)
直 刀	5	浅川東条公民館	旗 印	1	柳島利雄(丹波島)
刀 子	6	"	柳島太目録(柳島太郎左エ門あて)	2	"
鉄 鐵	13	"	大久保石見守書状	1	"
簪	2	"	酒井忠勝家臣等連署手形	1	"
金 環	3	"	宛行状(柳島太郎左エ門あて)	1	"
勾 玉(めのう製)	2	"	定 書	2	"
管 玉	9	"	宛行状(柳島七之丞あて)	1	"
丸 玉	5	"	宛行状(柳島甚五郎あて)	1	"
ガラス玉(大)	12	"	加賀大守書状	7	"
" (小)	8	"	真田侯諱拝領	1	"
滑石製小玉	11	"	水野隼人正の書状	1	"
土 錘	1	浅川東条公民館	水帳(久保寺村)	1	"
伊勢宮遺跡出土扁平片刃石斧	1	塙崎文化財保存会	天和二年高田検地中日記	1	"
" 太形蛤刃石斧	1	"	真田昌幸書状	1	"
" 打製石斧	1	"	乗馬術伝授起請文	1	"
" 打製石包丁	3	"	諫訪出雲守請文	1	"
" 石鐵	3	"	閔所手形下附願書状	1	"
銅 鉢	1	小島貞雄(篠ノ井)	土井利勝書状	1	"
			尾張中納言書状	1	"

丹波島本陣問取図	1	柳島利雄(丹波島)	馬の鞍	1	信学会 民俗資料館
明治11年御巡幸ノ時御下賜料包紙	1	"	馬のあか取り	1	"
明治11年御巡幸ノ時御小休ノ札	1	"	馬のぶらし	1	"
田村騒動願書	2	峯村 司(小市)	あからぐつ	1	"
田村騒動記	1	"	深わらぐつ	1	"
煙火打上用筒木製 (大正5年)二尺玉用	1	長野市商工会議所	うそかけ	1	"
" 尺玉用	1	"	すっぺそ	1	"
春雷筒記録鉄(大正10年9月)	1	"	背負袋	1	"
木 鍬	1	信学会民俗資料館	いじこ	1	"
金 鍬	1	"	むしろ	3	"
まんが(馬鍬)	1	"	こも	1	"
くれ叩き	1	"	帳場机	1	"
苗 か ご	1	"	帳だんす	1	"
田草取機	1	"	結 界	1	"
めんば	1	"	大福帳	1	"
脱穀機(足踏み)	1	"	銭 箱	1	"
一斗枡	1	"	長火鉢	1	"
斗 棒	1	"	角火鉢(火箸・火かき付)	1	"
じょうご(俵づめ用)	1	"	タバコ盆(きせる付)	1	"
種浸し用麻袋	1	"	柱時計	1	"
箱 膳	4	"	竿ばかり	1	"
飯 櫃	1	"	ランプ	1	"
飯櫃入れ	1	"	こね鉢	1	"
水 桶	1	"	のし棒	1	"
柄 枠	1	"	はんぼう	1	"
せいろう(三重)	1	"	水のう	1	"
ほうろく	1	"	そば切包丁	1	"
鉄 びん	1	"	粉ふるい	1	"
片 口	1	"	平ざる	1	"
酒 德 利	1	"	とうじかご	1	"
一升徳利	1	"	木ぞり	1	"
醤油徳利	1	"	双 六	1	"
かぶと鉢	1	"	二塹の制札	1	"
わら細工台	1	"	寺小屋の手本	4	"
なわない機	1	"	真鍛やかん	1	"
たわら編機	1	"	どうこ付五徳	1	"
麻 か き	1	"	下駄の鼻緒	10	"
楮皮ちり取りざる	1	"	紙すき用かく拌棒	1	"
楮叩き棒	1	"			
紙すき棒(長大)	1	"	9月受入		
" (大)	1	"			
紙すき簣(長大)	1	"	妻科庚申講人別帳	1	井上 皎(妻科)
紙すき簣(大)	1	"	中庸章句大全 5冊中の1	1	松代小学校(松代町)
紙つけ板	1	"	論語集註大全	1	"
刷 毛	1	"	大学章句大全 5冊中の5	1	松代小学校(松代町)
楮 白 皮	1束	"	孟子集註大全	1	"
楮木から	1束	"	詩経伝説彙纂	1	"
皮かき台	1	"	めんこ丸型中	4	桜井群晃(川中島町)
馬のくつわ	1	"	" 丸型小	5	"
			" 長方形	5	"
			蛙打切り文書	1	大豆島区

蛙打切り文書 (慶長16年辛亥8月29日)	1通	"
蛙打切り文書(午8月4日)	1通	"

〈昭和57・3月受入〉

紅鉢	2	八田 勇(松代町)
すり鉢	2	"
餅つき杵	4	"
臼	1	"

〈4月受入〉

御祭札目印帳	1	上西之門町
--------	---	-------

〈昭和57・5月受入〉

異体字日月銘内行花文鏡他5面	6	布制神社(篠ノ井)
琴柱状石製品	2	"
勾玉	4	"
玉類	3	"
管玉	103	"
小玉	2通	"

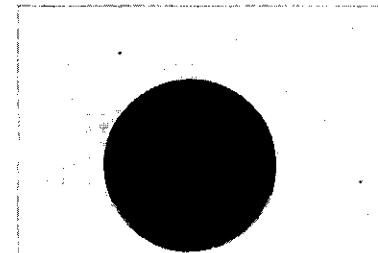
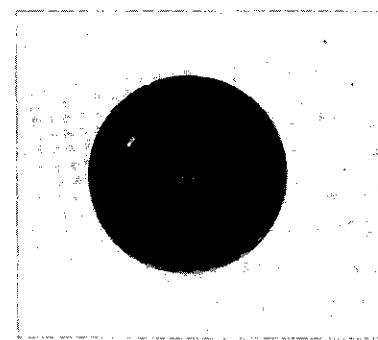
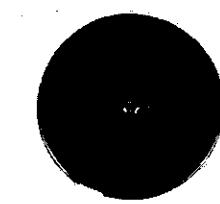
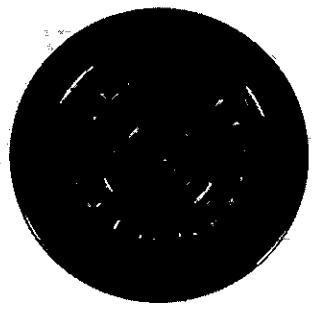
〈6月受入〉

笠鉢	1式	横沢町
まとい	1	"
横沢町目印	1	"
帳(岩下桜園等)	1対	"

尚、購入資料中図書にあっては、古書籍と新刊書が混在している。別離しなかったのは、これらがいずれも博物館資料としての価値を有することと、資料評価にあたっての重要な参考文献となり得ると考えられるからである。また古文書類・古書籍における購入についての基本方針は、前者において常設展示に関与するもの、郷土にかかわりをもつものを、後者にあっては県内における県史・郡誌史・市町村誌史を基盤としたものを選定することにしている。このほか現在においても各学界において基礎資料・原拠となっている書籍も購入の対象としている。

寄贈資料については、当館で整理できたものを記載したことは前文で述べたとおりである。これらの一冊を除き、そのほとんどが収蔵庫に収納され、将来の過去への文化的要求に答えるべき発言者として保管されている。また図書類においては、そのほとんどが、社会教育課を通していただいた。そのため寄贈者にたいして失礼な点があるかと思うが、刊行社名をもってこれにかえているのでお許しがたい。

(山口明・坂口清子・樋口良江)



川柳將軍塚古墳出土鏡鑑

IV 博物館工事・管理

現在の博物館の機能を発揮するまで、建物本体と環境整備に伴う様々な工事と委託事業等が実施された。その主なものを建物本体・展示関係・管理に分けて列挙する。ただし昭和57年度にあっては工事進行中であるので来年度の年報にゆずることにした。また下記についての工事監理費は含まれていないことをおことわりしておく。ちなみに昭和56年度までの工事関係費総額は2,175,104千円である。

1 博物館建物等建設工事

1) 建物主体

(1) 本 体

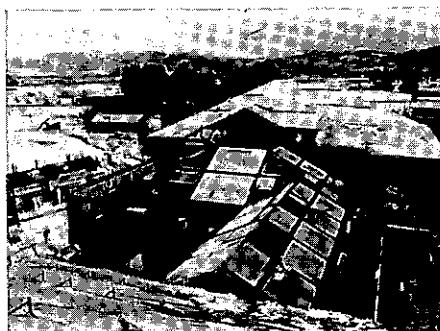
工 事 名	年 度	金 額(千円)
建物主体工事	55	1,131,000
建物基礎工事	"	27,700
建物主体増工事	56	2,230
回廊外構工事	"	39,500
ブラインド取付工事	"	885
計		1,201,315



本体工事

(2) 電 気

電気設備工事	55	133,000
昇 降 機	"	12,500
電気設備増工事(くん蒸室・ダムウェーター)	56	11,645
電気設備増工事(時計配管・避雷針)	"	8,150
ボタン電話設置工事	"	2,100
電気時計設置工事	"	1,680
収蔵庫照明その他工事	"	575
計		169,650



本体工事

(3) 給排水

給排水設備工事	55	72,600
給排水増工事(ハロンガス消防設備)	56	3,950
計		76,550



本体工事

(4) 空 調

空調設備工事	55	211,000
空調設備増工事(換気設備)	56	550
展示系統サーモ増設工事	"	925
計		212,475

(5) 処化槽

処化槽設備工事	55	19,000
排水管増設工事	56	7,480
計		26,480



本体工事

(6) その他付帯工事

放流堰補強工事	55	831
園路水路改修工事等	"	32,843
計		33,674

2 展示関係工事

工事名	年度	金額(千円)
プラネタリウム設置工事	55	58,700
地震体験機装置工事	"	49,500
天体観測ドーム工事	"	6,970
展示製作工事	56	339,500
プラネタリウム準備室整備	"	290
計		454,960



プラネタリウム

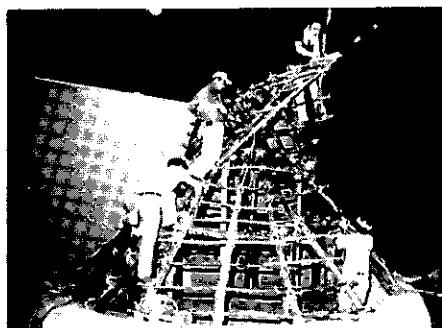
3 委託事業

1) 建物・施設設計等

事業名	年度	金額(千円)
設計競技	54	7,000
敷地地盤調査委託	"	1,245
建物用地水準測量委託	"	765
博物館設計委託	"	27,000
新築工事常駐委託	54~56	16,000
園路水路設計委託	56	2,680
ツツジ移植委託	"	99
回廊設計委託	"	1,200
園路水路補足設計委託	"	300
計		56,289



地震体験室



復元住居

2) 展示関係

展示設計委託	54	15,700
「町屋」実測調査委託	"	700
阿弥陀三尊像複製委託	"	4,650

石器づくりVTR製作委託	56	1,800
古文書等裏打ち表装委託ほか	"	4,435
館内案内サイン製作委託	"	6,000
プラネタリウム用ソフト製作委託	"	7,489
地震起震テープ製作委託	"	600
花火打上筒運搬委託	"	607
計		



かまと復元

名 称	年度	備 考
空調設備等管理委託	56~	職員2人常駐
し尿浄化槽管理委託	56~	月1回点検
清掃業務管理委託	56~	職員3名常駐
自家用電気保守点検	56~	月1回点検
エレベーター保守点検	56~	月1回点検
警備業務	56~	夜間総合警備
防火マットレンタル	56~	月2回取替
庭園管理	56~	年3回除草等
くん蒸業務	57~	年1回(1月第4週)
プラネタリウム保守点検	56~	年4回点検
ターボ冷凍機保守点検	56~	年4回点検
常設展示模型映像機器保守点検	57	年1回オバーホール



民家復元



山車復元



花火打上筒固定

V 事務報告

1 予 算

1) 昭和56年度

(単位千円)

項 目	本 年 度	前 年 度	比 較	本年度の財源内訳				節	
				特 定 財 源			一般財源	区 分	金 額
				国県支出金	地 方 債	そ の 他			
博物館費	90,443		0	90,443	0	0	10,223	80,220	(1)報酬 2,065 (2)給料 5,006 (3)職員手当等 3,706 (4)共済費 2,623 (7)賃金 11,993 (8)報償費 965 (9)旅費 980 (10)需用費 37,107 (12)役務費 2,101 (13)委託料 9,240 (14)使用料及び賃借料 180 (15)工事請負費 100 (16)原材料費 200 (18)備品購入費 14,150 (19)負担金補助及び交付金 27 (21)報酬 192 (3)職員手当等 50 (9)旅費 350 (10)需用費 287 (13)委託料 11,000 (14)使用料及び賃借料 375 (15)工事請負費 682,597 (18)備品購入費 66,400
博物館建設費	761,251	1,179,045	△ 417,794		0	297,500	0	463,751	

2) 昭和57年度

(単位千円)

項 目	本 年 度	前 年 度	比 較	本年度の財源内訳				節	
				特 定 財 源			一般財源	区 分	金 額
				国県支出金	地 方 債	そ の 他			
4.博物館費	186,586	90,443	96,143	0	0	19,928	166,658	(1)報酬 1,852 (2)給料 19,301 (3)職員手当等	

(4)共 濟 費	5,696
(7)賃 金	13,663
(8)報 償 費	1,434
(9)旅 費	854
(10)需 用 費	46,881
(12)役 務 費	7,755
(13)委 託 料	20,900
(14)使 用 料 及 び 賃 借 料	638
(15)工事請負費	43,650
(16)原 材 料 費	1,100
(17)公 有 財 產 購 入 費	7,538
(18)備 品 購 入 費	4,000
(19)負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	136
(20)公 課 費	9

2 入館者等

1) 天体学習室入館者数

内訳 月別	個 人			団 体			計	累 計	開館 日数	一日 平均
	一 般	高 校 生	小 中 学 生	一 般	高 校 生	小 中 学 生				
56年度										
9月							1,500	1,500	3	500
10月	831	50	773	107	0	140	1,901	3,401	9	211
11月	871	20	647	81	5	242	1,866	5,267	11	170
12月	163	6	184	20	0	0	373	5,640	8	47
1月	319	6	286	0	0	0	611	6,251	8	76
2月	421	6	305	8	0	67	807	7,058	9	90
3月	798	37	867	35	0	125	1,862	8,920	14	133
小 計	3,403	125	3,062	251	5	574	8,920	—	62	144
57年度										
4月	725	27	791	21	0	23	1,587	10,507	9	176
5月	1,134	28	1,035	79	0	281	2,557	13,064	12	213
6月	458	12	436	42	0	52	1,000	14,064	8	125
7月	480	18	329	80	55	20	982	15,046	9	109
8月	1,198	50	1,182	1	0	20	2,451	17,497	17	144
9月	514	16	508	140	0	204	1,382	18,879	10	138
10月	619	11	668	167	0	95	1,460	20,339	11	133
11月	458	6	404	112	0	49	1,029	21,368	10	103
12月	179	18	179	1	0	50	417	21,785	8	52
小 計	5,765	376	5,532	543	55	794	12,865	—	94	137
合 計	9,168	03	8,594	794	60	1,368	21,785	—	115	140

2) 常設展示室入館者數

内訳 月別	有料入館者數				無料入館者數				入館者累計			入館者 平均日數 平館者
	個	人	團	體	小計	小學	中學校	視察等	小計	入館者	開館日數	
56年度	一般	高校生	小中学生	一般	高校生	小中学生						
9月						0				13,015	13,015	7,1,872
10月	8,739	230	3,409	3,287	574	570	16,809	11	970	—	368	1,338
11月	6,535	146	2,037	3,705	5	350	12,778	5	351	—	344	695
12月	1,438	43	384	467	0	2	2,334	2	181	—	246	427
1月	2,148	44	715	83	0	0	2,980	—	—	—	132	132
2月	1,942	42	498	395	0	82	2,959	1	169	—	172	341
3月	4,046	218	1,903	396	0	152	6,715	1	118	1	61	54
小計	24,848	723	8,946	8,333	579	1,156	44,585	20	1,789	1	61	1,316
57年度												
4月	3,910	116	1,571	1,915	0	339	7,851	2	219	—	—	246
5月	6,161	228	2,712	1,987	6	2,011	13,105	16	1,235	2	715	71
6月	3,171	55	908	2,593	483	520	7,730	11	667	3	421	240
7月	3,254	76	756	3,001	109	607	7,803	11	628	1	40	456
8月	6,414	351	3,426	1,565	10	251	12,017	5	230	—	—	179
9月	2,722	72	874	2,692	0	405	6,765	7	401	—	—	142
10月	3,772	68	1,556	3,553	0	868	9,817	25	1,664	—	—	657
11月	2,678	26	672	1,916	0	88	5,380	4	249	—	—	67
12月	993	22	211	523	0	50	1,799	—	—	—	70	70
小計	33,075	1,014	12,686	19,745	608	5,139	72,267	81	5,293	6	1,176	2,128
合計	57,923	1,737	21,632	28,078	1,187	6,295	116,852	101	7,082	7	1,237	3,444
												24,778
												141,630
												—
												380
												9373

(豎岩百合子)

VI 稽 報

1. 博物館の概要

1) 長野市立博物館条例 (昭和56年3月28日)
(長野市条例第29号)

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2 第1項及び博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第18条の規定に基づき、長野市立博物館（以下「博物館」という。）の設置及び管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 自然科学及び人文科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に市民の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するとともに、これらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を長野市小島田町1414番地に設置する。

(管理)

第3条 博物館は、常に善良な管理者の注意をもつて管理運営するものとする。

(入館料)

第4条 博物館に入館しようとする者は、入館の際に別表第1に定める入館料（以下「入館料」という。）を納付しなければならない。

2 特別な展示等の場合は、前項の規定にかかわらずその期間に限り、長野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は入館料を増額することができる。

(特別展示室の使用等)

第5条 展示発表等のため、博物館の特別展示室（以下「展示室」という。）を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者（以下「使用者」という。）が継続して展示室を使用できる期間は、30日を限度とする。ただし、教育委員会が特別な理由があると認めるときは、この限りでない。

(使用料)

第6条 使用者は、別表第2に定める使用料（以下「使用料」という。）を納付しなければならない。

(入館料等の減免)

第7条 教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の還付)

第8条 既に納付された入館料又は使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別な理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(資料の特別利用等)

第9条 博物館の資料の特別利用等については、教育委員会が別に定める。

(入館等の制限)

第10条 教育委員会は、次の各号の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(賠償責任)

第11条 故意又は過失により博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第12条 法第22条第1項の規定に基づき、長野市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

- 2 協議会の委員（以下「委員」という。）の数は、10人以内とする。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選とする。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第14条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会長は、協議会の会議の議長となる。
- 4 議事は、出席委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委任)

第15条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和56年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

区分	常設展示		プランタリウム	
	個 人	団体(20人以上の 場合)1人につき	個 人	団体(20人以上の 場合)1人につき
一般	円 200	円 160	円 100	円 80
高校生	100	80	50	40
小・中学生	50	40	30	20

別表第2（第6条関係）

区分	1日当たりの使用料
入場料等を徴収しない場合	4,000円
入場料等を徴収する場合	8,000

備考

- 1 入場料等とは、使用者が入場者から徴収する入場料、会費、その他これに類するもののをいう。
- 2 展示室の一部を使用する場合の使用料は、使用する面積により、1日当たりの使用料の金額を基準として算出し、100円未満の端数があるときはこれを切り上げる。
- 3 冷暖房費は、実費を徴収する。

2) 長野市立博物館条例施行規則（昭和56年3月31日）
長野市教育委員会規則第10号

改正 昭和56年7月8日 教委規則第14号
昭和56年9月17日 教委規則第15号 | 昭和57年3月30日 教委規則第8号

（趣旨）

第1条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第33条第1項及び長野市立博物館条例（昭和56年長野市条例第29号）第15条の規定に基づき、長野市立博物館（以下「博物館」という。）の組織運営、管理及び処務に関し、必要な事項を定めるものとする。

（係の設置）

第2条 博物館に、次の係を置く。

- (1) 庶務係
- (2) 学芸係
- (3) 事務分掌

第3条 各係の分掌事務は、次のとおりとする。

庶務係

- (1) 博物館の庶務に関する事。
- (2) 公印の管守に関する事。
- (3) 博物館協議会に関する事。
- (4) 博物館の予算に関する事。
- (5) 施設の維持管理に関する事。
- (6) 入館者の受付及び案内に関する事。
- (7) 入館料及び使用料等の収納に関する事。
- (8) 他の係の分掌に属さない事。

学芸係

- (1) 資料の収集、保管、展示及び利用等に関する事。
- (2) 資料の専門的、技術的調査研究に関する事。
- (3) 資料の解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の刊行に関する事。

- (4) 講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- (5) 文化財の学術調査に関すること。
- (6) その他学芸事務に関すること。

(職員の職)

第4条 博物館に、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条の規定による館長、学芸員のほか、必要に応じて次の職を置く。

- (1) 副館長
 - (2) 係長
 - (3) 学芸員補
 - (4) 博物館主事・博物館主事補又は主事・主事補
- 2 前項に掲げる職のほか、必要に応じて主幹及び主査、主任を置くことができる。

(職務)

第5条 館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

- 2 主幹は、上司の命を受けて、特定の事務を処理する。
- 3 副館長は、館長の職務を補佐し、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 4 係長は、上司の命を受けて、館務を分掌し、係員を指揮監督する。
- 5 主査は、上司の命を受けて、特定の事務を処理する。
- 6 主任は、係長の命を受けて、事務の一部を分担処理する。
- 7 学芸員及び学芸員補は、上司の命を受けて、法第4条第4項に規定する職務に従事する。
- 8 博物館主事・博物館主事補又は主事・主事補は、上司の命を受けて、分担事務に従事する。

(専決事項)

第6条 館長の専決事項は、次のとおりとする。

- (1) 職員の事務分担に関する事。
- (2) 職員の在勤地内旅行に関する事。
- (3) 職員の年次休暇に関する事。
- (4) 職員の勤務を要しない時間の指定に関する事。
- (5) 職員の時間外勤務に関する事。
- (6) 許可、取消し等に関する事。ただし、異例又は長期にわたるものを除く。
- (7) 通知、照会、回答、報告、申請、証明等に関する事。ただし、異例のものを除く。
- (8) 施設及び資料の貸与に関する事。ただし、異例又は長期にわたるものを除く。

(代決)

第7条 館長が不在のときは、主幹を置く場合にあつては主幹が、館長、主幹とともに不在のとき又は主幹を置かない場合にあつては、副館長がその事務を代決する。

(開館時間)

第8条 博物館の開館時間は、次のとおりとする。ただし、館長が特に必要と認めるときは、これを変更することができる。

午前9時から午後4時30分まで

(休館日)

第9条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、館長が特に必要と認めたと

きはこれを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（元日を除く。）の翌日
- (3) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで
- (4) 館内くん蒸期 1月第4週の1週間
（特別展示室の使用許可）

第10条 特別展示室を使用しようとする者は、あらかじめ長野市立博物館特別展示室使用許可申請書（様式第1号）を教育委員会に提出しなければならない。
（入館料等の減免）

第11条 入館料又は使用料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、長野市立博物館入館料減免申請書（様式第2号）又は長野市立博物館特別展示室使用料減免申請書（様式第3号）を教育委員会に提出しなければならない。
（資料の特別利用）

第12条 学術上の研究のため、資料を特別に利用しようとする者は、あらかじめ、長野市立博物館資料特別利用許可申請書（様式第4号）を教育委員会に提出しなければならない。
（資料の館外貸出し）

第13条 他の博物館、図書館、学校その他教育委員会が適当と認めたものは、資料の館外貸出しを受けることができる。

- 2 資料の館外貸出しを受けようとする者は、長野市立博物館資料館外貸出許可申請書（様式第5号）を教育委員会に提出しなければならない。
 - 3 資料の館外貸出期間は、30日を限度とする。ただし、教育委員会が特別な理由があると認めるときは、この限りでない。
- （資料の寄贈及び寄託）

第14条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈しようとする者は、長野市立博物館資料寄贈書（様式第6号）を、資料を寄託しようとする者は、長野市立博物館資料寄託書（様式第7号）を教育委員会に提出するものとする。

（資料等の破損、滅失）

第15条 館長は、博物館の資料、施設等が破損し、又は滅失したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（防災及び警備）

第16条 館長は、防災及び警備の計画を作成し、その職務を遂行しなければならない。

（事業計画及び事務報告）

第17条 館長は、毎年度末までに、次年度における事業計画を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

- 2 館長は、博物館の事業について、毎年度終了後1箇月以内に、前年度における事業概要を教育委員会に報告しなければならない。

（補則）

第18条 この規則に定めるもののほか、職員の勤務、事務の処理その他の事項は、教

育委員会事務局の例による。

附 則

この規則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則 (昭和56年7月8日教委規則第14号)

この規則は、昭和56年7月19日から施行する。

附 則 (昭和56年9月17日教委規則第15号)

この規則は、昭和56年9月24日から施行する。

附 則 (昭和57年3月30日教委規則第8号)

この規則は、昭和57年4月1日から施行する。

長野市立博物館特別展示室使用許可申請書						
長野市教育委員会 殿		年	月	日		
申請者住所						
(団体名)						
代表者氏名	㊞					
(連絡方法) 電話	—					
下記のとおり使用したいので申請します。						
記						
室名	特別展示室					
使 用 日 時	年	月	日	()午 時	時	分から 延 使用期間
使 用 目 的	年	月	日	()午 時	時	分まで 日間
入 場 料	徴収する（最高額			円）	徴収しない、	
使 用 人 員						
(備考)						

※ 継続使用の場合は備考欄に日程等の説明を詳細に記入のこと。

様式第2号（第11条関係）

長野市立博物館入館料減免申請書			
年	月	日	
長野市教育委員会		殿	
申請者住所			
(団体名)			
代表者氏名	(印)		
(連絡先) 電話	—		
下記のとおり博物館特別展示室の使用料の減免を受けたいので申請します。			
記			
減免を必要とする理由			
入館年月日	年	月	日()
在館時間	午時	分から午時	分まで
入館人員			
引率者氏名			
減免の額	円		

様式第3号（第11条関係）

長野市立博物館特別展示室使用料減免申請書							
年	月	日					
長野市教育委員会		殿					
申請者住所							
(団体名)							
代表者氏名	(印)						
(連絡先) 電話	—						
下記のとおり博物館特別展示室の使用料の減免を受けたいので申請します。							
記							
減免を必要とする理由							
使用期間	年	月	日()午時	年	月	日()午時	分から 分まで
利用人員							日間
減免の額							人

様式第4号（第12条関係）

長野市立博物館資料特別利用許可申請書																																																											
年 月 日					年 月 日																																																						
長野市教育委員会 股					長野市教育委員会 股																																																						
申請者住所 _____					申請者住所 _____																																																						
氏名 _____ ㊞					(団体名) _____																																																						
(連絡先) 電話 -					代表者氏名 _____ ㊞																																																						
下記のとおり博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。																																																											
記																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">利 用 目 的</th> </tr> <tr> <th>利 用 期 間</th> <th>年 月 日から 年 月 日まで</th> <th>貸 出 期 間</th> <th>年 月 日から 年 月 日まで</th> <th>利 用 場 所</th> <th>利 用 方 法</th> <th>記 号・番 号</th> <th>品 名</th> <th>数 量</th> <th>記 号・番 号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利 用 資 料</td> <td>記号・番号 品名 数量</td> <td>備考</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>貨 出 資 料</td> </tr> <tr> <td>利 用 内 容</td> <td><input type="checkbox"/> 模写 <input type="checkbox"/> 摘影 <input type="checkbox"/> その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>輸 送 方 法</td> </tr> <tr> <td>その他の参考事項</td> <td colspan="9"></td> </tr> </tbody> </table>										利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	貸 出 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	利 用 場 所	利 用 方 法	記 号・番 号	品 名	数 量	記 号・番 号	利 用 資 料	記号・番号 品名 数量	備考							貨 出 資 料	利 用 内 容	<input type="checkbox"/> 模写 <input type="checkbox"/> 摘影 <input type="checkbox"/> その他								輸 送 方 法	その他の参考事項									
利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的																																																			
利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	貸 出 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	利 用 場 所	利 用 方 法	記 号・番 号	品 名	数 量	記 号・番 号																																																		
利 用 資 料	記号・番号 品名 数量	備考							貨 出 資 料																																																		
利 用 内 容	<input type="checkbox"/> 模写 <input type="checkbox"/> 摘影 <input type="checkbox"/> その他								輸 送 方 法																																																		
その他の参考事項																																																											

様式第5号（第13条関係）

長野市立博物館資料館外貸出許可申請書																																																											
年 月 日					年 月 日																																																						
長野市教育委員会 股					長野市教育委員会 股																																																						
申請者住所 _____					申請者住所 _____																																																						
(団体名) _____					(団体名) _____																																																						
代表者氏名 _____ ㊞					(連絡先) 電話 -																																																						
下記のとおり博物館資料の館外貸出しを受けたいので申請します。																																																											
記																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">利 用 目 的</th> </tr> <tr> <th>利 用 期 間</th> <th>年 月 日から 年 月 日まで</th> <th>貸 出 期 間</th> <th>年 月 日から 年 月 日まで</th> <th>利 用 場 所</th> <th>利 用 方 法</th> <th>記 号・番 号</th> <th>品 名</th> <th>数 量</th> <th>記 号・番 号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利 用 資 料</td> <td>記号・番号 品名 数量</td> <td>備考</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>貨 出 資 料</td> </tr> <tr> <td>利 用 内 容</td> <td><input type="checkbox"/> 模写 <input type="checkbox"/> 摘影 <input type="checkbox"/> その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>輸 送 方 法</td> </tr> <tr> <td>その他の参考事項</td> <td colspan="9"></td> </tr> </tbody> </table>										利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	貸 出 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	利 用 場 所	利 用 方 法	記 号・番 号	品 名	数 量	記 号・番 号	利 用 資 料	記号・番号 品名 数量	備考							貨 出 資 料	利 用 内 容	<input type="checkbox"/> 模写 <input type="checkbox"/> 摘影 <input type="checkbox"/> その他								輸 送 方 法	その他の参考事項									
利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的		利 用 目 的																																																			
利 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	貸 出 期 間	年 月 日から 年 月 日まで	利 用 場 所	利 用 方 法	記 号・番 号	品 名	数 量	記 号・番 号																																																		
利 用 資 料	記号・番号 品名 数量	備考							貨 出 資 料																																																		
利 用 内 容	<input type="checkbox"/> 模写 <input type="checkbox"/> 摘影 <input type="checkbox"/> その他								輸 送 方 法																																																		
その他の参考事項																																																											

様式第6号（第14条関係）

様式第7号（第14条関係）

長野市立博物館資料寄贈誓

年 月 日

長野市教育委員会 殿

申込者住所 _____
 (団体名) _____
 氏名 _____ ㊞
 (連絡先) 電話 _____

下記のとおり資料を寄贈いたします。

記

品名	数量	年月日から年月日まで
寄託資料		(備考)

長野市立博物館資料寄託誓

年 月 日

長野市教育委員会 殿

申請者住所 _____
 (団体名) _____
 氏名 _____ ㊞
 (連絡先) 電話 _____

下記のとおり資料を寄託いたします。

記

寄託期間	年月日から年月日まで

(備考)

3) 建物概要

- ① 建設位置 長野市小島田町1,414番地八幡原史跡公園内
- ② 敷地面積 95,000m²
- ③ 建築面積 5,206.9m²
- ④ 延床面積 7,144.7m²・回廊 96.5m²
- ⑤ 建築構造 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨鉄筋コンクリート造・地下1階地上3階一部4階・軒高16.2m・最高19.1m
- ⑥ 主　室
 - 1号館：常設展示室(1・2階)・教室・相談室・収蔵庫・事務室・機械室・エレベーターほか(2,992.5m²)
 - 2号館：特別展示室・収蔵庫(1・2階)・消毒室・研究室・実験室・会議室・工作室・プラネタリウム・天体観測室・館長室・学芸員室・管理室・救護室・機械室ほか(4,152.2m²)
- ⑦ 建　物
 - 1) 主外装 壁：合板型枠打放しコンクリート研り仕上
屋根：耐候性高張力鋼板平ふき
建具：アルミ製建具・耐候性高張力鋼加工サッシ
 - 2) 主内装 床：床用レンガタイル・カーペット敷・塩ビタイル
壁：化粧合板打放しコンクリート・一部研り仕上プラスチック・合板S.C.L
天井：格子天井・岩綿吸音板
- ⑧ 設　備
 - イ　電　氣 受電々圧 6,600V 60Hz
主変圧器 3相 200KVA 2台・20KVA 1台・単相 75KVA 2台 100KVA 1台
自家発電 100KVA (ディーゼルエンジン)
蓄電池 キューピクル式200AH
TV共聴設備
 - ロ　防　災 自動火災報知設備・非常放送設備・非常照明設備・非常警報設備・ハロゲン消火設備・防犯設備・避雷設備
 - ハ　衛　生 給排水設備・給湯設備・受水槽40m³・高架水槽10m³・屋内消火栓設備
 - ニ　空　調 単一ダクト方式
ターボ冷凍機2基 362,000kcal/h・蒸気ボイラーニー2基 477,000kcal/h・熱交換器2基・自動制御・電子制御方式(中央監視)・空気調和器・ハンドリングユニット水平型(163,000CMH)
 - ホ　昇　降　機 身体障害者乗用エレベーター1台・750kg(油圧バックプランジャー式)
 - ヘ　ダムウェーター 小荷物ダムウェーター200kg(電動式)
 - ト　浄化槽設備 合併処理方式 345人槽 32m³/日
 - チ　くん蒸機 酸化エチレンガス滅菌装置
 - リ　電　話 ボタン式電話
 - ヌ　時　計 親時計2回線 子時計17台
- ⑨ 工　期
 - 着工 昭和55年4月 完成 昭和56年5月

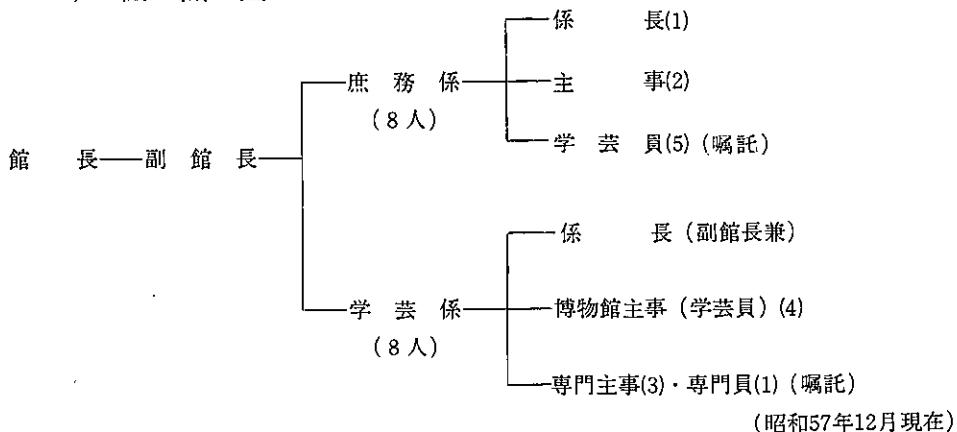
2 長野市立博物館協議会委員名簿

職 名	氏 名	備 考
会 長	花 岡 直 一	文化高校々長
副 会 長	小 出 ふみ子	長野市文化芸術協議会副会長
委 員	浅 川 欽 一	長野市文化財保護審議会委員
"	倉 田 稔	小田切中学校教頭
"	小 林 計一郎	長野郷土史研究会々長
"	佐 藤 進	信州大学教育学部助教授
"	島 坦	信州大学工学部教授
"	中 島 正 美	元長野県教育次長
"	矢 汗 順 忠	真田宝物館々長
"	米 山 一 政	長野市文化財保護審議会々長

(任期 昭和57年9月25日から2年)

3 組 織

1) 組織図



2) 職 員

館 長 掛川一夫

(非常勤)

副館長 山口純一

(主幹)

庶務係長 小島忠男

主事 和田一

" 竪岩百合子

学芸員(嘱託) 水品紫乃

" 大林育葉

" 坂口清子

" 樋口良江

" 倉嶋千智

学芸係長 (山口純一)

博物館主事 矢口忠良

" 山口明

" 大蔵満

" 青木和明

専門主事(嘱託) 藤森治幸

" 和田博

" 倉島平吾

専門員(嘱託) 西川昭史

(昭和57年12月現在)

(和田一)

[付]

常設展示の構成

和田博

常設展示は、本文の事業報告の項で記したとおり、「長野盆地」から「長野市とその周辺」まで22の主題をもとに1418点の展示資料を年代・時期順にまとめてある。

ここに展示資料と述べたのは、個々の品物をただ並べているのではなく、その背景や組み合せが語る意味を展示内容としている、言いかえれば見て考える展示に力点を置いているからである。

この観点から展示構成を構造化する必要が生まれ、博物館が生涯教育の場として注目されていくほど大切な立場になる。

以下、展示細部については、常設展示概説にゆずるとして、構成の立場や構造化への配慮などについて若干ふれてみたい。

(1) 自然と人との結びつき

展示は自然から入り、「長野盆地（善光寺平）」「姿を変える大地」と主題を展開する過程で、自然と人間生活との関係にふれた。

考古・歴史・民俗の展示では、地域の人々は動植物やそれらを左右する気候・地形など、自然環境に密着した生活を生み育て積み重ねている、言いかえれば人々のくらしは自然との対応において成立していることを基底にすえている。展示終末の「自然と共に」「長野市とその周辺」では、自然分野とは逆に人々の生活を中心をおいて、現在ばかりでなく将来への期待をも含めて、人と自然との結びつきを主眼においている。

以上要するに、自然から出発し、自然に培つて人間生活を築いた知恵の展開として郷土の生い立ちをとらえ、再び自然に帰着するとの発想を展示の基底に一貫させている。

(2) 自然分野の展示

展示最初の主題「長野盆地」では、中央に長野市と周辺の立体地形模型を置き、正面に戸隠山、右に発展する長野中心市街の写真、左に盆地の生いたちのスライドを配し、地層や化石で補足説明している。そして地域の大地は人々がそこに生まれ育ち、さまざまな生活を開き、歴史をきり開いてきた生活の基盤であり歴史の舞台で、血につながり心につながるふるさととして、以下に展開する対象領域を示している。

エントランスロビーにある飯綱山を抽象した現代彫刻が「場（フィールド）」と名付けられているのはそのイメージであり、同時に学習の場であることも示唆している。つまり、地形模型をとりまく資料は郷土の過去・現在・未来を象徴すると共に、知性・感性・悟性的把握をも意図しており、展示に重層的把握への配慮もあることを意味している。

盆地生いたちのスライドを受けて、動物化石は海退陸化の経過に応じて配列し、気候の変化を示す植物化石を対比的に展示したがこの展示意図を解説していないのは、入館者それぞれの学習の成熟度に応じた自由な学習・思考を期待しているからにはかならない。自然の第2主題「姿を変える大地」は、火山の活動・ゆれ動く大地・洪水と治水・地すべりで構成している。地形の生いたちとの関連から“火山の活動”を最初にした。ここでは地域に限定せずより広い視野から第四紀火山を抽出して、山容・噴火の様相・溶岩流等の特色を溶石の粘性に求め、その視点から噴出物も配列してある。

この主題では地震を典型学習として重点にし、洪水や地すべりへの学習の転移を配慮している。“ゆれ動く大地”は、善光寺地震・松代群発地震・地震と温泉・地震観測所・地震体験室を組み合せることによって、悲惨な災害をもたらす地震の被害を最少限にするために、予知や防災の研究が進められているが、万一の際にはひとりひとりの正しい対処が大切であるとの目標達成をねらっている。地震体験室では、宮城県沖地震などのデーターを用いて実際のゆれを再現し、視聴覚教具を併用して、前述のねらいの体験的把握を試みた。

ともすれば現代生活の使用に耐えなくなった古物を並べて、過去をふりかえる懐古趣味を満足させるに過ぎない展示に陥り易い弊害を脱却し、学習の成果を明日に生きて働く力として積極的に発動させ得ることを期待して、このような展示構成を設定している。

(3) 考古学分野の構成

自然に視点をおいた展示から異次元へのスムースな転換のため、通路壁面に人類の進化をアレンジして意識における非連續の連続を試みた。

通路から近づく物音に首を上げたヘラジカの背後に、突槍を持ってせまる旧石器人の飯綱原での狩りの想像図を配して最古の狩人を登場させ、以下人々の生活を主体的に展開する。

この分野は「はじめての人影」「狩りと採集の社会」「稻作のムラ」「シナノ（科野）の誕生」「信濃国の成立」の5主題に構成してある。ここに展示した石器や土器その他の資料は、長

年にわたる発掘調査研究の成果であり、これらの中には、個体としても学術的あるいは芸術的にも貴重な価値を有するものが数多く含まれている。しかし物を媒介として人々の生活とその展開を展示する立場から、例えば弥生時代は中期を“弥生人のくらし”後期を“箱清水文化の広がり”としてとらえ、さらに波及期・栗林期（確立期）・吉田期（発展期）・箱清水期（爛熟期）のように時期別に分け、代表的遺跡ごとに住居跡や発掘状況写真その他を添えて出土品をセットで示し、各期の特質や発展が明らかにされるようにした。また、石器の作り方のVTR（旧石器時代）・生活暦（縄文時代）・収穫の秋のジオラマや竪穴住居の復元（弥生時代）・祭祀の想像図（古墳時代）など、展示した用具を作り出しそれを使って営んだ生活様相をわかりやすくする配慮もした。さらに、“おそれと祈り”“祭りと墓”“神々への願い”的展示を通して、自然の力が絶大であり生命が神秘のベールにおおわれていた当時、恐れ祈り願いが生活に占めていた意味や比重を考え、形而上下の生活を統一体としてとらえることによって始めて当時の人々の生き方にせまることができよう。美しい赤色塗彩土器に代表される箱清水文化、首長墳墓の盆地南部周辺への集中、合掌型石室をもつ積石塚古墳の数多い存在など、地域的特色を展示してその意味探求への意欲を喚起してある。

「信濃国の成立」では、中央史料と地方史研究及び考古学的調査の接点を“中央とのつながり”“奈良平安時代の社会”として、すずりと文字等を手掛りとして当時の郷土の文化的様相を明らかにしようとした。

なおこの終末に白瓷の藏骨器等を展示して階上への橋渡しとしてある。

(4) 歴史分野の展示構造

階上の展示は「右善光寺」の道標で始まる。「善光寺とその信仰」は古代の仏教伝来から鎌倉・江戸時代の善光寺再建を契機とした興隆期の信仰普及とその背景を骨子としている。

この主題の“仏教の伝来”を受けて、市内の著名な木彫立像仏を選んで「慈悲のまなざし」として紹介し、これらの仏を勧請した往時の氏族に目を転じて「地方武士の争い」にまとめた。ここでは甲冑刀剣類を展示する通俗手法を排し、原史料よりわかりやすくするために分布図等の二次的資料を活用した。要するに、善光寺興隆の原動力ともなった源頼朝をはじめ、北条氏・徳川氏ら中央武将の姿は、そのまま地方武士に反映した。彼等は絶えず中央での争乱に巻き込まれ血ぬられた争いの一方で、仏を勧請しその加護を祈って止まなかった。そのような内面性と外面性との矛盾を「慈悲のまなざし」「地方武士の争い」の対比的展示で象徴し、その典型を川中島の戦における信玄・謙信両雄にとらえた。

「川中島の戦い」は文書と3面マルチのスライドで戦乱の概要を説き、近世の錦絵で補足した。文書は特に願文に焦点をあてて展示してあるのは上述の主旨によっている。力が正義であった当時、生きることに全生命を燃やした武士たちにとって、仏といくさは生きのびるためのあがきであり、時代に生き時代を支え、時代を切り開いた人々にとって、生きるとは何かを求めてやまなかつた苦悩の矛盾的自己同一であったことを展示構成の基底としている。そうして、生き甲斐とは何かを考える契機を展示に見出し得たらとの念願を全体の背景に秘めていることを特筆しておきたい。

近世の展示は次のようにとらえてある。幕藩体制が整う中で、村のしくみも確立し取締まりも強化されて、時には農民の反発もあった。体制確立に整備された街道も庶民の利用が次第に増加し、産業の振興と相俟って交易や流通が盛んになってきた。このような活力がやがて旧体制を破って、殖産興業・文明開化への奔流となつていった地域の推移を、オムニバス形式で示した。

なお、真田宝物館の展示も考えあわせて、主として村方文書等を資料とした。また年代によって多少の相異はあるが、この地域には各大名領・寺社領・天領・旗本領が入りまじっているので、対象は主として真田氏治下の松代領においていた。

(5) 民俗分野の展開

「農村のくらし」では農家・米づくり・わら利用・祈りと楽しみに焦点をあてて農村の人々の生きぬく姿を描こうとした。農家は近世からの山村と平坦地農村との較差を背後に秘めて、江戸後期の名主の家を山間地域から移築し、室内情況は明治・大正期を復元して親近感を配慮した。身近かな資材を利用した屋根、生産空間が居住区と同居している山間地の特徴に着目して、自然環境に対応し農閑期もなく働いた人々の生活に気づいてほしい展示である。生産過程を追って展示した各種農器具には、終戦後まで用いられた身近かな存在も多いはずである。生産や生活用具としてのわら製品には、自給自足したものも多く、製作や使用経験者も少なくはあるまい。

村の広場やはざれに、今ではひっそりと取り残されている石仏たちは、仕事に追われていた村人のささやかな祈りと願いの対象であり、心の救いでもあった。オカノエや村祭り・どんど焼きは生産に明け暮れた人々の楽しみであったことを想起し、農村の変容と共に捨て去られ行く民俗文化財への関心を喚起したい一角も設けた。

このような村の子供は手づくりの遊びの中で社会生活のきまりを身につけた。それは町の子についても同じである。

地域の特産物や農村の必需品を仲介した流通機構は、人々や物資集散に便利な善光寺町に発達し、模型を見て「お城のようだ」と印象を口にした人もある程の商家が成立した。流通経済力の大きさ、それによる町の繁栄とともに、祇園祭りやえびす講がはなやかに繰り広げられたことを屋台と煙火に託した。

展示室の出口で振り返えるとき、巨大な煙火筒近くに見上げるきらびやかな屋台と、前方の萱葺の農家や農具との対比は、どのように映じるであろうか。そして第1次産業から第3次産業中心へと変化する現代の社会相をそこに重ね合せて、明日をどのようにイメージするであろうか。

以上展示に込めた意図を記したが、舌足らずを多々感じる。展示設定にあたってご指導ご教示をいただき、ご好意ご協力を寄せくださった方々に深い感謝を申しあげ、力不足で不充分な点については次の展示替えに期したい。

年 報 VOL. 1

—昭和56年4月～昭和57年12月—

発行 昭和58年3月20日

編集 発行 長野市立博物館

長野市小島田町八幡原史跡公園内

☎ 0262 (84) 9011

印刷 ほおづき書籍株式会社

